仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調查(2) 概要報告書

2006年3月

仙台市教育委員会 仙台市交通局

仙台市文化財調查報告書第302集

仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2) 概要報告書

2006年3月

仙台市教育委員会 仙台市交通局

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろから多大なご協力を賜り、まことに感謝 にたえません。

さて、当市では、暮らしやすく環境にやさしい新しい都市づくりを進めるため、軌道系 交通機関を機軸としたまとまりのある集約型の市街地形成への転換を図っており、その主 要な施策として、高速鉄道東西線プロジェクトを進めております。今回の発掘調査はそれ に伴う確認・試掘調査で昨年度に続く2年次のものです。調査は昨年同様に計画路線のな かの川内地区・西公園地区を中心に行われ、近世を主とする貴重な成果が得られました。

先人の残した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ次の世代に継承していくことは、現代に生きる私たちの大きな責務であると考えております。また、文化財の保護につきましては、地域の皆様の深い御理解と御協力が必要となります。その意味でも、今回の調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、多くの方々に活用されれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行に際しまして、御協力ください ました皆様に深く感謝を申し上げる次第です。

平成18年3月

仙台市教育委員会 教育長 奥山 恵美子

- 1. 本書は、高速鉄道東西線建設事業及び都市計画道路川内旗立線(川内工区)の建設に伴い実施された、埋蔵文化 財の確認・試掘調査の概要報告書である。
- 2. 発掘調査は、国際航業株式会社が仙台市教育委員会の委託を受け、仙台市教育委員会の指導監督のもとに行った。
- 3. 本書の作成・編集・執筆は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 佐藤甲二の指導のもとに、国際航業株式会社 竹内俊之・山崎良二・土橋尚起・守谷健吾が担当した。
- 4. 調査及び報告書作成にあたり、下記のデジタル機器・ソフトウェアを使用した。 測量・遺構計測 ブルートレンド (福井コンピュータ)、遺物写真実測 オルソイメージャー (国際航業)、 遺構図・遺物実測図編集 フォトショップ・イラストレーター (アドビシステムズ)
- 5. 本調査の実施及び報告書の作成に際し、次の諸氏・機関よりご指導、ご教示、さまざまな御協力を賜った。記して敬意を表す次第である。(敬称略順不同)。

藤沢 敦・高木暢亮・柴田恵子(東北大学埋蔵文化財調査研究センター) 松本秀明(東北学院大学) 野中奈津子(東北大学大学院) 佐藤 洋(仙台市博物館) 早坂義雄(宮城県樹木医会) 東北大学 仙台市交通局 仙台市建設局 仙台市天文台 仙台市青葉区建設課 (財) 仙台市公園緑地協会

6. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡

- 1. 本書の土色は、新版標準土色帳(農林水産省農林水産技術会議事務局1998版)に準拠している。
- 2. 本書中の第1図は国土地理院発行の5万分の1地形図「仙台」と1万分の1地形図「青葉山」「仙台駅」を 合成した。第2図は2万5千分の1地形図「仙台西北部」を使用した。
- 3. 図中の座標値は日本測地系座標を使用した。
- 4. 本文図版等で使用した方位はすべて真北で統一してある。
- 5. 標高値は、海抜高度 (T.P.) を示している。
- 6.遺構図は1/60縮尺を基本とした。その他については各図のスケールを参照されたい。
- 7. 基本層の表記はアスファルト舗装を除き、表土層からローマ数字を用い、遺構堆積土についてはアラビア数字で表記した。遺構確認面を実線で、遺構が確認された層準を ◆ で表記した。
- 8. 基本層序柱状図は▽を中心にした壁の基本層で合成した。
- 9. 遺構名の略称としてSK:土坑、SD:溝跡、P:ピット、SX:性格不明遺構を使用した。
- 10. 遺構図において、 は撹乱の範囲、 「S」は礫を示している。
- 11. 遺物の登録・整理及び報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。

A:縄文土器 F:丸瓦・軒丸瓦 G:平瓦・軒平瓦 H:その他の瓦 I:陶器・瓦質土器・土師質土器 J:磁器 K:石器・石製品 N:金属製品 O:自然遺物 P:土製品 X:その他の遺物

- 12. 遺物実測図は原則として縮尺1/3としたが、古銭は原寸で表示した。
- 13. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線、推定線は破線で、釉薬部の境は一点鎖線で表した。中心線が一点鎖線のものは、転回し図上復元したものである。
- 14. 遺物観察表で陶磁器類の成形技法は、大部分がロクロ成形であるため省略し、他の技法を記載した。

本 文 目 次

Ι	調査	至の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 1
	1	調査の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 1
	2	調査要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
Π	立地	也と歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 2
	1	A ⊠ · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• 3
	2	$B \boxtimes \cdots $	• 4
	3	C区・E区・F区・G区	• 4
	4	$D \underline{\boxtimes} \cdots \cdots$	• 4
	5	H区	
${\rm I\hspace{1em}I}$	調査	をの方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 6
IV	ΑÞ	区の調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 8
	1	調査区の設定及び基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 8
	2	確認された遺構と遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• 9
V	В♭	区の調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 12
	1	調査区の設定及び基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 12
	2	確認された遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 13
VI	C♭	区の調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 17
	1	調査区の設定及び基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	2	確認された遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 18
VII	DÞ	図の調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 21
	1	調査区の設定及び基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	2	確認された遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
VII	ΕÞ	図の調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	1	調査区の設定及び基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	2	確認された遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
IX	FΣ	図の調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 35
	1	調査区の設定及び基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	2	確認された遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
X	G 🛭	図の調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	1	調査区の設定及び基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	2	確認された遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
XI	ΗÞ	図の調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	1	調査区の設定及び基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	2	確認された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
XII	まる	とめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 55

挿 図 目 次

第 1 図 第 2 図	調査区位置図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		第26	図 E区No.1トレンチ出土遺物 ・・・・・・・・・32
	河岸段丘分布図・調査区横断図・・・・・・3		第27日	
第3図	絵図・古地図における調査区の位置・・・・・ 5		第28回	
第4図	グリッド設定図 ・・・・・・ 7		第29日	
第 5 図	A区トレンチ配置図・基本層序柱状図・・・ 8		第30回	
第6図	A区No.7トレンチ平面図・断面図・・・・・9		第31图	
第7図	A区No.7トレンチ出土遺物 ·····10		第32图	
第8図	A区No.8トレンチ平面図・断面図・・・・・11		第33图	
第9図	B区トレンチ配置図・基本層序柱状図・・・12		第34图	
第10図	B区No.7トレンチ平面図・断面図・・・・・13		第35图	
第11図	B区No.8トレンチ平面図・断面図・・・・・14		第36图	
第12図	B区No.9トレンチ平面図・断面図・・・・・15		第37回	
第13図	B区No.9トレンチ出土遺物 · · · · · · · 16		第38图	
第14図	C区トレンチ配置図・基本層序柱状図・・・17		第39图	
第15図	C区No.6トレンチ平面図・断面図・・・・・18		第40図	
第16図	C区No.6トレンチ出土遺物 · · · · · · · 20		第41図	
第17図	D区トレンチ配置図・基本層序柱状図・・・21		第42回	
第18図	D区No. 2 トレンチ平面図・断面図・・・・・ 22		第43区	
第19図	D区No. 2 トレンチ出土遺物 · · · · · · · 23		第44区	
第20図	D区No. 3 トレンチ平面図・断面図・・・・・ 24		第45図	
第21図	D区No.3トレンチ出土遺物 ······26		第46図	
第22図	D区No.4トレンチ平面図・断面図・・・・・27		第47图	
第23図	D区No.4トレンチ出土遺物 ······28		第48図	
	20		NATOR	1 11色110.2 1 2 2 7 四上週初 34
	E区トレンチ配置図・基本層序柱状図・・・29		第40回	前年度調本トレンチ刷器図(1)59
第24図	E区トレンチ配置図・基本層序柱状図・・・29 E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・・30		第49図 第50図	
第24図 第25図	E区トレンチ配置図・基本層序柱状図・・・29 E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・・30		第49図 第50図	
第24図				
第24図	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・・30	目	第50図	前年度調査トレンチ配置図(2)59
第24図		目	第50図	
第24図 第25図	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・・30	•	第50図	前年度調査トレンチ配置図(2) · · · · · · · 59
第24図 第25図 表 1 講	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・・30 表		第50図 表 6	が 前年度調査トレンチ配置図(2) · · · · · · 59 次 D区出土遺物集計表 · · · · · · · 56
第24図 第25図 表 1 講 表 2 確	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・・30 表 過查工程表・・・・・・6		第50図 表 6 表 7	が 前年度調査トレンチ配置図(2) · · · · · · 59 次 D区出土遺物集計表 · · · · · · 56 E区出土遺物集計表 · · · · · · 56
第24図 第25図 表 1	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・30 表 過查工程表・・・・・・6 程認遺構数集計表・・・・・56		第50図 表 6	が が が か か か り の の の の の の の の の の の の の
第24図 第25図 表 1	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・30 表 過查工程表・・・・・6 確認遺構数集計表・・・・・56 A区出土遺物集計表・・・・・56		第50図 表表表表 8 9	が 前年度調査トレンチ配置図(2) ・・・・59 次 D区出土遺物集計表 ・・・・56 E区出土遺物集計表 ・・・・56 F区出土遺物集計表 ・・・・57 G区出土遺物集計表 ・・・・57
第24図 第25図 表 1	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・30 表 過查工程表・・・・・6 経認遺構数集計表・・・・56 A区出土遺物集計表・・・・56 B区出土遺物集計表・・・・56		第50図 表 6 表 7	が が が か か か り の の の の の の の の の の の の の
第24図 第25図 表 1	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・30 表 過查工程表・・・・・6 経認遺構数集計表・・・・56 A区出土遺物集計表・・・・56 B区出土遺物集計表・・・・56		第50図 表表表表 8 9	が 前年度調査トレンチ配置図(2) ・・・・59 次 D区出土遺物集計表 ・・・・56 E区出土遺物集計表 ・・・・56 F区出土遺物集計表 ・・・・57 G区出土遺物集計表 ・・・・57
第24図 第25図 表 1	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・30 表 過查工程表・・・・・6 経認遺構数集計表・・・・56 A区出土遺物集計表・・・・56 B区出土遺物集計表・・・・56		第50図 表 6 7 8 8 8 7 8 8 7	が が が が が が が が が 作 で が が 作 が 作 が 作 が 作 が 作 が 作 が 作 が 作 が に の に の は は は が れ も に の の に に に に に に に に に に に に に
第24図 第25図 表 1	表 調査工程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		第50図 表 6 7 8 8 8 7 8 8 7	が が が が が が が が が 作 で が が 作 が 作 が 作 が 作 が 作 が 作 が 作 が 作 が に の に の は は は が れ も に の の に に に に に に に に に に に に に
第24図 第25図 表 1	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・30 表 過查工程表・・・・6 確認遺構数集計表・・・・56 A区出土遺物集計表・・・・56 区出土遺物集計表・・・・56 区出土遺物集計表・・・・56 写真区 A区・・・・・63	引版	第50図 表 6 7 8 8 8 7 8 8 7	が が が が が が が が が 作 で が が 作 が 作 が 作 が 作 が 作 が 作 が 作 が 作 が に の に の は は は が れ も に の の に に に に に に に に に に に に に
第24図 第25図 表表表表表 3 A B C C I I I I I I I I I I I I I I I I I	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・30 表 調査工程表・・・・・6 経認遺構数集計表・・・・56 A区出土遺物集計表・・・・56 区出土遺物集計表・・・・56 区出土遺物集計表・・・・56 写真区	可 版	第50図 表表表表 6 7 8 9 10 3	が が が か か か り の の の の の の の の の の の の の
第24図 第25図 1 2 3 4 C 版版 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・30 表 過查工程表・・・・6 確認遺構数集計表・・・・56 A区出土遺物集計表・・・・56 区出土遺物集計表・・・・56 区出土遺物集計表・・・・56 写真区 A区・・・・・63	可 版	第50図 表表表表 6 7 8 9 10 <i>岁</i> 8	が が か か か か り の の の の の の の の の の の の の
第 24 25 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・30 表 調査工程表・・・・6 超認遺構数集計表・・・56 A区出土遺物集計表・・・56 区出土遺物集計表・・・56 区区出土遺物集計表・・・56 写真区 A区・・・63 B区(1)・・・・64	可 版	第50図 678910 岁 89 1 0 以 89	が が か か か か り の の の の の の の の の の の の の
第24図 第25図 表 2	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・30 表 調査工程表・・・・6 建認遺構数集計表・・・・56 A区出土遺物集計表・・・・56 区出土遺物集計表・・・・56 区出土遺物集計表・・・・56 本区出土遺物集計表・・・・・56 本区出土遺物集計表・・・・・63 B区(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	以从	第50回 678910	が が か か か り の の の の の の の の の の の の の
第 24 25 図 3 2 3 2 3 2 3 3 3 3 3 3 4 5 5 版版版版版 版 1 2 3 4 5 6 7 5 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7	E区No.1トレンチ平面図・断面図・・・・30 表 調査工程表・・・・・6 経認遺構数集計表・・・・56 A区出土遺物集計表・・・・56 区出土遺物集計表・・・・56 区出土遺物集計表・・・・56 区出土遺物集計表・・・・・56 区出土遺物集計表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	可版	第 表表表表 说 図図図図図の図図の図の図の図ののののののののののののののののののののののの	が が が か が の の の の の の の の の の の の の

I 調査の概要

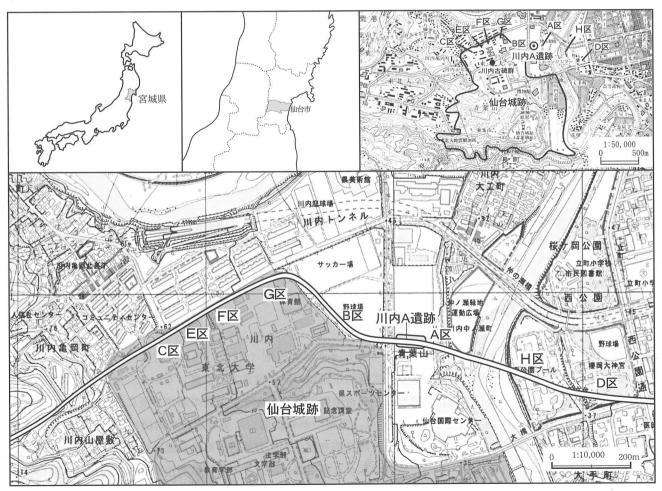
1 調査の経緯

平成11年5月、仙台市教育委員会と当時事業主管局であった仙台市都市整備局との間で、高速鉄道東西線建設事業に伴う遺跡の取り扱いについての第1回目の協議が持たれた。その後、事業主管局は仙台市交通局に移され、平成15年度より仙台市教育委員会との本格的な協議が開始された。

高速鉄道東西線事業計画予定路線内における、周知の遺跡及び遺跡外の状況把握のため確認調査及び試掘調査をまず実施し、その結果を踏まえ本調査を必要とする箇所を決定し、これを基に発掘調査を順次、事業計画に沿いながら進めて行くことが両者間で確認された。

以上の協議事項に基づき、平成16年度より確認調査及び試掘調査を開始した。平成17年度は、さらに都市計画 道路川内旗立線(川内工区)の建設事業地内における確認調査もあわせて実施することとなった。

発掘調査の2年次目にあたる今年度は、仙台城跡及びその周辺地区、川内A遺跡隣接地区、西公園地区を対象地区とし、確認調査・試掘調査を実施した。確認調査は4つの区(C・E・F・G区)で、また、試掘調査は4つの区(A・B・D・H区)で行なった。確認調査・試掘調査のトレンチ総数は22箇所、総面積は421㎡である。これらの内、予定路線内のものは8箇所、関連工事地内のものは3箇所、道路事業地内のものは2箇所、予定路線内と道路事業地内に重複するものは9箇所である。調査は、C区の亀岡トンネル部の確認調査を平成17年7月25日に開始し、A区の仮称国際センター駅部周辺の試掘調査を同年11月1日に終了して、今年度の野外調査を完了した。



第1図 調査区位置図

2 調査要項

遺 跡 名:仙台城跡(宮城県遺跡番号第01033号、仙台市文化財登録番号C-501号)、他

所 在 地:宮城県仙台市青葉区青葉山・川内・桜ヶ岡公園地内

調 查 主 体:仙台市教育委員会(生涯学習部文化財課)

調 査 担 当:調査係主査 佐藤甲二

調查係主查 斎野裕彦

調 査 機 関:国際航業株式会社

主任調查員 竹内俊之

調 査 員 山崎良二・土橋尚起・守谷健吾

調査補助員 小林孝彰

計 測 員 佐々木亨

計測補助員 諸熊和彦・佐藤和巳

調 査 面 積:421㎡

A区 (仮称国際センター駅部周辺) 28㎡ (川内A遺跡隣接地)

B区(扇坂トンネル部) 72㎡(仙台城跡隣接地試掘調査)

C区(亀岡トンネル部) 24㎡ (仙台城跡確認調査)

D区(仮称西公園駅部周辺) 51㎡

E区(仮称川内駅部) 72㎡(仙台城跡確認調査)

F区(仮称川内駅部) 72㎡(仙台城跡確認調査)

G区(扇坂トンネル部) 54㎡ (仙台城跡確認調査)

H区(仮称西公園駅部周辺) 48㎡

調 査 期 間:A区 平成17年10月19日~平成17年11月1日

B区 平成17年8月22日~平成17年9月2日

C区 平成17年7月25日~平成17年8月30日

D区 平成17年9月12日~平成17年9月29日

E区 平成17年7月25日~平成17年8月30日

F区 平成17年8月4日~平成17年8月30日

G区 平成17年8月29日~平成17年9月20日

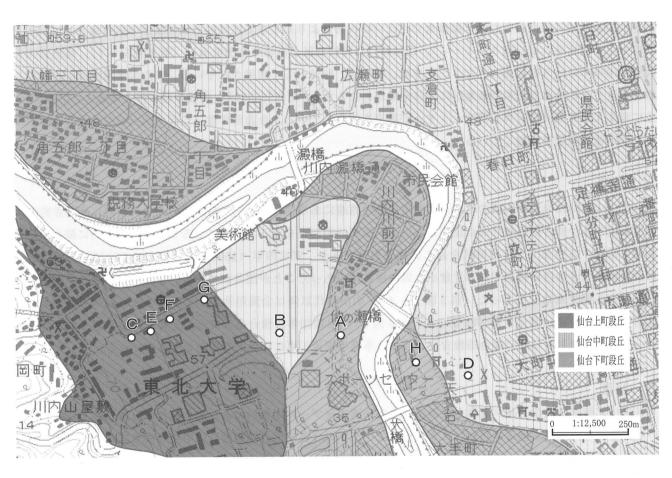
H区 平成17年9月26日~平成17年10月14日

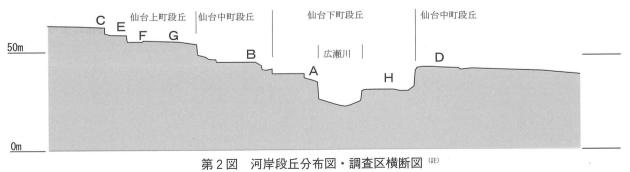
Ⅱ 立地と歴史的環境

調査の対象となった仙台城跡(C・E・F・G区)とその隣接地(B区)、川内A遺跡の隣接地(A区)及び西公園地区(D・H区)は仙台市街地の西方、広瀬川中流域の河岸段丘上に位置している。河岸段丘は高位面より青葉山段丘・仙台台ノ原段丘・仙台上町段丘・仙台中町段丘・仙台下町段丘の順で5面に区分される(準)。広瀬川右岸の調査区(C・E・F・G・B・A区)は、青葉山から広瀬川に至る東向き斜面の麓部にあたり、C・E・F・G区が仙台上町段丘面、B区が仙台中町段丘相当面、A区が仙台下町段丘面上に位置している。また広瀬川左岸の調査区(D・H区)は、仙台市街地の拡がる西端部にあたり、D区は仙台中町段丘面、H区は仙台下町段丘面上に位置している。各調査区の標高は右岸が約37m~約65m、左岸が約32m~約44mを測る。

1 A区

A区は西方から川内地区を南北に分ける沢(千貫沢)の下流部北側にあたり、東側に比高差が約10mに及ぶ断崖をもつ仙台下町段丘面上に位置している。標高は約36mから約40mを測る。正保二・三年(1645・1646)の『奥州仙台城絵図』、寛文四年(1664)『仙台城下絵図』によると武家屋敷地となっており(第3図1・2)、その後の享保九年(1724)の『仙台城下絵図』、安政三~六年(1856~1859)の『安政補正改革仙府絵図』には御炭蔵と記されている(第3図3・4)。17世紀代は仙台城二の丸北側に拡がる武家屋敷地の一画であり、18世紀代から幕末まで仙台藩の御用地として利用されていたようである。明治時代以降は、第二次大戦まで陸軍第二師団の施設が置かれ(第3図5・6)、戦後は米軍駐留地となる(第3図7)。昭和32年に米軍より返還された後に、昭和37年から平成11年まで仙台商業高等学校の校地として利用された(第3図8)。なお前年度に仙台市教育委員会による仙台城隣接地試掘調査の結果、A区の西側大半は川内A遺跡として遺跡登録(平成16年7月)され、今年度本調査を実施している。





2 B区

B区は仙台城跡二の丸地区の北側、川内A遺跡の西側にあたり、仙台中町段丘相当面に位置している。標高は約47mを測る。絵図によると江戸時代を通じて地割された武家屋敷地であった。(第3図1~4)、明治時代以降は終戦まで陸軍第二師団の施設が置かれ(第3図5・6)、戦後は米軍駐留地となる(第3図7)。昭和32年、米軍より返還されて、東北大学が移転。現在はグラウンドとして利用されている。なお前年度に仙台市教育委員会は当事業に伴い試掘調査を実施している。

3 C·E·F·G区

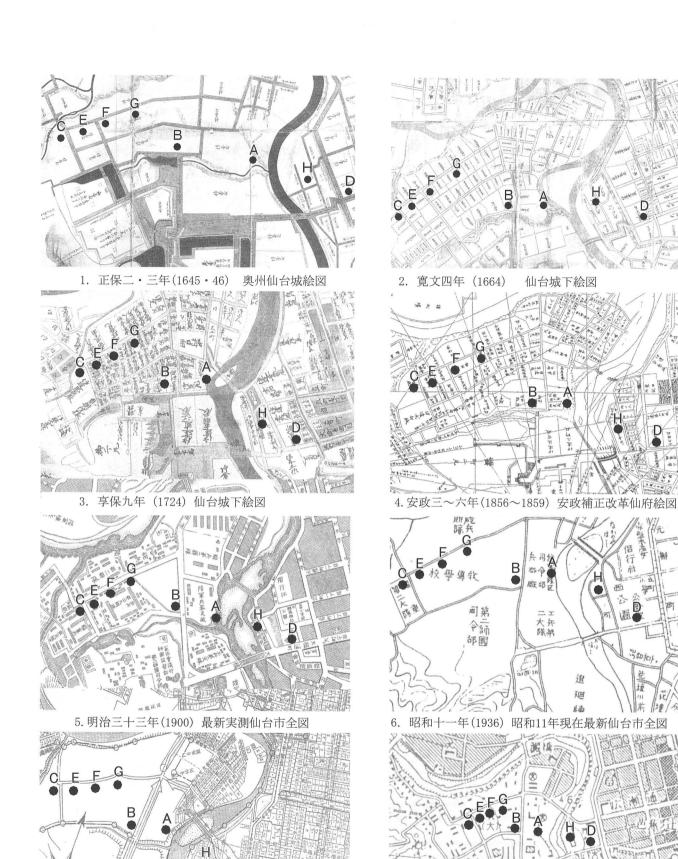
C・E・F・G区は仙台城跡範囲内の北辺部にあたり、東側に比高差が約6mに及ぶ断崖をもつ仙台上町段丘面上に位置している。調査区は現況から高低差のある平坦な4面に4区をそれぞれ設定し、確認調査を実施した。明治時代以降に盛土や削平により整地化しているが、本来は東方へ低くなる緩斜面をもつ段丘面である。C区東側で標高は約65mを測り、東に約300mのG区東側の仙台上町段丘崖線で約56mを測る。絵図によると大きく地割された仙台城二の丸北方の武家屋敷地で、江戸時代初頭より幕末まで比較的上級の家臣の屋敷地として利用されていたと考えられる(第3図1~4)。明治時代以降はB区と同様の変遷を辿る(第3図5~7)。現在は東北大学川内キャンパスの北側にあたり、駐車場、駐輪場、緑地として利用されている。また大学構内は仙台城跡二の丸地区と二の丸北方武家屋敷地区にほぼ全域があたるため、昭和58年以降、施設整備に伴う埋蔵文化財調査は、主に東北大学埋蔵文化財調査研究センターが調査を実施している。なお前年度にC区で仙台市教育委員会は当事業に伴い確認調査を実施している。

4 D区

D区は広瀬川に架かる大橋の北東、仙台市街地の西端にある西公園地内の南側にあたり、西側に比高差約11mの段丘崖をもつ仙台中町段丘面に位置している。標高は約43mを測る。絵図によると仙台城大手門に続く道筋の北側に隣接する敷地で、江戸時代を通じ武家屋敷地であり、寛文四年(1664)の『仙台城下絵図』(第3図2)には仙台藩家老の白石城主である片倉小十郎の屋敷地であったことが記されている。また東側は通りを挟み、町屋敷地が展開する地区であった(第3図2~4)。明治時代以降は公園用地として利用され、昭和初期の地図には西公園ならびに公會堂と記されている(第3図6)。昭和30年に仙台市天文台が公會堂跡地に建てられ現在に至っている。なお前年度に仙台市教育委員会は当事業の関連工事に伴い試掘調査を実施している。

5 H区

田区は広瀬川の左岸、仲ノ瀬橋と大橋の間の西公園市民プール用地内にあたり、仙台下町段丘面上に位置している。標高は約32mを測る。絵図によると正保二・三年の『奥州仙台城絵図』に中間屋敷と記されており、下級の家臣の屋敷地であった(第3図1)。その後元禄年間以降に御作事方会所、御小人と記された割図が描かれおり、役所関係施設と御小人衆の居住地であったことがうかがえる(第3図2~4)。明治時代以降は仲ノ町と呼称される住宅街となる(第3図5~7)。昭和37年、市民プールを含む公園として整備され現在に至っている。



第3図 絵図・古地図における調査区の位置 (注)

8. 昭和四十二年 (1967)

国土地理院地形図

7. 昭和二十三年(1948) 最新仙台市街明細地図

調査方法と経過 Ш

今年度の確認・試掘調査は、今後の本調査を見越し、調査対象区にあたる川内地区、青葉山地区、西公園地区 の全域を網羅するグリッドを設定することから開始した。川内A遺跡の北西部に原点(日本測地系・X=- $193400 \,\mathrm{m}$, Y= $20300 \,\mathrm{m}$) を求め、グリッド単位は $10 \,\mathrm{m} \times 10 \,\mathrm{m}$ とした。グリッドの名称は原点から、Y軸は北方 向をN、南方向はSとし、X軸は東方向をE、西方向はWとし、原点からの方向と距離によりN1-E1グリッ ド(北へ0m~10m、東へ0m~10m)、S2-W2グリッド(南へ10m~20m、西へ10m~20m) 等とし、表記 した。

前年度の確認・試掘調査で設定したA区からD区はそのまま踏襲しつつ、調査対象範囲全域をA区からH区の 8区に設定しなおした。なお同区内に前年度の調査トレンチがある場合は、そのトレンチ番号に引き継ぎ、原則 として東に位置するトレンチから名称を付けた。

調査トレンチの規模は4m×6m(24m)を基準としたが、作業有効面積、埋設管、立ち木等の関係で3m× 3 mから3 m×8 mに変更した箇所もある。表土及び盛土を重機で掘削し、その後人力による精査・遺構確認を 行った。また重機が使用できない箇所では、表土から人力で調査を実施している。一部のトレンチを除き、遺構 確認面で平面・断面の土層堆積状況を観察し、計測・写真撮影を行い記録した。

計測作業は国家座標に基づいて既知点を利用し、また使用容易な箇所に基準点を新設し、グリッドを設定した。 平面図・断面図・遺物出土位置等はトータルステーションを使用し、計測データはCADソフトで作図編集を行 った。また一部、デジタルカメラを用いた写真実測を併用したところもある。

遺構番号はトレンチ毎に通し番号で表記した。出土遺物は出土年月日順に番号を付け、層位別に取上げ、登録 を行った。報告遺物は登録番号を付記した。手実測と正射投影のデジタル画像を併用して実測図の作成を行った。

調査工程は、最初に東北大学構内B・C・E・F・G区を大学夏季休暇期間中に終了させることを目標とし着 手した。次に西公園地区D・H区は市民プール営業期間終了後の9月以降に調査を行った。最後に川内A遺跡隣 接地A区を調査した。また野外調査終了の翌日より本格的な整理作業に入った。

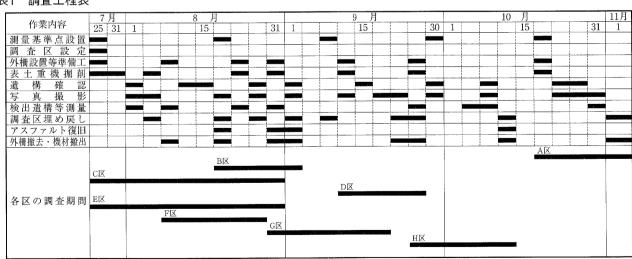
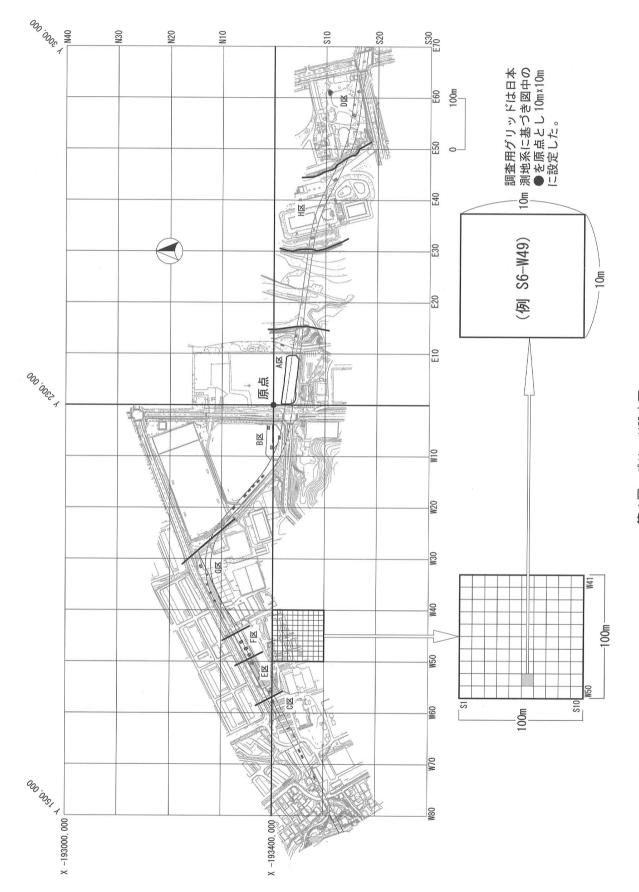


表1 調查工程表

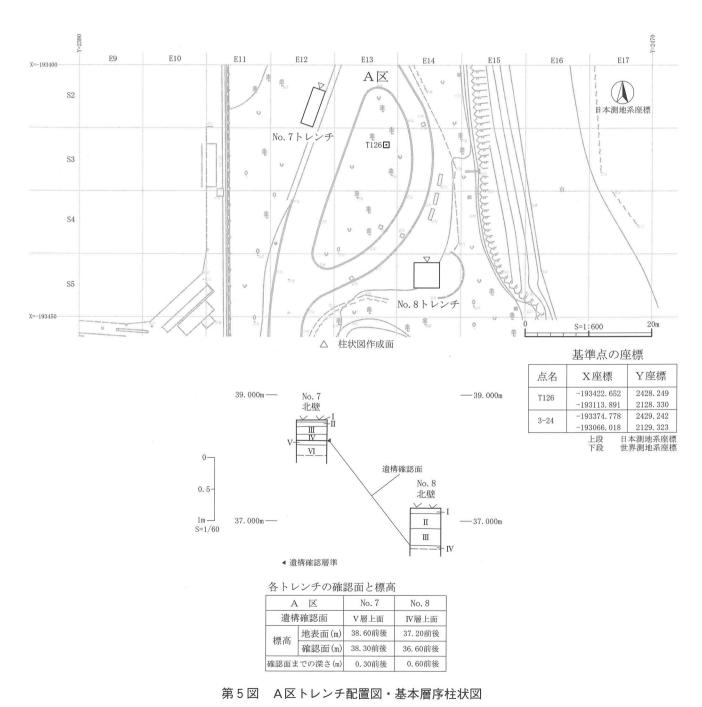


第4図 グリッド設定図

IV A区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

A区は前年度に 6 箇所の試掘調査が実施された (産)。今回の調査はその東側で、広瀬川に面する段丘縁辺部の南北を通る「桜の小道」遊歩道脇の緑地内に 2 箇所のトレンチを設定した。トレンチ番号は前年度の試掘調査の番号を引き継ぎ、西からNo. 7、No. 8 と名称を付けた。なお対象区は予定路線内(No. 8 トレンチ)及び建設に伴う下水管切り回し部分(No. 7 トレンチ)である。調査面積はNo. 7 トレンチが12㎡、No. 8 トレンチが16㎡の計28㎡である。基本層序はNo. 7 トレンチでは大別 6 層($I \sim VI$)、No. 8 トレンチでは 4 層($I \sim IV$)から成る。表土、盛土を除く基本層の対応はなかった。



(註) この地点は川内A遺跡と登録され、当事業に伴い今年度本調査が実施された。

2 確認された遺構と遺物

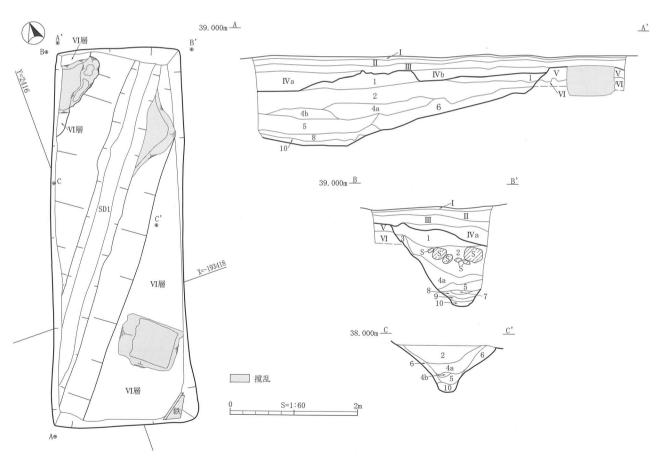
No.7トレンチ (第6~7図、図版1-1~5)

S2-E12グリッドに位置する。トレンチは北東方向に長軸を設定し、規模は 2×6 mの長方形で面積は12 mである。掘削深度は約1.5mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。 I 層表土からV 層粘土質シルトまで大別 6 層、細別 7 層からなる。 I 層表土からV 層まで砂礫を混入する盛土。以下、自然堆積層になり、V 層は砂質シルト、V 層は粘土質シルトである。遺構確認作業はV 層上面で行い、溝跡 1 条を確認したが、北壁の断面観察からV 層を掘り込んでいることが判明した。なお当トレンチは遺構の性格究明のため遺構の完掘まで実施した。

遺物は撹乱及び基本層、SD1堆積土1層から21点が出土した(素3・p56)。内訳は陶磁器類11点、瓦片6点、縄文土器片4点である。この内、近世に属する資料は岸窯系鉄釉脚付鉢(第7図1)、大堀相馬灰釉碗(第7図2)、瀬戸・美濃水滴(第7図3)が撹乱から、肥前染付瓶(第7図4)がⅡ~Ⅳ層中から出土している。

(1) SD1 溝跡(第6図、図版1-2~5)

トレンチのほぼ全域に位置する。V層上面で確認された。北東方向に直線的に延びる素掘りの溝跡で、規模は、確認長約560cm、上端幅約170cm、下端幅15~25cm、深さ約130cmを測る。主軸方位はN - 37° - E である。断面形は「V」字状を呈し、底面は平坦をなす。堆積土は大別10層、細別11層である。上位の堆積土の2層は径30cm程の円礫を多く混入していることから人為的に埋め戻された可能性がある。下位の7層~10層は砂やシルトが互層状に堆積していることから水成堆積と考えられる。遺物は1層から縄文時代中期の土器片が4点出土した。



第6図 A区No.7トレンチ平面図・断面図

A区No.7トレンチ基本層土層註記

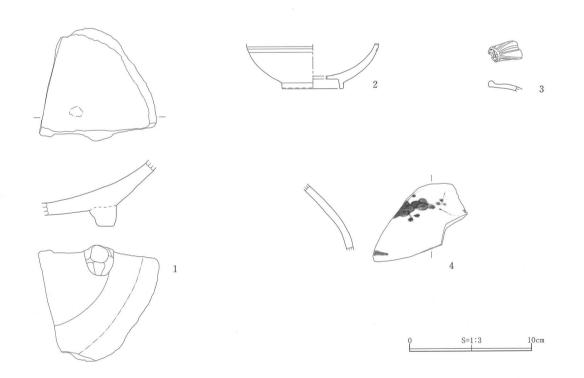
層位	土	色	土 質	土	性	備考
眉亚	土色No.	土 色		粘 性	しまり	
I	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり	現表土。
II	5 Y 5/4	オリーブ色	砂	なし	なし	盛土。
Ш	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	盛土。10cm以下の礫・1cm以下の炭化物多量。ガラス片。
ΙVa	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	盛土。礫。径5mm以下の白色シルト粒・黄褐色シルト粒。
IV b	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	盛土。礫多量。径5mm以下の白色シルト粒・黄褐色シルト粒・炭化物粒多量。
V	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	自然堆積層。
VI	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。

AXNo.7	トレ	ンチ遺	構堆積	土土	層註記
--------	----	-----	-----	----	-----

111110.1	1 /	退1件作1具上。					
遺構名	層位	土	色	土質	土	性	備考
退得石	眉见	土色No.	土 色	工 貝	粘 性	しまり	7.00
	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	礫・径1~2cm黄褐色シルトブロック少量。
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	あり	埋め戻し土?。径30cm以下の礫。細礫・砂粒・径5mm以下の黄褐色シルト粒多量。
	3	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	細礫少量。
	4 a	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径3~4cm黄褐色シルトブロック多量。径5mm以下の暗褐色シルト粒少量。
	4 b	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径5mm以下の暗褐色シルト粒多量。
SD1	5	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	径5mm以下の黄褐色シルト粒少量。
	6	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	細礫少量。
	7	10YR5/2	灰黄褐色	砂	なし	ややあり	鉄分の沈着少量。
	8	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	径5mm以下の焼土粒・炭化物粒少量。
	9	10YR5/2	灰黄褐色	砂	なし	ややあり	鉄分の沈着少量見られる。
	10	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	あり	あり	径1~2cmの黄褐色シルトブロック・径5mm以下の暗褐色シルト粒多量。

(2) 遺構の確認面と時期

溝跡は基本層V層上面で確認されたが、本来は基本層V層から掘りこまれていることが判明した。またトレンチ外へ延びることが予想される。また、堆積土から判断できる遺物が出土していないが、遺構の時期は近代以降の遺物の混入がないことや、周辺地区(川内A遺跡)の状況から、近世以前の可能性が考えられる。



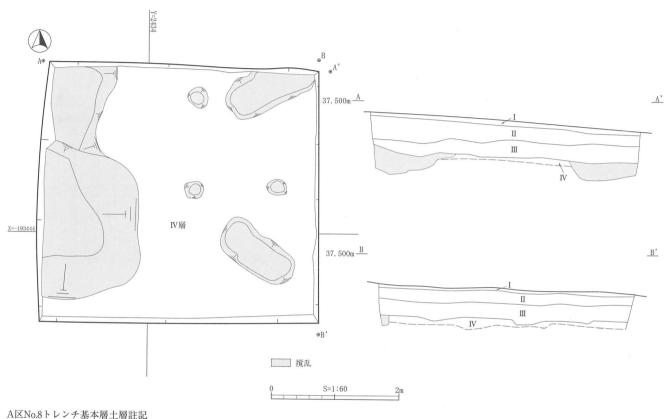
A区No.7トレンチ陶磁器観察表

A区NO.7 「 D D 7) 阿城福市航宗公												
図版番号	登録	出土地点	種 別	器種	部 位	法	量(cr		産地	時 期	備考	写真
凶败笛与	番号 遺	遺構·層位	1里 加	66 1里		口径 底径	器高	20104 10200	60 2000	, pin	図版	
第7図1	I-1	撹乱	陶器	脚付鉢	底部	-	-	(5.3)	岸窯系	17C後半	鉄釉。内面目跡あり。	図版11-1
第7図2	I-2	撹乱	陶器	碗	体部~底部	_	(4.8)	(3.6)	大堀相馬	18C	灰釉。外面沈線1条。	図版11-2
第7図3	I-3	撹乱	陶器	水滴	注口~体部		-	(0.9)	瀬戸・美濃	17C中~後		5目痕。図版11-3
第7図4	J-1	II~IV層	磁器	瓶	体部	_	_	(6.0)	肥前	17C後半	染付。梅枝文。	図版11-4

第7図 A区No.7トレンチ出土遺物

No.8トレンチ (第8図、図版1-6~8)

S5-E14グリッドに位置する。トレンチの規模は 4×4 mの方形で面積は16m°である。掘削深度は約0.6mを測る。基本層序の作成は北壁、東壁で行った。 I 層表土から II 層までは炭化物、砂、細礫、礫を混入する盛土。 IV 層は砂礫(段丘礫層)である。遺構の確認作業は IV 層上面で行ったが、遺構の確認及び遺物の出土はない。また、基本層 IV 層は近代以降に撹乱を多く受けており、段丘礫層上位に堆積する粘土質シルトは削平されたものと考えられる。



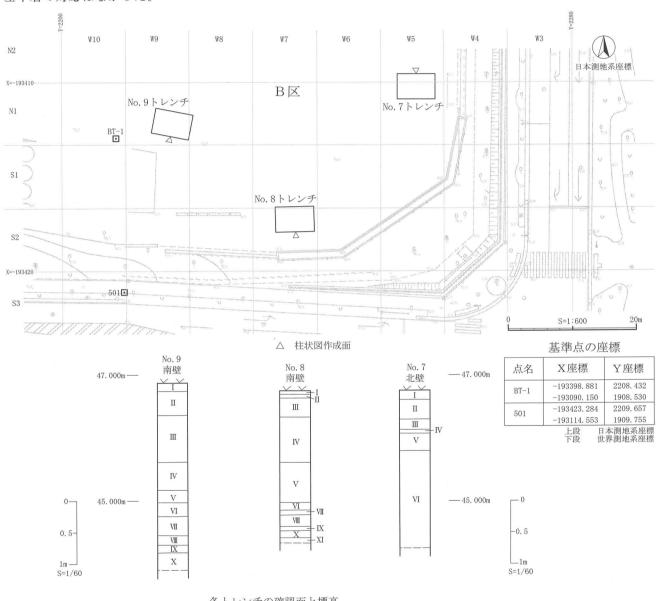
層位	土	色	工 房庁	土.	性	The state of the s
層匝	土色No.	土 色	土質	粘 性	しまり	情 考
I	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	現表土。
II	5 Y 5/4	オリーブ色	砂	なし	ややあり	盛土。
\blacksquare	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	盛土。径3cm以下の細礫多量。炭化物粒少量。
IV	7.5YR5/6	明褐色	砂礫	なし	なし	自然堆積層 (段丘礫層)。径10cm以下の礫多量。

第8図 A区No.8トレンチ平面図・断面図

V B区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

B区は前年度に 6 箇所の試掘調査が実施された。今回の調査はその南東側で、扇坂北側の東北大学川内キャンパスグラウンドに 3 箇所のトレンチを設定した。トレンチ番号は前年度の試掘調査の番号を引き継ぎ、東からNo. 7 \sim No. 9 と名称を付けた。なお対象区は予定路線内(No. 8 トレンチ)及び関連工事に伴う部分(No. 7 \cdot No. 9 トレンチ)である。調査面積は各トレンチ24㎡で計72㎡である。基本層序はNo. 7 トレンチでは 6 層(I \sim VI)、No. 8 トレンチでは11層(I \sim XI)、No. 9 トレンチでは10層(I \sim XI)から成る。表土、盛土層を除く基本層の対応はなかった。



各トレンチの確認面と標高

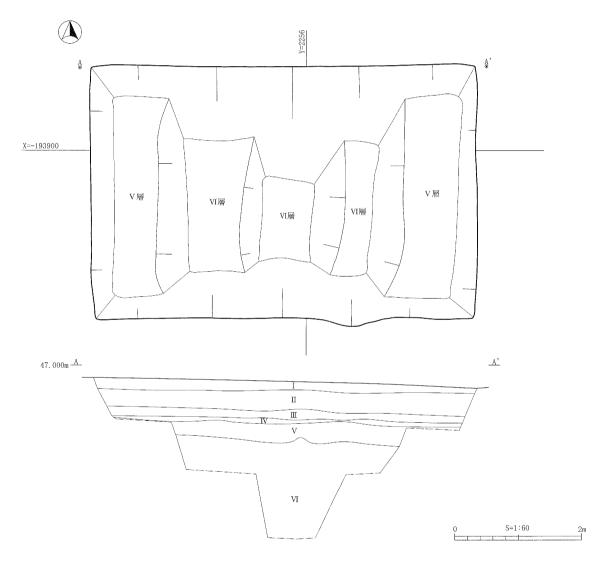
В	区	No. 7	No. 8	No. 9	
遺構	確認面	-			
標高	地表面(m)	46.70前後	46.70前後	46.90前後	
信同	確認面(m)	1	-		
確認面言	たでの深さ(m)				

第9図 B区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 確認された遺構と遺物

No.7トレンチ (第10図、図版 2 - 1 ~ 3)

N1・2-W5グリッドに位置する。トレンチは東西方向に長軸を設定し、規模は 4×6 mの長方形で、面積は24mである。掘削深度は約2.5mを測る。基本層序の作成は北壁で行った。 I 層から IV 層までがグラウンド整地土、V層から IV 層は近現代の礫、レンガ片、コンクリート塊、鉄屑、ガラス片、炭化物等を多量に混入する盛土である。 IV 層は安全の確保から掘りぬくことはできなかったため、遺構確認面まで到達していない。基本層からの遺物の出土はない。



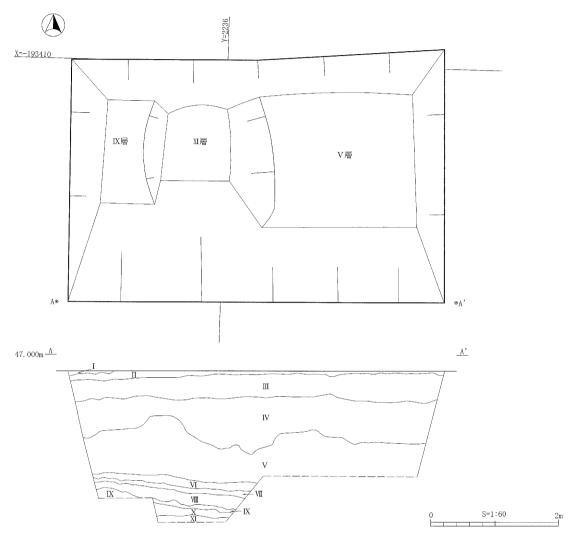
B区No.7トレンチ基本層土層註記

	1 1 7 7 2007	1 1 bed - revised before be				
層位	土 土色No.	色 土 色	土 質	土 粘 性	性 しまり	備考
I	2.5YR5/2	灰赤色	砂	なし	ややあり	グラウンド整地土。
Π	2.5YR5/2	灰赤色	砂	なし	あり	グラウンド整地土。
Ш	2.5Y5/3	黄褐色	砂	なし	あり	グラウンド整地土。
IV	2.5YR5/2	灰赤色	砂	なし	あり	グラウンド整地土。
V	10YR2/1	黒色	砂礫	なし	ややあり	盛土。
VI	7.5YR3/2	黒褐色	砂礫	あり	あり	盛土。レンガ。コンクリート塊。鉄屑。ガラス片。炭化物。

第10図 B区No.7トレンチ平面図・断面図

No. 8 トレンチ (第11図、図版 2 - 4 ~ 6)

 $S1 \cdot 2 - W7$ グリッドに位置する。トレンチは東西方向に長軸を設定し、規模は 4×6 mの長方形で、面積は24㎡である。掘削深度は約2.4mを測る。基本層序の作成は南壁で行った。 I 層表土からIV 層までがグラウンド整地土、V 層から XI 層までNo.7 トレンチ同様の盛土である。 XI 層は安全の確保から掘りぬくことはできなかったため、遺構確認面まで到達していない。遺物はIII 層から陶磁器片が 3 点出土している ($54 \cdot 1050$)。



B区No.8トレンチ基本層十層註記

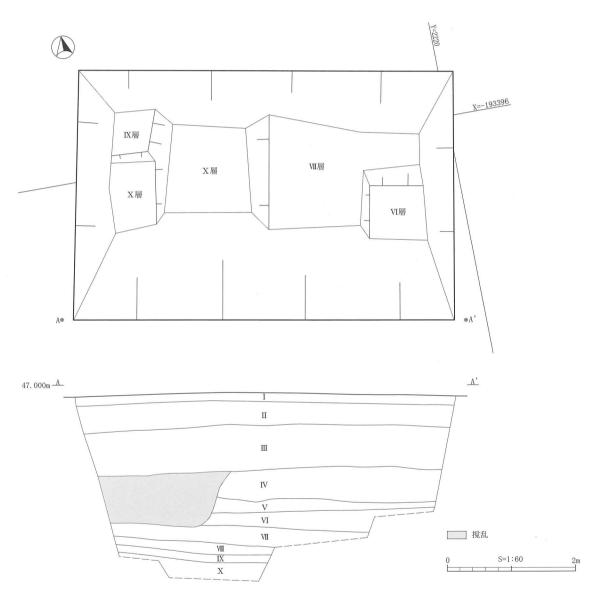
BKN0. 8	B区No.8トレンチ基本層土層註記										
層位	土 土色No.	色 士 色	土 質	土 粘 性	性 しまり	備考					
I	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂	なし	ややあり	グラウンド整地土。					
II	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂	なし	あり	グラウンド整地土。					
Ш	2.5Y6/6	明黄褐色	砂	なし	あり	グラウンド整地土。					
IV	10YR2/1	黒色	砂礫	ややあり	ややあり	グラウンド整地土。					
V	7.5YR3/2	黒褐色	砂礫	あり	あり	盛土。レンガ。コンクリート塊。鉄屑。ガラス片。炭化物。					
VI	7.5YR4/4	褐色	砂礫	あり	あり	盛土。					
VII	7.5YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	盛土。細砂粒。					
VIII	10YR5/6	黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	盛土。径5~10cmの礫多量。					
IX	10YR6/1	褐灰色	砂	なし	なし	盛土。径5~10cmの礫多量。					
X	10YR6/1	褐灰色	砂礫	なし	ややあり	盛土。径10~15cmの礫層。黄白色シルト粒。炭化物粒。					
XI	7.5YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	盛土。径5~10mmの炭化物多量。					

第11図 B区No.8トレンチ平面図・断面図

No.9トレンチ (第12~13図、図版 2 - 7~8、図版 3 - 1)

N1-W8・9グリッドに位置する。トレンチは東西方向に長軸を設定し、規模は 4×6 mの長方形で、面積は24 mである。掘削深度は約3.4 mを測る。基本層序の作成は南壁で行った。 I 層、II 層まではグラウンド整地土。II 層はNo.7・No.8トレンチ同様の盛土で、IV 層以下は流入と考えられる砂礫を多量に含む層となる。 X 層まで掘り下げたが、以下は安全の確保より掘り下げなかった。遺構確認面は検出されず不明である。なおIX 層では植物遺体が多量に含まれる。

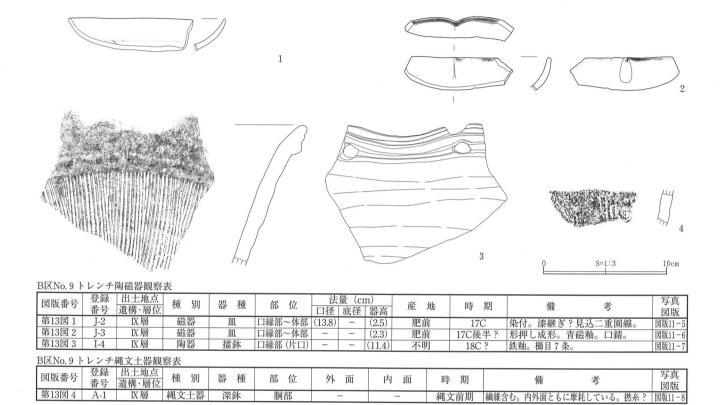
遺物は31点出土したが全て区層出土である (¾4・p56)。内訳は陶磁器類18点、瓦片 2点、縄文土器片 9点で、縄文時代から近代以降の遺物が混在する。磁器・陶器には、近世の肥前染付皿 (第13図1)、肥前青磁皿 (第13図2)、産地不明鉄釉擂鉢 (第13図3)が、縄文土器には前期のもの (第13図4)が認められる。



第12図 B区No.9トレンチ平面図・断面図

B区No.9トレンチ基本層土層註記

DE3110. 0	1 0 0 7 245	平滑工滑吐	IL .			
層位	土	色	土 質	土	性	備考
/目 124	土色No.	土 色	工具	粘 性	しまり	7期 考
I	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂	なし	ややあり	グラウンド整地土。
II	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂	なし	あり	グラウンド整地土。下部に山砂。
III	10YR2/1	黒色	砂	なし	なし	盛土。コンクリート塊。レンガ片。鉄屑多量。
IV	10YR3/1	黒褐色	砂礫	なし	なし	径10~15cmの礫・砂粒多量。
V	5B3/1	暗青灰色	砂質シルト	あり	あり	径1~10cmの礫多量。
VI	5B2/1	青黒色	砂質シルト	あり	あり	径3~10cmの礫・径1mm以下のシルト粒多量。
VII	5B3/1	暗青灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	径1cmの礫・径1mm以下のシルト粒多量。
VIII	5G4/1	暗緑灰色	粘土質シルト	あり	あり	径1~5cmの礫少量。径1mm以下のシルト粒多量。
IX	5B4/1		粘土質シルト	あり	ややあり	植物遺体多量。径3~5cmの礫多量。
X	5B7/1	明青灰色	粘土質シルト	あり	あり	径3~5cmの礫多量。



第13図 B区No.9トレンチ出土遺物

縄文前期 繊維含む。内外面ともに摩耗している。撚糸

図版11-8

深鉢

胴部

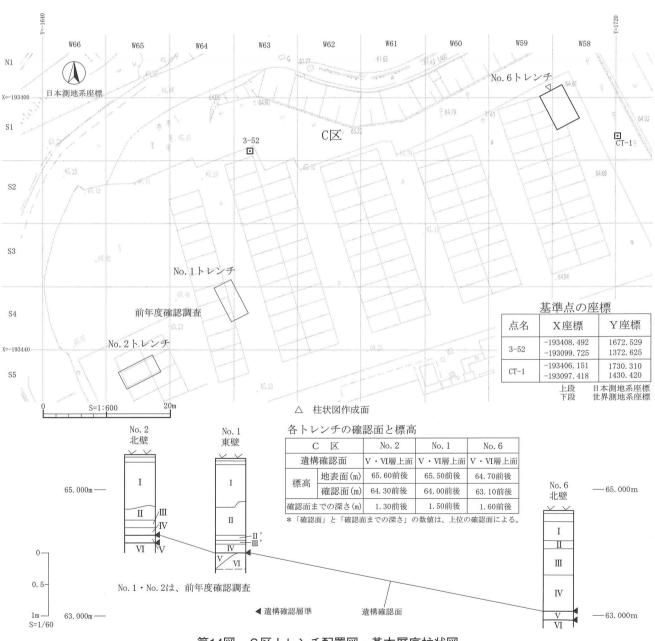
VI C区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

C区は前年度に 5 箇所の確認調査が実施された。今回の調査はその東側で、東北大学国際交流センターの北側の駐車場に 1 箇所のトレンチを設定した。トレンチ番号は前年度の確認調査の番号を引き継ぎ、No. 6 と名称を付けた。なお対象区は予定路線内と道路建設事業地が重複する部分である。調査面積は24㎡である。基本層序はアスファルト舗装・砕石敷きを除き、大別 6 層(I \sim VI)から成る。表土、近代以降の盛土・整地土以外で、前年度調査されたNo. 1 トレンチとの基本層の対応は以下の通りである。

No.6 トレンチ基本層 V 層⇔No.1 トレンチ基本層 V 層

No.6 トレンチ基本層 VI 層⇔No.1 トレンチ基本層 VI 層



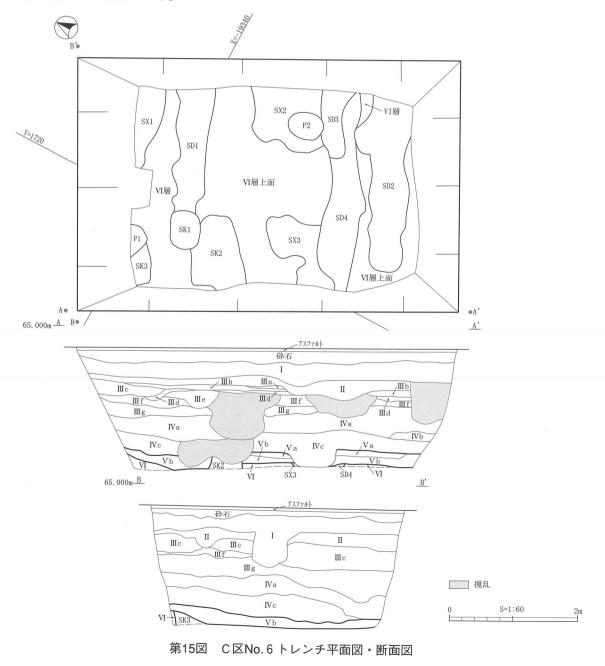
第14図 C区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 確認された遺構と遺物

No.6トレンチ (第15~16図、図版 3 - 2 ~ 6)

N1-W58~S1-W59グリッドに位置する。トレンチは北西方向に長軸を設定し、規模は 4×6 mの長方形で面積は24 m°である。掘削深度は約1.9 mを測る。基本層序の作成は北壁と西壁で行った。 I 層盛土から V 層粘土質シルトまで大別 6 層、細別15層からなる。 I 層・I 層は盛土。 I 層は細別 7 層で、円礫、レンガ片、炭化物が混入する近代の整地土。 I 層は細別 I 層で、瓦片が混入する近代の整地土。 I 層は細別 I 層がらなる炭化物を少量含む近世の整地土。 I 層から粘土質シルトの自然堆積層となる。遺構確認作業は I 個上面で行い、土坑 I 基、溝跡 I 4条、ピット I 2基、性格不明遺構 I 基を確認した。遺構確認面は、壁面観察で I 層上面から掘りこむ遺構を確認したため、基本層 I 層上面と基本層 I 層上面とした。

遺物は陶磁器類38点が出土した (乗5・p56)。全て基本層からの出土である。この内、近世に属する資料は肥前染付蓋 (第16図1)、肥前染付皿 (第16図2)、瀬戸・美濃染付小碗 (第16図3) が皿層から、志野織部鉄絵皿 (第16図4) が V 層から出土している。



C区No.6トレンチ基本層土層註記

CE-110.0	1 2 2 7 2	下層 上層 吐				
層位	土	色	土質	土 粘 性	<u>性</u> しまり	備考
1	土色No.	土 色		粘 性		
I	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色		なし		盛土。黄褐色シルトブロック。瓦礫。
II	10YR2/1	黒色	砂質シルト	ややなし	なし	盛土。炭化物層。焼土。径10cm以下の礫。
Шa	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	整地土。近代。レンガ片・砂粒・中礫少量。
Шb	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	整地土。近代。砂粒中量。小礫・炭化物粒少量。
Шc	7.5YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	整地土。近代。径5mm以下の炭化物粒少量。中礫中量。鉄分の沈着が見られる。
Πd	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	整地土。近代。砂粒・中礫少量。
Шe	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	整地土。近代。径2cm以下の黄褐色シルトブロック。砂粒・炭化物粒少量。
Шf	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	整地土。近代。径5mm以下の黄褐色シルト粒・炭化物粒・小礫少量。
Шg	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	整地土。近代。径1cm以下の黄褐色シルトブロック・小礫多量。
IVa	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややなし	なし	整地土。近代。径5mm以下の炭化物粒・小礫少量。近代以降の瓦片少量。
ΙV b	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	整地土。近代。1cm以下の炭化物少量。砂粒・細礫微量。
IV с	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	整地土。近代。1cm以下の炭化物少量。砂粒・細礫少量。近代以降の瓦片少量含む。
Va	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	整地土。近世。遺構確認面。径2cm以下の炭化物少量。
Vb	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	整地土。近世。遺構確認面。径2cm以下の炭化物微量。砂粒少量。
VI	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	自然堆積層。遺構確認面。鉄分の沈着少量。

(1) SK1~SK3 土坑(第15図、図版3-6)

SK1はトレンチ中央北に位置する。VI 層上面で確認した。南側でSK2、東側でSD1 を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約60cm、短軸約46cmを測る。堆積土は粘土質シルトである。遺物の出土はない。また SK2 との切合い関係から本来はV 層上面で確認できる。

SK2はトレンチ中央西に位置する。VI層上面で確認した。西壁の断面観察によりV層から掘り込んでいることが判明した。北側でSK1に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約120cm、短軸約76cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は炭化物、砂粒を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

SK3はトレンチ北西隅に位置する。 VI層上面で確認した。東側でP1に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約52cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は鉄分を多量に含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

(2) SD1~SD4 溝跡(第15図、図版3-6)

SD1はトレンチ北に位置する。VI層上面で確認した。西側でSK1に切られる。東西方向の溝跡で、規模は確認長約194cm、幅 $40\sim54$ cmを測る。さらにトレンチ外へ延びる。堆積土は鉄分を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

SD 2 はトレンチ南に位置する。 VI 層上面で確認した。北側でSD 4 を切る。東西方向の溝跡で、規模は確認長約270cm、幅54~90cmを測る。さらにトレンチ外へ延びる。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。

SD 3 はトレンチ中央東に位置する。 V 層上面で確認した。北側で P 2 に切られ、SX 2 を切る。西側でSD 4 を切る。東西方向の溝跡で、規模は確認長約108cm、幅約40cmを測る。さらにトレンチ外へ延びる。堆積土は炭化物を多量に含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

SD 4 はトレンチ中央南に位置する。 VI 層上面で確認した。東側でSD 3 、南東側でSD 2 に切られ、北側でSX 3 を切る。東西方向の溝跡で、規模は確認長約316cm、幅40~60cmを測る。さらにトレンチ外へ延びる。堆積土は砂粒を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

(3) P1・P2 ピット(第15図、図版3-6)

P1はトレンチの北に位置する。Ⅵ層上面で確認した。西側でSK3を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の径約50cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は粘土質シルトである。遺物の出土はない。

P2はトレンチ中央東に位置する。SD3・SX2の遺構の平面形の内側で確認した。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約58cm、短軸約42cmを測る。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。

(4) SX1~SX3 性格不明遺構(第15図、図版3-6)

SX1はトレンチ北に位置する。VI層上面で確認した。平面形は不明で、規模は上端の長軸約130cm、短軸約42cmを測り、さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は炭化物を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

SX 2 はトレンチ東に位置する。 VI 層上面で確認した。南側でSD 3 、P 2 に切られる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約102cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は鉄分を多く含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

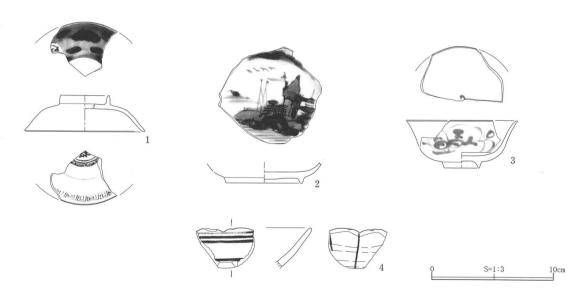
SX3はトレンチ中央西側に位置する。M層上面で確認した。南側でSD4に切られる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約92cm、短軸約56cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は砂粒を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

C区No.6トレンチ遺構堆積十十層註記

		公111.日区区工。					
遺構名	層位	土	色	土質	土	性	備考
		土色No.	土 色		粘 性	しまり	7周
SK1	確認面	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	にぶい黄褐色粘土質シルトブロック少量。
SK2	確認面	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	ややあり	なし	径3cm以下の炭化物・砂粒少量。
SK3	確認面	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	径10cm以下の黒褐色シルトブロック少量。鉄分の沈着が多量見られる。
SD1	確認面	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	鉄分の沈着少量。
SD2	確認面	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3cm以下の黄褐色粘土質シルトブロック多量。
SD3	確認面	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	径3cm以下の黄褐色粘土質シルトブロック・径2~5mm炭化物粒多量。
SD4	確認面	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	暗褐色シルト。砂粒少量。
P1	確認面	10YR4/1	灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径5mm以下の褐色シルト粒少量。
P2	確認面	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径3cm以下のにぶい黄褐色粘土質シルト多量。
SX1	確認面	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	ややあり	あり	径2~3mmの炭化物粒少量。
SX2	確認面	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややなし	鉄分の沈着多量。
SX3	確認面	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	暗褐色シルト。砂粒少量。

(5) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層 V 層上面・基本層 VI 層上面で12基を確認した。 V 層は、出土遺物が全て近世の遺物で、近代以降の遺物を混入しないことから近世の整地土である。遺構確認面は基本層 V 層上面・基本層 VI 層上面の 2 面で近世の遺構面と考えられる。遺構の確認状況からNo. 6 トレンチ周辺の遺構密度は高いと推測される。



C区No.6トレンチ出土陶磁器観察表

0 1110.01		TIPS RAA III PS	CAL TC									
図版番号	登録 番号	出土地点 遺構·層位	種 別	器種	部 位		量(cr		産 地	時 期	備考	写真
	田力					口径	底径	器高	101010			図版
第16図 1	J-4	Ⅲ層	磁器	蓋	天井部~口縁部	(3.6)	(9.6)	2.9	肥前	18C中~19C前半	染付。外面草花文。内面雷文。見込:	字有。 図版11-9
第16図 2	J-5	Ⅲ層	磁器	.III.	底部	-	(1.7)	6.2	肥前	18C中~後半		図版11-10
第16図 3	J-6	Ⅲ層	磁器	小碗	口縁部~底部	(8.9)	(2.8)	3.9	瀬戸・美濃	19C前半	染付。外面草花文。	図版11-11
第16図 4	I-5	V層	陶器	Ш	口縁部~体部	(12.2)	_	(3.2)	美濃	17C前半	志野織部鉄絵皿。	図版11-12

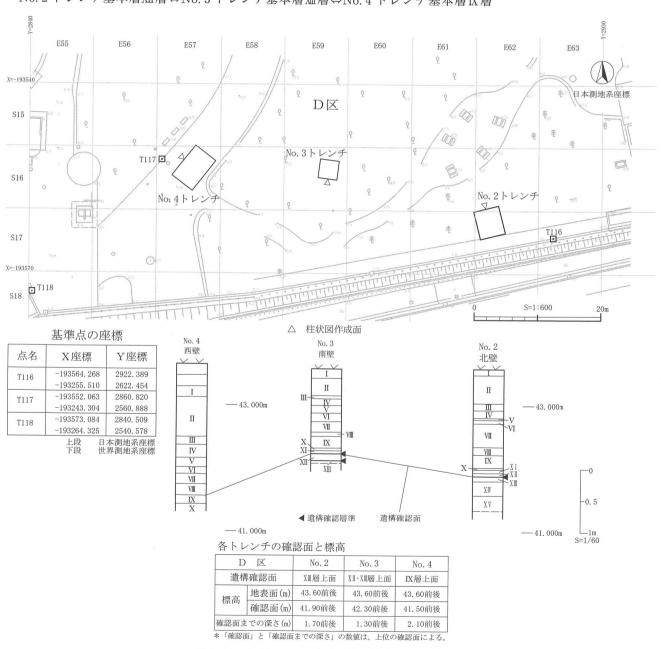
第16図 C区No.6トレンチ出土遺物

WI D区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

D区は前年度に 1 箇所の試掘調査が実施された。今回の調査はその南側で、仙台市天文台前から大町交番裏手までの範囲に 3 箇所のトレンチを設定した。トレンチ番号は前年度の試掘調査の番号を引継ぎ、東からNo. 2 ~ No. 4 と名称を付けた。なお対象区は予定路線内である。調査面積はNo. 2 トレンチが18㎡、No. 3 トレンチが 9 ㎡、No. 4 トレンチが24㎡の計51㎡である。基本層序はNo. 2 トレンチでは大別14層($I \sim XV$)、No. 3 トレンチでは13層($I \sim XV$)、No. 4 トレンチでは 9 層($I \sim XV$)から成る。表土、盛土を除く基本層の対応は以下の通りである。

- No.2トレンチ基本層 X 層⇔No.4トレンチ基本層 W 層
- No.2トレンチ基本層XI層⇔No.4トレンチ基本層WI層
- No.2トレンチ基本層 XI層⇔No.3トレンチ基本層 XI層⇔No.4トレンチ基本層 XI層



第17図 D区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 確認された遺構と遺物

No. 2 トレンチ (第18~19図、図版 3 - 7 ~ 8、図版 4 - 1 ~ 2)

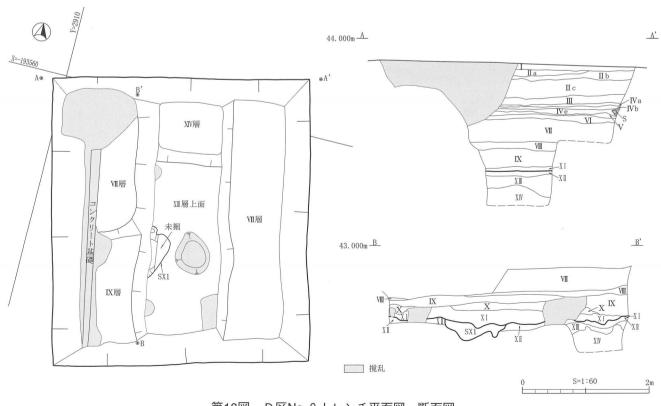
遺物は396点出土した (素6・p56)。全て基本層出土である。内訳は陶磁器類383点、瓦片 5 点、石製品 1 点、金属製品 3 点、自然遺物 1 点、土製品 1 点、縄文土器片 1 点、その他1点である。この内、近世に属する資料は肥前染付長皿(第19図 1)が I 層、肥前染付皿(第19図 2)、瀬戸・美濃鉢(第19図 3)、志野丸皿(第19図 4)が II 層、岸窯系擂鉢(第19図 5 ・ 6)が II 層、切込碗(第19図 7)が II ~ IX 層、美濃青織部大鉢(第19図 8)が IX 層から出土している。

(1) SX1 性格不明遺構(第18図、図版4-1)

SX1はトレンチ中央に位置する。 皿層上面で確認し、西壁の断面観察から 皿層を掘り込んでいることが判明 した。平面形は不明で、規模は上端の長軸約80cm、深さ約30cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。壁面は緩 やかに立ち上がり、底面は起伏が多い。堆積土は単層の粘土質シルトである。 遺物の出土はない。

(2) 遺構の確認面と時期

SX1は基本層 M層上面で確認したが、本来は基本層 M層上面から掘り込まれていることが判明した。遺構の時期は遺構堆積土、上層の基本層 X層 ~ M層からも判断できる遺物が出土していないが、近世以降の遺物の混入がないことから近世以前の可能性が考えられる。



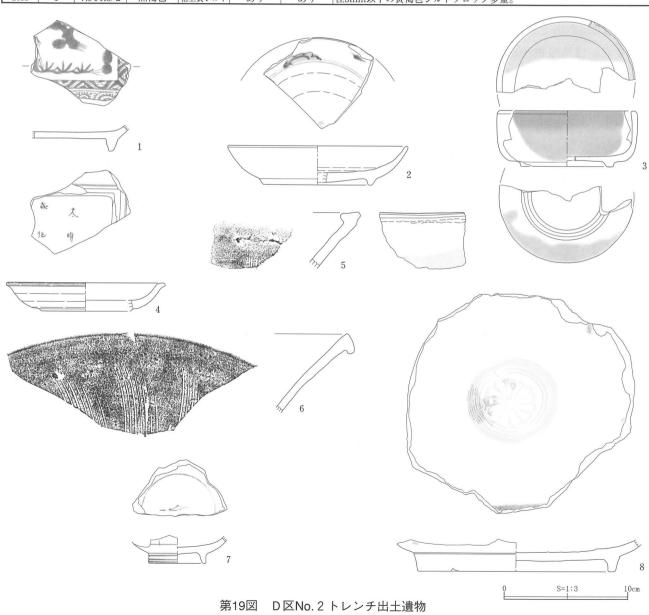
第18図 D区No.2トレンチ平面図・断面図

D区No.2トレンチ基本層土層註記

	1 4 4 / 500	エッローアンロロアロ				
層位	土	色	土質	土		備考
	土色No.	土 色		粘性	しまり	
I	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	現表土。
ΙΙa	2.5Y6/1	黄灰色	砂	なし	あり	盛土。黄褐色砂質シルトブロック少量。礫中量。
Πb	2.5Y5/3	黄褐	砂	なし	あり	盛土。レンガ細片多量。
Ιc	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	盛土。礫多量。
Ш	2,5Y4/4	オリーブ褐色		なし	あり	盛土。径5mm以下の焼土粒・大礫多量。
IVa	7.5Y3/2		砂質シルト	なし	ややあり	盛土。大礫少量。
Νb	10YR3/1		砂質シルト	なし	ややあり	盛土。砂粒・細礫少量。
IV с	7.5Y4/4	褐色	砂質シルト	なし	ややあり	盛土。砂粒・細礫少量。
V	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂	なし	ややあり	盛土。細礫多量。
VI	10YR3/1		砂質シルト	なし	ややあり	盛土。砂粒・細礫多量。
VII	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり	盛土。砂粒・中礫多量。
VIII	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂	なし	あり	整地土。近代。細礫多量。近代建物基礎に伴う整地層。
IX	2.5 Y 4/1		砂質シルト	なし	あり	整地土。近代。砂粒多量。レンガ片・細礫多量。
X	10YR3/2		粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の黄褐色シルト粒微量。
XI	7.5YR2/3	極暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の橙色シルト・褐色シルト粒少量。
XII	7.5Y6/6	橙色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。遺構確認面。極暗褐色シルトブロック多量。
XIII	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の褐色シルト粒多量。径5mm以下の明褐色シルト粒少量。
	1011070	1000 1000 000	加工貝ノルド	a) 1)	00 1)	スコリア粒微量。
XIV	2.5Y5/3	黄褐色	砂礫	なし	ややあり	自然堆積層(段丘礫層)。

D区No.2トレンチ遺構堆積土土層註記

	屠位	土	色	上 版	土	性	dr. +v
週傳名	層位	土色No.	土 色	上貝	粘 性	しまり	一
SX1	1	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	径5mm以下の黄褐色シルトブロック多量。



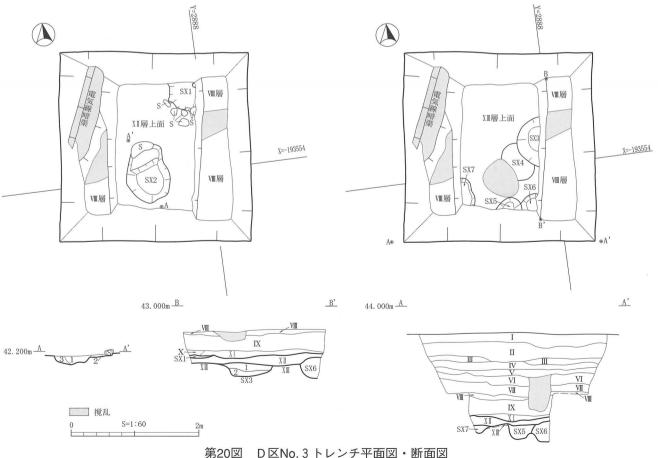
D区No.2トレンチ出土陶磁器観察表

2 111011		THE PART OF THE	12020124									
図版番号	登録 番号	遺構·層位	種 別	器 種	部 位	法 口径	量(cr 底径	n) 器高	産地	時 期	備考	写真 図版
第19図1	J-7	I層	磁器	長皿	底部	_	-	(2.1)	肥前	19C前半	染付。蛸唐草。松竹梅文。高台内銘「太明成化□□」。貼付高台。	図版11-13
第19図 2	J-8	Ⅱ層	磁器	III	口縁部~体部	(14.4)	3.1	(8.6)	肥前	18C	染付。見込み五弁花コンニャク印判。重ね焼き痕。蛇の目釉剥ぎ。	図版11-14
第19図3	I-6	Ⅱ層	陶器	鉢	口縁部~底部	(10.7)	4.5	(7.2)	瀬戸・美濃	近世	片身釉。内外面貫入。被熱痕あり。	図版11-15
第19図 4	I-7	Ⅱ層	陶器	丸皿	口縁部~高台部	(12.6)	-	(2.3)	美濃	17C	志野釉。口錆。内外面貫入。	図版11-16
第19図 5	I-8	Ⅱ層	陶器	擂鉢	口縁部~体部	(26.6)	-	(4.9)	岸窯系	17c前半	櫛目5条。口縁部内外面施釉。	図版11-17
第19図 6	I-9	VI層	陶器	擂鉢	口縁部~体部	(34.0)	1-	(6.4)	岸窯系	17C後~18C初	鉄釉。櫛目7条。	図版11-18
第19図 7	J-9	WW~IX層	磁器	碗	天井部~体部	_	(4.6)	(2.2)	切込	19C前半	染付。見込松葉文。	図版11-19
第19図8	I-10	IX層	陶器	大鉢	底部		15.6	(2.6)	美濃	17C前半	青織部大鉢。印文(菊花)。8重圈線。志野釉。	図版11-20

No. 3 トレンチ (第20~21図、図版 4 - 3 ~ 7)

S16-E59グリッドに位置する。トレンチの規模は3×3mの正方形で、面積は9㎡である。掘削深度は1.5 mを測る。基本層序の作成は南壁、東壁で行った。I層~Ⅱ層は表土及び細礫を多量に含む盛土。Ⅲ層は礫を多量に含む整地土。Ⅳ層はレンガ片、瓦片を含む近代以降の盛土。Ⅴ層は炭化物を含む近代以降の整地土。Ⅵ層・Ⅲ層は礫を多量に含む盛土。Ⅲ層は礫、炭化物を含む近代以降の整地土。Ⅸ層は礫、炭化物を含む盛土。 X層~Ⅲ層は礫を少量含む近世の整地土。Ⅲ層は粘土質シルトの自然堆積層である。遺構確認作業はⅢ層上面及びⅢ層上面で行い、Ⅲ層上面で性格不明遺構2基、Ⅲ層上面で性格不明遺構5基の計7基を確認した。Ⅲ層上面遺構のうち、壁面にかかる遺構は、断面で堆積状況を確認するため掘り上げた。

遺物は264点出土した (素6・p 56)。全て基本層出土である。内訳は陶磁器類224点、瓦片16点、石製品 1 点、金属製品 2 点、自然遺物20点、その他 1 点である。この内、近世に属する資料は肥前染付碗(第21図 1)、肥前染付皿(第21図 2)、大堀相馬灰釉皿(第21図 3) が皿層、肥前青緑釉皿(第21図 4) が VI 層、瓦質土器擂鉢(第21図 5) が XI 層、銅製煙管吸口(第21図 6)、土人形(第21図 7)、砥石(第21図 8)、寛永通宝(第21図 9) が I 層から出土している。



第20区 D区NO.3トレンデー国区。例回区

(1) SX1 性格不明遺構 (第20図、図版 4 - 5)

SX1はトレンチ北東隅に位置する。 知層上面で確認した。平面形は不明瞭であったが、礫、骨粉、炭化物の分布している範囲を遺構として取り扱った。規模は、上端の長軸約46cm、短軸40cmを測る。さらにトレンチの外へ拡がる。堆積土は単層のシルトで、堆積土が薄く明確な掘り込みは確認することはできなかった。礫はSX1外周部に集中しており、配石を伴う遺構の可能性がある。遺物の出土はない。

(2) SX 2 性格不明遺構 (第20図、図版 4 - 6)

SX 2 はトレンチ中央部に位置する。 XI 層上面で確認した。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約96cm、短軸約67cm、深さ13cmを測る。底面は丸形を呈し部分的に起伏を持つ。北側は浅く平坦である。堆積土は 3 層からなり、1 層は礫、炭化物、骨粉を含む砂質シルト。 2 層は 1 層に比べ炭化物が少量で砂質シルトである。 3 層は炭化物を少量含むシルトである。北側上端で径約35cmの自然礫が壁面に沿うように確認した。配石を伴う遺構の可能性がある。遺物の出土はない。

(3) SX 3~SX 7 性格不明遺構 (第20図、図版 4 - 7)

SX3はトレンチ中央東側に位置する。 皿層上面で確認した。南側でSX4を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約80cm、短軸約33cm、深さ21cmを測る。さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は2層からなり、1層は砂質シルトで、2層は1層よりやや色調の明るい砂質シルトである。遺物の出土はない。

SX4はトレンチ中央に位置する。 皿層上面で確認した。東側でSX3に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約60cm、短軸約21cmを測る。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。壁面にかからない遺構のため掘り上げは行っていない。

SX5はトレンチ南側に位置する。 M層上面で確認した。東側でSX6を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約30cm、短軸約20cmを測る。さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。

SX6はトレンチ南東に位置する。 皿層上面で確認した。西側でSX5に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約30cm、短軸約27cm、深さ31cmを測る。堆積土は大礫を含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

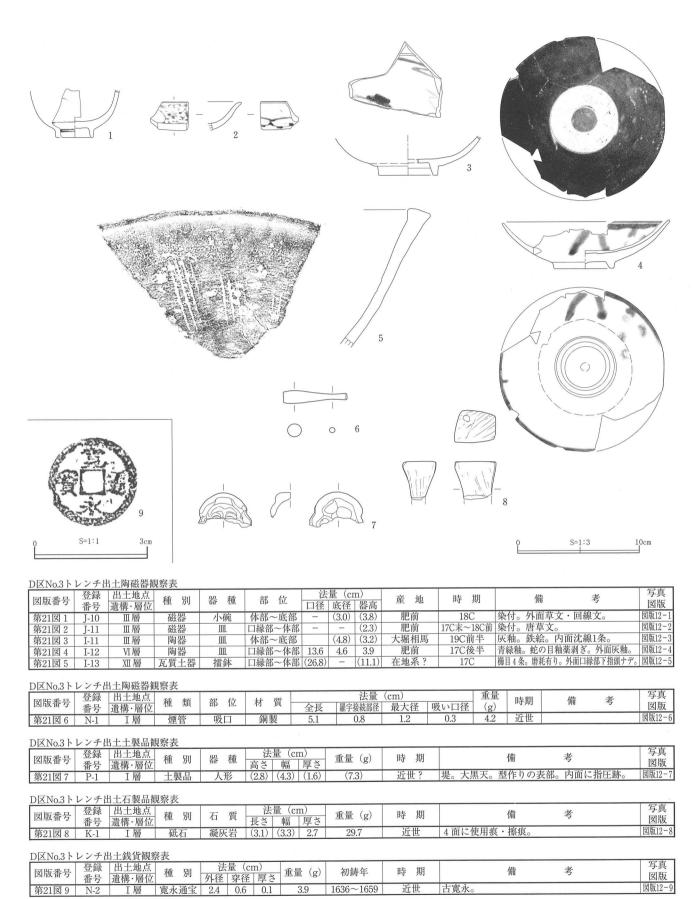
SX7はトレンチ南西に位置する。 皿層上面で確認した。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約50cm、短軸約20cm、深さ13cmを測る。堆積土は単層で炭化物少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

D区No.3トレンチ基本層土層註記

277010	1 1 1 / (12)					
層位	土	色	土質	土	性	備考
/B 122	土色No.	土色		粘性	しまり	VH 15
I	2.5 Y6/6	明黄褐色	砂	なし	あり	現表土。暗褐色砂質シルトブロック多量。
II	10YR4/2		砂質シルト	なし	あり	盛土。径5mm以下の焼土粒・炭化物粒多量。大〜中礫少量。砂・細礫多量。
Ш	5Y4/1	灰色	砂	なし	あり	整地土。近代。径1~2cmの礫で固められた整地層。
IV	10YR3/3		砂質シルト	なし	あり	盛土。径1cm程度の焼土・炭化物多量。細礫。近代の瓦。レンガ片。
V	10YR3/1		砂質シルト	なし	あり	整地土。近代。径5mm以下の炭化物少量。
VI	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	盛土。細~大礫多量。
VII	10YR3/4		砂質シルト	なし	あり	盛土。砂粒。細礫。径1cm程度の炭化物少量。
VIII	2.5Y5/6		砂質シルト	なし	ややあり	整地土。近代。径5mm以下の暗褐色砂質シルト粒多量。細礫・炭化物粒多量。
IX	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	盛土。径5mm以下の橙色シルト粒・中礫少量。径10mm程度の炭化物・小礫少量。
X	10YR4/3		砂質シルト	なし	なし	整地土。近世。径5mm以下の暗褐色シルト粒少量。
ΧI	10YR3/4	F1 1 7	砂質シルト	なし	あり	整地土。近世。径20mm程度の黄褐色シルトプロック・砂粒・細礫少量。
XΠ	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	あり	整地土。近世。遺構確認面。中礫・砂粒・径5mm以下の黄褐色シルト粒少量。
ΧIII	7.5YR6/6	褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。遺構確認面。極暗褐色シルトブロック多量。

D区No.3トレンチ遺構堆積土土層註記

	1 7 7 /	767 113 - H- 134 - T-	TAY HE PLACE HALL				
遺構名	層位	土.	色	土 質	土	性	備考
		土色No.	上 色	上具	粘 性	しまり	
SX1	確認面	10YR3/4	暗褐色	シルト	ややあり	ややあり	骨粉・中礫・径10mm程度の炭化物多量。
	1	10YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	礫(拳大)少量。径10mm炭化物多量・骨粉多量。
SX2	2	10YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	磔(拳大)少量。径5mm炭化物少量。骨粉多量。
	3	10YR3/2	黒褐色	シルト	ややあり	なし	径5mm黄褐色シルト粒多量。炭化物少量。
SX3	1	10YR2/1	黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5mm以下の黄褐色シルト粒少量。
SAS	2	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径5mm以下の黄褐色シルト粒少量。
SX4	確認面	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	3cm以下の黄褐色シルトブロック多量。
SX5	確認面	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5~20mm黄褐色シルトブロック少量。
SX6	確認面	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	大礫。
SX7	確認面	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物粒微量



第21図 D区No.3トレンチ出土遺物

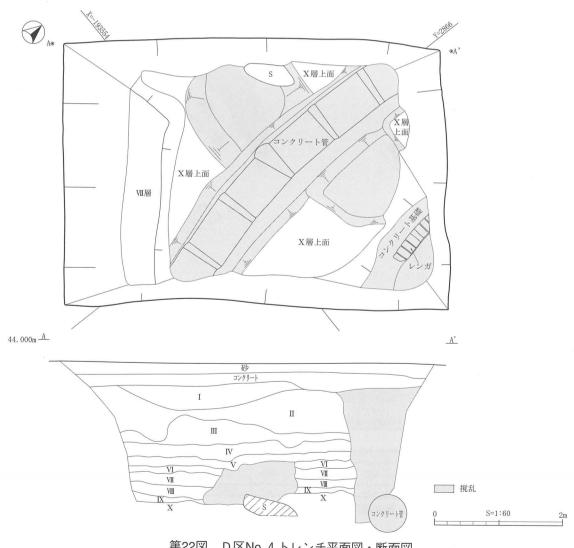
(4) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層 四層上面・基本層 四層上面の2面で7基を確認した。基本層 X層・四層の出土遺物は全て近世 の遺物で、近代以降の遺物を混入しないことから基本層 X 層・ XI 層・ XI 層の各層は近世の整地土と考える。 従って、基本層皿層上面の遺構は近世に属する。また、基本層皿層上面の遺構は近世以前に属すると考えられ る。遺構の確認状況からNo.3トレンチ周辺の遺構密度は高いと推測される。

No.4トレンチ (第22~23図、図版 4 - 8、図版 5 - 1 ~ 2)

S16-E57グリッドに位置する。トレンチは北東方向に長軸を設定し、規模は 4×6 mの長方形で面積は24㎡ である。掘削深度は約2.2mを測る。基本層序の作成は西壁で行った。Ⅰ層からⅢ層が瓦礫を含む盛土、以下、 自然堆積層となる。Ⅳ層は褐色シルトを含む粘土、V層は細礫を含む粘土質シルト、Ⅵ層は黒褐色シルト粒を含 む粘土質シルト、™層は黄褐色シルト、褐色シルトを少量含む粘土質シルト、™層は橙色シルト、黄褐色シルト を含む粘土質シルト、
区層は暗褐色シルトを多量に含む粘土質シルトである。遺構確認作業は
区層から区層の各 層上面で行ったが遺構は確認されなかった。

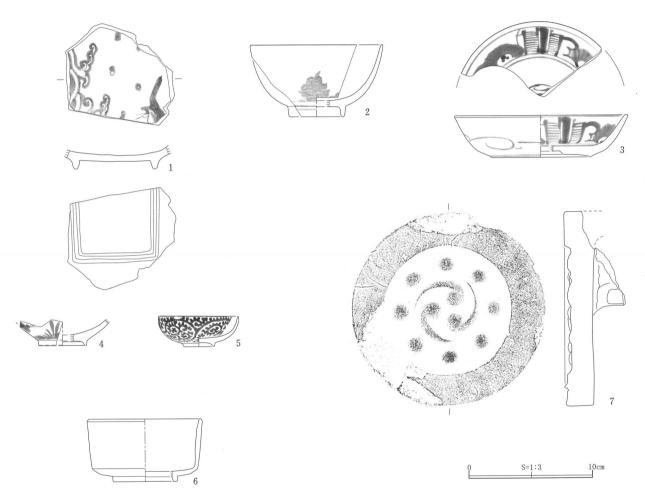
遺物は83点出土している(素6・p56)。撹乱及び基本層からの出土である。内訳は陶磁器類71点、瓦片11点、石製 品1点である。この内、近世に属する資料は肥前染付長皿(第23図1)がⅠ層~Ⅲ層、肥前染付碗(第23図2)、 瀬戸・美濃染付皿(第23図3)、肥前染付碗(第23図4)、肥前染付小坏(第23図5)、大堀相馬鉄釉半筒碗(第 23図6)、連珠三巴文軒丸瓦(第23図7)がⅢ層から出土している。



第22図 D区No.4トレンチ平面図・断面図

D区No.4トレンチ基本層土層註記

DIX.No.4	トレンナ基本	層工層出記				
層位	土	色	土質		性	備考
層位	土色No.	土色	上貝	粘性	しまり	
I	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	盛土。瓦礫。
II	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	盛土。瓦礫。
III	7.5YR2/1	黒色	粘土	あり	あり	盛土。瓦礫。
IV	7.5YR2/1	黒色	粘土	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の灰褐色シルト粒多量。
V	7.5YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の黄白色粘土質シルト粒微量。細礫少量。
VI	7.5YR5/6	明褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の黒褐色シルト粒少量。
VII	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の黄褐色シルト粒・径5mm以下の褐色シルト粒極微量。
	=======================================	Let not tel to	44 1 86 2 p 1	+ 10	+ h	自然堆積層。径5mm以下の橙色シルト粒。径5mm以下の黄褐色シルト・褐色シル
VIII	7.5YR2/3	極暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	ト粒微量。
IX	7.5YR6/6	橙色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の極暗褐色シルト粒斑状に多量。
	1077770.10	DD 45 48 75	東 1 時 2 カ 1	+ 10	+ 10	自然堆積層。径5mm以下の褐色シルト粒多量。径5mm以下の明褐色シルト粒少量。
X	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	スコリア粒微量。



D区No.4トレンチ出土陶磁器観察表

	TI TE LEAD HAY DILL BY	ルバン											D-1-1-1
登録 番号	出土地点 遺構·層位	種 別	器種	部 位	法 口径	量(cr 底径	n) 器高	産地	時 期		備	考	写真 図版
	Ⅰ~Ⅲ層	磁器	長皿	体部~底部	_	-	(2.3)	肥前	18C後半?	染付。貼			図版12-10
J-13	Ⅲ層	磁器	碗	口縁部~底部	(10.4)	5.8	(4.2)	肥前	18C前半?	染付。草			図版12-11
J-14	Ⅲ層	磁器	Ш	口縁部~底部	(13.7)	3.4	(7.8)	瀬戸・美濃	19 C 前半			外面唐草文。	図版12-12
J-15	Ⅲ層	磁器	碗	体部~底部	<u></u>	(4.0)	(2.1)	肥前	18 C				図版12-13
J-16	Ⅲ層	磁器	小坏	ほぼ完形	6.4	2.5	2.4	肥前	18C前半	染付。蛸	唐草。		図版12-14
I-14	Ⅲ層	陶器	半筒碗	口縁部~底部	(9.0)	5.0	(5.0)	大堀相馬	19 C	鉄釉。			図版12-15
	登録 番号 J-12 J-13 J-14 J-15 J-16	登録 出土地点 遺構·層位 J-12 I~皿層 J-13 皿層 J-14 皿層 J-15 皿層 J-16 皿層	登録 出土地点 種 別 遺構・層位 J-12 I~Ⅲ層 磁器 J-13 Ⅲ層 磁器 J-14 Ⅲ層 磁器 J-16 Ⅲ層 磁器 J-16 Ⅲ層 磁器 J-16 Ⅲ層 磁器	登録 出土地点 遺構・層位 種 別 器 種 J-12 I ~ Ⅲ層 磁器 長Ⅲ J-13 Ⅲ層 磁器 碗 J-14 Ⅲ層 磁器 碗 J-15 Ⅲ層 磁器 碗 J-16 Ⅲ層 磁器 小坏	登録 出土地点 種 別 器 種 部 位 基構・層位 重構・層位 長皿 体部〜底部 J-12 I ~ Ⅲ層 磁器 長皿 体部〜底部 J-13 Ⅲ層 磁器 施 口縁部〜底部 J-14 Ⅲ層 磁器 血 体部〜底部 J-15 Ⅲ層 磁器 小坏 ほぼ完形	登録 出土地点 種別 器種 部位 法 口径 J-12 I ~ Ⅲ層 磁器 長皿 体部~底部 - J-13 Ⅲ層 磁器 施 口縁部~底部 (10.4) J-14 Ⅲ層 磁器 皿 口縁部~底部 (13.7) J-15 Ⅲ層 磁器 施 体部~底部 - J-16 Ⅲ層 磁器 小坏 ほぼ完形 6.4	登録 出土地点 種別 器種 部位 法量(cr 口径 底径 J-12 I ~ Ⅲ層 磁器 長皿 体部~底部 - - J-13 Ⅲ層 磁器 碗 口縁部~底部(10.4) 5.8 J-14 Ⅲ層 磁器 皿 口縁部~底部(13.7) 3.4 J-15 Ⅲ層 磁器 碗 体部~底部 - (4.0) J-16 Ⅲ層 磁器 小坏 ほぼ完形 6.4 2.5	登録 出土地点 遺構・層位 種別 器種 部位 法量(cm) J-12 I ~ II 層 磁器 長皿 体部~底部 - - (2.3) J-13 II 層 磁器 碗 口縁部~底部(10.4) 5.8 (4.2) J-14 III 層 磁器 IIII 口縁部~底部(10.4) 5.8 (4.2) J-15 III 層 磁器 施 体部~底部(13.7) 3.4 (7.8) J-16 III 層 磁器 小坏 ほぼ完形 6.4 2.5 2.4	登録 出土地点 種別 器種 部位 法量(cm) 産 J-12 I ~ Ⅲ層 磁器 長皿 体部~底部 (2.3) 肥前 J-13 Ⅲ層 磁器 碗 口縁部~底部(10.4) 5.8 (4.2) 肥前 J-14 Ⅲ層 磁器 皿 口縁部~底部(13.7) 3.4 (7.8) 瀬戸・美濃 J-15 Ⅲ層 磁器 碗 体部~底部 - (4.0) (2.1) 肥前 J-16 Ⅲ層 磁器 小坏 ほぼ完形 6.4 2.5 2.4 肥前	登録 出土地点 遺構・層位 種 別 器 種 部 位 法量(cm) 口径 底径 産 地 時期 J-12 I ~ Ⅲ層 磁器 長皿 体部~底部 - - (2.3) 肥前 18C後半? J-13 Ⅲ層 磁器 碗 口縁部~底部(10.4) 5.8 (4.2) 肥前 18C前半? J-14 Ⅲ層 磁器 皿 口縁部~底部(13.7) 3.4 (7.8) 瀬戸・美濃 19C前半 J-15 Ⅲ層 磁器 碗 体部~底部 - (4.0) (2.1) 肥前 18C J-16 Ⅲ層 磁器 小坏 ほぼ完形 6.4 2.5 2.4 肥前 18C前半	登録 出土地点 遺構・層位 種 別 器 種 部 位 法量(cm) 口径 底径 器高 産 地 時期 J-12 I ~ Ⅲ層 磁器 長皿 体部~底部 - - (2.3) 肥前 18C後半? 染付。貼 J-13 Ⅲ層 磁器 碗 口縁部~底部(10.4) 5.8 (4.2) 肥前 18C前半? 染付。貼 J-14 Ⅲ層 磁器 皿 口縁部~底部(13.7) 3.4 (7.8) 瀬戸・美濃 19C前半 染付。蛇 J-15 Ⅲ層 磁器 碗 体部~底部 - (4.0) (2.1) 肥前 18C 染付。草 J-16 Ⅲ層 磁器 小坏 ほぼ完形 6.4 2.5 2.4 肥前 18C前半 染付。蛸	登録 出土地点 遺構・層位 種別 器種 部位 法量(cm) 口径 底径 器高 産地 時期 J-12 I ~ Ⅲ層 磁器 長皿 体部~底部 - - - (2.3) 肥前 18C後半? 染付。貼付高台。 J-13 Ⅲ層 磁器 焼 口縁部~底部 (10.4) 5.8 (4.2) 肥前 18C前半? 染付。貼付高台。 J-14 Ⅲ層 磁器 皿 口縁部~底部 (13.7) 3.4 (7.8) 瀬戸・美濃 19C前半 染付。蛇の目高台。 J-15 Ⅲ層 磁器 小坏 ほぼ完形 6.4 2.5 2.4 肥前 18C前半 染付。蛸唐草。 J-16 Ⅲ層 磁器 小坏 ほぼ完形 6.4 2.5 2.4 肥前 18C前半 染付。蛸唐草。	登録 出土地点 遺構・層位 種 別 器 種 部 位 法量(cm) 口径 底径 器高 産 地 時期 備 考 J-12 I ~ III 層 J-13 磁器 III 層 III 個 III 層 III 層 III 層 III 層 III 層 III 層 III 層 III 層 III 層 III 例 III A 本 本 上

D区No.4トレンチ出土土製品観察表

DIX.No.4 N	レンナロ	日工工製品售	兄祭衣											
登録 出土地点				法量(cm)				重要		+H #H:	***		写真	
図版番号		山上地点	種 別	文 様	直径	周	縁	厚さ	()	時期		備	考	図版
	番号	遺構·層位			旦.1王	幅	高さ	厚っ	(g)					
第23図 7	F-1	Ⅲ層	軒丸瓦	連珠三巴文	15.6	2.5	0.5	2.2	624.6	近世	左巻き。			図版12-16

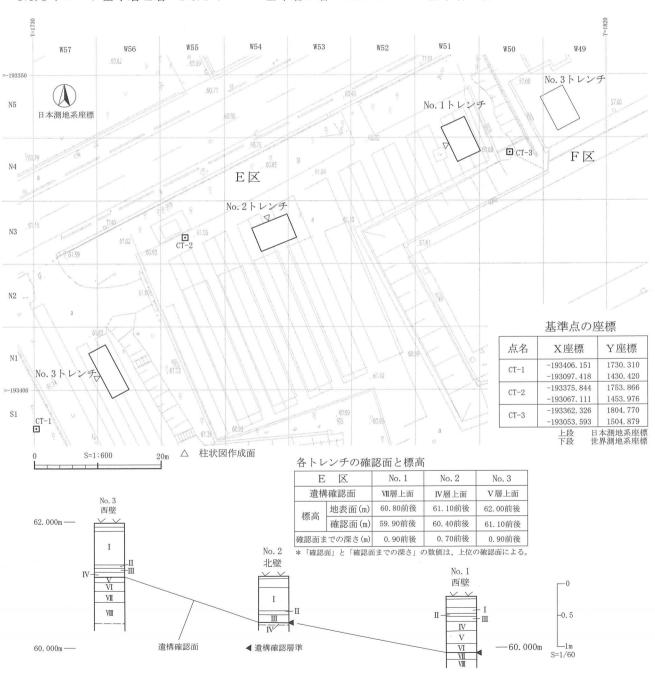
第23図 D区No.4トレンチ出土遺物

WI E区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

E区は東北大学学生実験棟北側の駐輪場内に 3 箇所のトレンチを設定した。トレンチ番号は東からNo. 1 ~No. 3 と名称を付けた。なお対象区は予定路線内(No. 3 トレンチ)および予定路線内と道路建設事業地が重複する部分(No. 1 トレンチ・No. 2 トレンチ)である。調査面積はNo. 1 トレンチが24㎡、No. 2 トレンチが24㎡、No. 3 トレンチが24㎡の計72㎡である。基本層序はアスファルト舗装・砕石敷きを除き、No. 1 トレンチでは 8 層 (I ~ \mathbb{W})、No. 2 トレンチでは 4 層 (I ~ \mathbb{N})、No. 3 トレンチでは 8 層 (I ~ \mathbb{W}) から成る。近代以降の盛土、整地土を除く基本層の対応は以下の通りである。

No.1トレンチ基本層 Ⅲ層⇔No.2トレンチ基本層 Ⅳ層⇔No.3トレンチ基本層 Ⅴ層



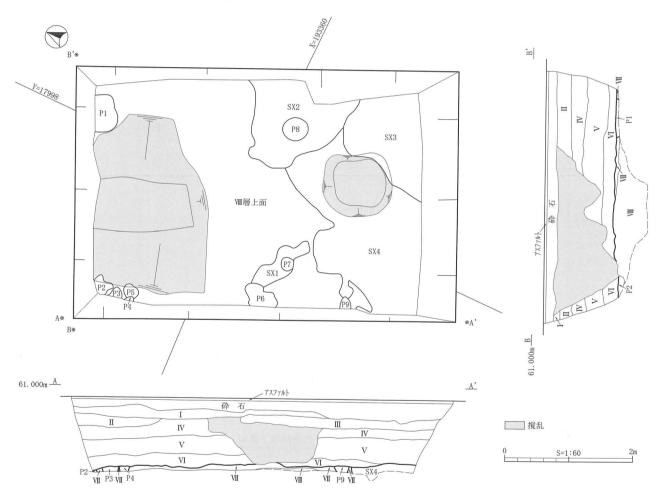
第24図 E区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 確認された遺構と遺物

No.1トレンチ (第25~26図、図版 5 - 3 ~ 7)

N4・5-W51グリッドに位置する。トレンチは北西方向に長軸を設定し、規模は4×6mの長方形で面積は24㎡である。掘削深度は約1.1mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。 I 層~V 層は盛土。 VI 層は細礫少量、炭化物少量含む近世の整地土。 VI 層・WI層は粘土質シルトの自然堆積層である。また VI 層は WI層上位の漸移層である。遺構確認作業は遺構プランが明確な WI層上面で行った。壁の断面観察で VII 層漸移層上面から掘りこむ遺構を確認したため、遺構確認面は VII 層とした。 WI 層上面で確認される遺構も、本来の掘り込み面は VII 層上面であると考える。遺構はピット 9 基、性格不明遺構 4 基を確認した。

遺物は陶磁器類が基本層及びSX 2 ・ 3 ・ 4 確認面から38点出土した (素7・p56)。近世に属する資料は志野丸皿 (第26図 1)、瀬戸・美濃灰釉鉄絵皿 (第26図 2)、肥前系灰釉陶器蓋 (第26図 3) が I 層から、肥前染付小皿 (第26図 4) が VI 層から出土している。



E区No.1トレンチ基本層十層註記

層位	土	色	土質	土	性	
/目 155	土色No.	土 色	土質	粘 性	しまり	備考
I	2.5Y3/2		粘土質シルト	ややあり	なし	盛土。細礫・砂粒多量。
II	2.5Y4/3	オリーブ褐色		ややあり	あり	盛土。1cm以下の炭化物ブロック。レンガ片少量。
Ш		にぶい黄褐色		あり	あり	盛土。黄褐色シルトブロック多量。径5mm以下の炭化物粒・焼土粒。
IV	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	盛土。黄褐色シルトブロック多量。レンガ片・炭化物ブロック少量。
V	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	盛土。 黄褐色シルトブロック・径5mm以下の焼土粒・炭化物粒・中礫少量。砂粒 多量。
VI	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	あり	あり	整地土。近世。砂粒多量。炭化物粒・細礫少量。
VII	7.5YR4/4		粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。遺構確認面。
VIII	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。

第25図 E区No.1トレンチ平面図・断面図

E区No.1トレンチ遺構堆積土土層註記

10.1	1 /	是 开了庄 [兵 <u>上</u>					
遺構名	層位	土 土色No.	色 土 色	土質	土 粘 性	<u>性</u> しまり	- 横 考
P1	確認面	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	あり	ややあり	砂粒。炭化物少量。
P2	確認面	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	径1~2cm褐色シルトブロック少量。
Р3	確認面	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	あり	あり	径5~10mmの炭化物粒少量。
P4	確認面	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	あり	あり	径5~10mmの炭化物粒少量。
P5	確認面	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	径1cmの褐色シルトブロック少量。
P6	確認面	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径2~5mm炭化物粒少量。
P7	確認面	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	径2~5mmの褐色シルト粒・径2~5mmの炭化物少量。
P8	確認面	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややなし	径2~5mmの褐色シルト粒多量。鉄分。
P9	確認面	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	ややあり	あり	径5~10mm褐色粘土質シルトブロック少量。
SX1	確認面	2.5Y4/3		粘土質シルト	ややあり	ややあり	径3~5mm炭化物粒多量。
SX2	確認面	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	鉄分の沈着多量。
SX3	確認面	2.5Y4/3		粘土質シルト	あり	なし	径3~10mm褐色粘土質シルトブロック多量。
SX4	確認面	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	ややあり	なし	灰オリーブ粘土質シルトブロック多量。

(1) P1~P9 ピット(第25図、図版5-7)

P1はトレンチの北、M層上面で確認した。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約60cm、短軸約30cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は炭化物を含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

 $P2 \sim P5$ はトレンチ北西隅、M層上面で確認した。P2 はP3 を切り、P4 はP5 を切る。平面形は楕円形で、規模は径約10cm ~ 26 cmを測る。P2、P3、P4 はトレンチ外へ拡がる。堆積土はいずれも砂質シルトで、P3、P4 は炭化物を含む。遺物の出土はない。

P6はトレンチの西、畑層上面で確認した。東側でSX1を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約56cm、短軸約32cm測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は炭化物を含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

P7はトレンチの中央西、SX1の遺構の平面形内で確認した。平面形は楕円形で、規模は径約20cmを測る。 堆積土は炭化物を含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

P8はトレンチの中央東、SX2の遺構の平面形内で確認した。平面形は楕円形で、規模は径約40cmを測る。 堆積土は鉄分を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

P9はトレンチの西、Ⅲ層上面で確認した。東側でSX4を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約16cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土はシルトである。遺物の出土はない。

(2) SX1~SX4 性格不明遺構(第25図、図版5-7)

SX1はトレンチ中央西、個層上面で確認した。西側でP6、遺構内をP7に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約101cm、短軸約22cmを測る。堆積土は炭化物を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

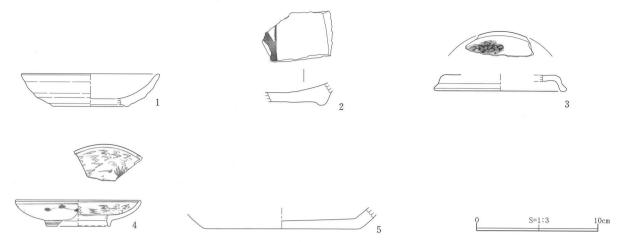
SX2 はトレンチの東、m層上面で確認した。南側でSX4 を切り、SX3 に切られ、遺構内をP8 に切られる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約150cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は鉄分を多く含む砂質シルトである。遺物は確認面から近世の陶器片が3 点出土した。

SX3はトレンチの南東、SX2、SX4の遺構の平面形内で確認した。北側でSX2、西側でSX4を切る。平面形は不明で、規模は上端長軸約124cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は粘土質シルトである。遺物は確認面から近世の磁器片が2点出土した。

SX4はトレンチ中央南、W層上面で確認した。西壁の断面観察からW層を掘り込んでいることが判明したため、本来の遺構確認面はW層上面である。東側でSX2、SX3、西側でP9に切られる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約250cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土はシルトである。遺物は確認面から近世の陶磁器片が5点、土師質皿片(第26図5)が1点出土している。

(3) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層 III 層上面で13基を確認した。基本層 II 層の出土遺物は近世の遺物のみで近代以降の遺物が混入しないことから近世の整地土と考える。また、遺構確認面の基本層 III 層上面は、遺構から出土した遺物より、近世の遺構面と考えられる。遺構の確認状況からNo.1トレンチ周辺の遺構密度は高いと推測される。



E区No.1トレンチ出土陶磁器・土器観察表

図版番号	登録 番号	出土地点 遺構·層位	種 別	器 種	部 位	法 口径	量(cr 底径	n) 器高	産地	時 期	備	考	写真 図版
第26図 1	I-15	I層	陶器	丸皿	口縁部~底部	(11.1)	(6.2)	(2.6)	美濃	17C	志野釉。		図版12-17
第26図 2	I-16	I層	陶器	Ш	底部	-	(13.2)	(1.8)	瀬戸・美濃	17C中頃	灰釉。鉄絵。目跡	あり。	図版12-18
第26図 3	I-17	I層	陶器	蓋	口縁部	_	(10.6)	(1.3)	肥前系	17C後半?	灰釉。上彩呉須絵。	透明釉。	図版12-19
第26図 4	J-17	VI層	磁器	小皿	口縁部~底部	(10.1)	(5.0)	2.1	肥前	19C前半	染付。海浜文。		図版12-20
第26図 5	I-18	SX4 確認面	土師質土器	Ш	底部	-	(12.2)	(1.7)	在地系	近世	A		図版12-21

第26図 E区No.1トレンチ出土遺物

No. 2 トレンチ (第27~28図、図版 5 - 8、図版 6 - 1~3)

N3-W53・54グリッドに位置する。トレンチは北東方向に長軸を設定し、規模は 4×6 mの長方形で面積は24 mである。掘削深度は約1.0 mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。 I 層盛土。 II 層から II 層が細礫を多く含む近代以降の整地土。 IV 層から粘土質シルトの自然堆積層となる。 II 層上面で根固め石を伴う建物跡を確認した。この建物跡は東北大学埋蔵文化財調査研究センターのこれまでの調査事例 (株) から陸軍第二師団の施設の基礎である。遺構確認作業は IV 層上面で行った。遺構はピット15 基、性格不明遺構 1 基を確認した。遺物は撹乱から近世の磁器を2 点出土したのみである (株) p56)。この内 1 点は肥前染付壺(第28 図 1)である。

(1) P1~P15 ピット(第27図、図版 6-3)

トレンチ内の撹乱を除く範囲、IV層上面で確認した。切り合うピットは4基で、P2はP3、P6はP7を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の径約20cm ~50 cmを測る。建物跡や柱列跡を構成するピットは認められない。 堆積土は色調の違いはあるが粘土質シルトで、P2は炭化物を含み、P4、P5、P8、P15は鉄分を多く含む。遺物の出土はない。

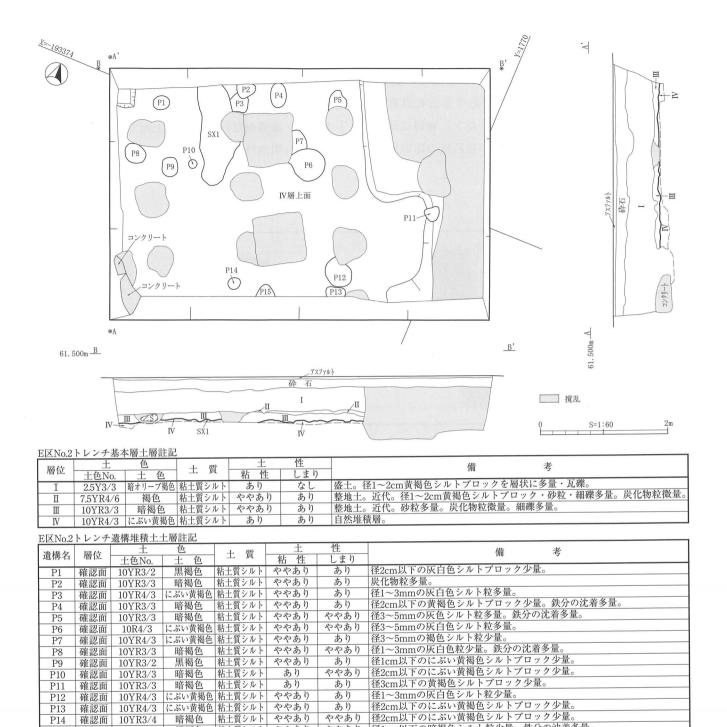
(2) SX1 性格不明遺構 (第27図、図版 6 - 3)

SX1はトレンチ中央北、Ⅳ層上面で確認した。東側でP3を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約158cm、短軸約60cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は粘土質シルトである。遺物の出土はない。

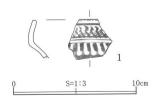
(3) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層 IV 層上面でピット15基、性格不明遺構 1 基を確認した。これらの遺構は近代整地土である基本層 III 層を掘り込まないことや、基本層 IV 層はNo. 1 トレンチ基本層 III 層上面に対応することから近世の遺構と考えられる。

⁽註) 藤澤敦氏(東北大学埋蔵文化財調査研究センター)のご教示による。第二師団関連の建物基礎は、東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000 『東北大学埋蔵文化財調査年報 13』 P.70-71に類例がある。



E区No.2トレンチ平面図・断面図



10YR4/3

確認面 10YR3/4

確認面 10YR3/2

P15 確認面 10YR4/1

確認面 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト

P13

にぶい黄褐色 粘土質シルト

粘土質シルト

粘土質シルト

粘土質シルト

暗褐色

褐灰色

黒褐色

ややあり ややあり

ややあり

ややあり

ややあり

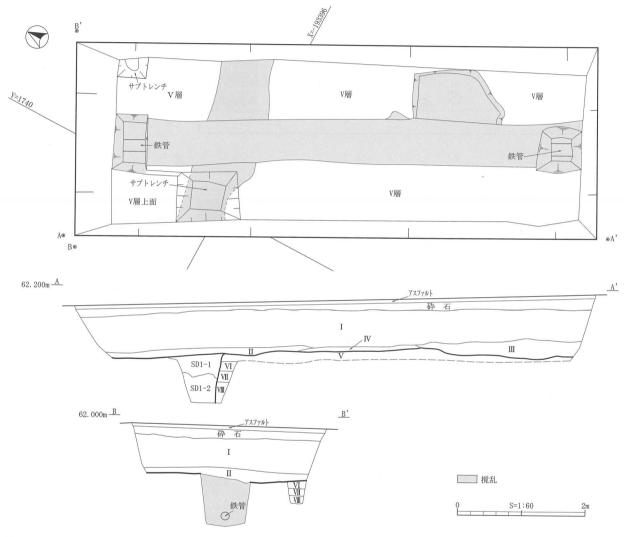
E区No	211	レンチ出	上陶磁器	見察表			
図版看	昏号	登録 番号	出土地点 遺構·層位	種 別	器 種	部	位
第28图	第28図 1 J-18		撹乱	磁器	壺	口縁部~	~体部
法 口径	量(c 底径	m) · 器高	産 地	時 期	備	考	写真 図版
-	_	(3.3)	肥前	18c	染付。外面蓮弁	文。	図版12-22

 ややあり
 径1cm以下の暗褐色シルト粒少量。鉄分の沈着多量。

 あり
 径1~2cm黄褐色シルトブロック少量。

第28図 E区No.2トレンチ出土遺物

No. 3 トレンチ (第29図、図版 6 - 4 ~ 6)



E区No.3トレンチ基本層土層註記

層位	土	色	土質	土	性	Alt.
7 [10]	土色No.	上 色		粘 性	しまり	備 考
I	5Y3/1		粘土質シルト	ややあり		盛土。瓦礫・礫多量。
II	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり		盛土。暗褐色土ブロック・細礫多量。
\blacksquare	7.5YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	盛土。1cm以下の黄褐色シルトブロック・焼土・炭化物多量。
IV	7.5YR4/3		粘土質シルト	あり	あり	整地土。近代。細礫・砂粒少量。
V	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり		自然堆積層。鉄分の沈着多量。
VI	10YR4/2		砂質シルト	ややあり	あり	自然堆積層。
VII	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。
VIII	10YR4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	あり	自然堆積層。

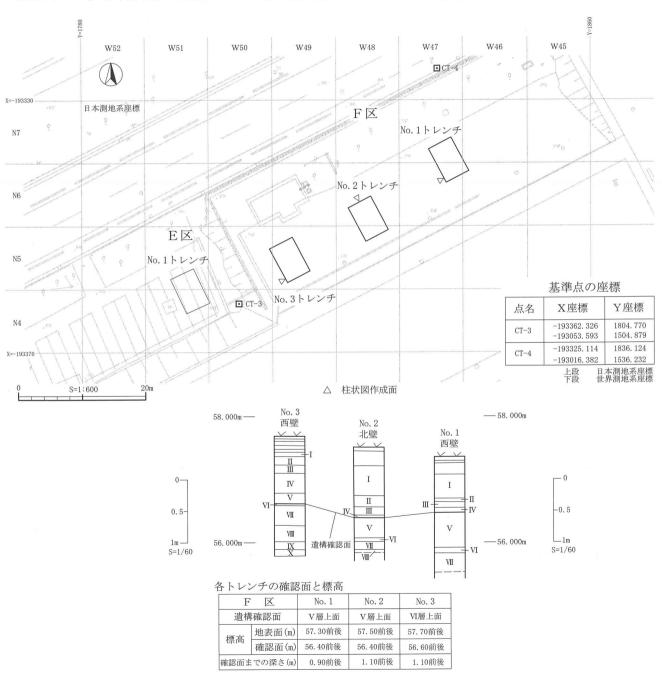
第29図 E区No.3トレンチ平面図・断面図

IX F区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

No.1トレンチ基本層 V 層⇔No.2トレンチ基本層 V 層⇔No.3トレンチ基本層 VI 層

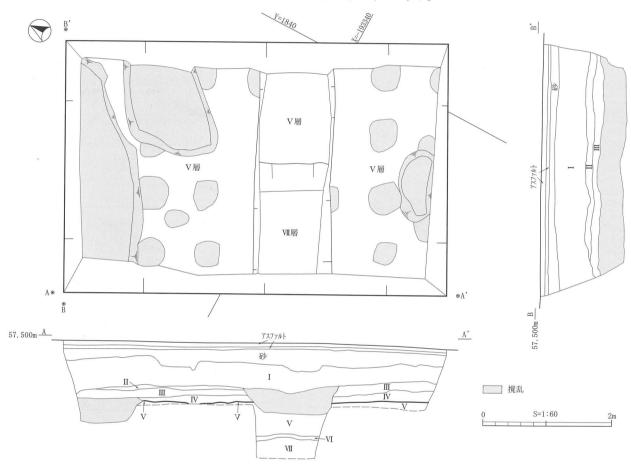
No.1トレンチ基本層 W層⇔No.2トレンチ基本層 W層⇔No.3トレンチ基本層 X層



第30図 F区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 確認された遺構と遺物

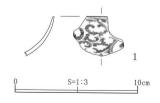
No.1トレンチ (第31図、図版 6 - 7 ~ 8、図版 7 - 1)



F区No.1トレンチ基本層土層註記

1 2110.1	トレノノ至人	一门一工门				
層位	土	色	土質	土	性	th: +v
7 E 122	土色No.	土 色	上貝	粘 性	しまり	備
I	5Y5/3	灰オリーブ	砂	なし	なし	盛砂。
	2.5Y2/1	黒色	砂	なし	なし	盛土。細礫~中礫。ガラス。粗粒砂。
\blacksquare	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	あり	あり	盛土。小礫・径1cm程度の炭化物・焼土少量。
IV	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	なし	整地土。近代。砂粒・明褐色シルトブロック。細礫多量。
V	7.5YR5/8	明褐色	粘土質シルト	あり	なし	自然堆積層。
VI	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	自然堆積層。
VII	2.5Y5/4	黄褐色	砂礫	なし	なし	自然堆積層(段丘礫層)。10cm以下の円礫。

第31図 F区No.1トレンチ平面図・断面図



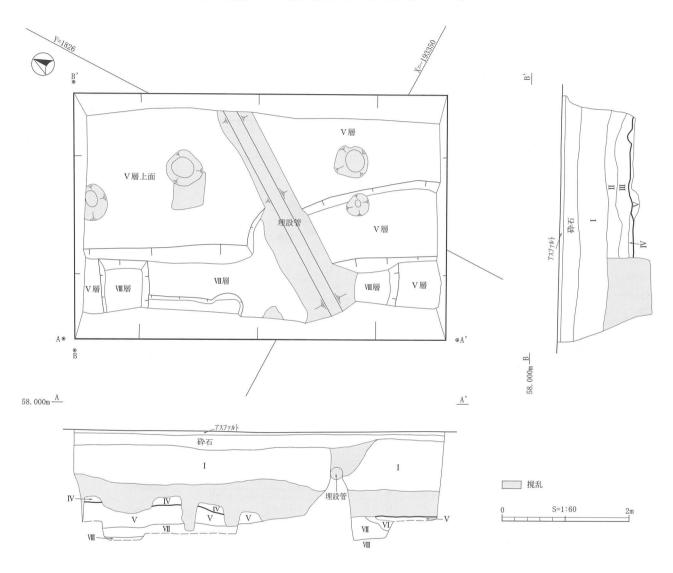
F区No.1トレンチ出土磁器観察表

T ETTIC	7.1 1	/// Ц			111					
図版	番号	登録 番号		地点	種	別	器	種	部	位
第32	× 1	J-19	遺構·層位 撹乱		磁器		小碗		口縁部	~体部
	法量 (cm)		産	地	時	期	備		考	写真
口径	底径	器高 (3.6)							77	図版
			肥前		18c		染付。唐	草文。		図版12-23

第32図 F区No.1トレンチ出土遺物

No.2トレンチ (第33図、図版7-2~3)

N5・6-W48グリッドに位置する。トレンチは北西方向に長軸を設定し、規模は 4×6 mの長方形で面積は 24 mである。掘削深度は約1.1 mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。 I 層~皿層までは近代以降の盛土、I 層は近代の整地土、以下、自然堆積層となり、I と個は粘土質シルト、I 個に対子の粗い砂層、I 個に対する。遺構確認作業はI を関上面で行ったが遺構の確認はない。遺物は撹乱と基本層 I 層から近世と近代以降の磁器片がI 8 点出土したのみである I (288・I I I)。



F区No.2トレンチ基本層土層注記

1. P.140.7	トレノリ本人	下層工層往記				
層位	土 土色No.	色 土 色	土 質	土 粘 性	性しまり	備考
I	10YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	盛土。砂礫・ガラ多量。
II	10YR2/1	黒色	シルト	あり	ややあり	盛土。レンガ片・砂粒多量。
Ш	5Y4/3	暗オリーブ	粘土質シルト	あり	あり	盛土。砂粒多量。
IV	7.5YR6/8	橙色	粘土質シルト	あり	なし	整地土 近代。砂粒少量。礫。褐色シルトブロック多量。
V	7.5YR5/8	明褐色	粘土質シルト	あり	なし	自然堆積層。
VI	7.5YR5/6	明褐色	砂	なし	あり	自然堆積層。やや粒子の粗い砂。
VII	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	自然堆積層。
VIII	2.5Y5/4	黄褐色	砂礫	なし	なし	自然堆積層(段丘礫層)。10cm以下の円礫。

第33図 F区No. 2 トレンチ平面図・断面図

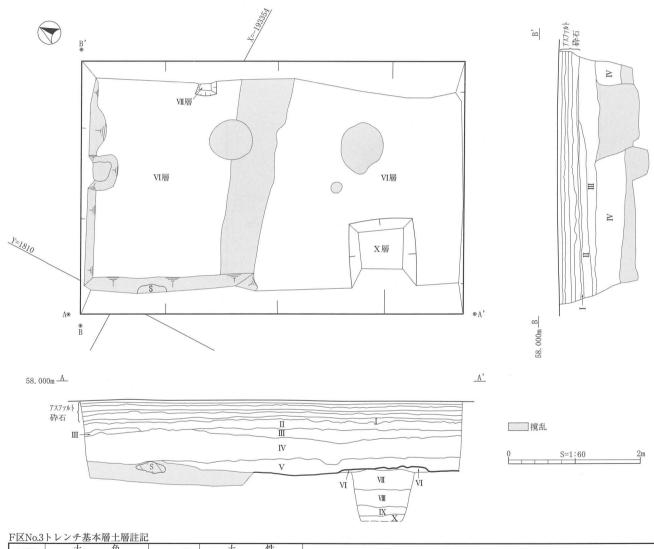
No. 3 トレンチ (第34図、図版 7 - 4 ~ 5)

黄褐色

2.5Y5/4

N5-W49・50グリッドに位置する。トレンチは北西方向に長軸を設定し、規模は4×6mの長方形で面積は 24㎡である。掘削深度は約1.2mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。 I 層~IV層までは近代以降の 盛土、V層は近代の整地土、以下、自然堆積層となり、Ⅵ層~哑層は粘土質シルト、Ⅸ層は砂質シルト、X層は 砂礫(段丘礫層)である。遺物は基本層より24点出土した(メル・p57)。内訳は近代以降を主とする陶磁器類23点、 その他1点である。

なおトレンチ北西角から北へ1mの地点で、アスファルト舗装の陥没により近世の井戸跡1基が発見されてい る。



色 層位 十色<u>No.</u> 土 質 考 しまり オリーブ黒 砂質シルト 盛土。砂粒・炭化物粒・細礫多量 5Y3/2 ややあり なし 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土質シルト あり あり 盛土。焼土ブロック・小礫。炭化物粒微量 盛土。 成土ノロック・小味。灰化物粒板量。 盛土。 瓦礫・レンガ片・砂粒・炭化物粒多量。 盛土。 炭化物とにぶい黄褐色シルトの互層に堆積。小礫多量。 暗オリーブ 粘土質シルトオリーブ黒 砂質シルト III 5Y4/3 ややあり ややあり IV 5Y3/2 なし あり 明褐色 整地土。近代。上部に礫多量。灰色粘土質シルトの互層状堆積。 自然堆積層。砂粒微量。 7.5YR5/6 粘土質シルト ややあり あり VI 7.5YR6/8 橙色 粘土質シルト なし VII 7.5YR5/8 明褐色 粘土質シルト あり なし 自然堆積層。暗褐色シルト粒少量 粘土質シルト 砂質シルト VIII 7.5YR5/8 明褐色 あり なし 自然堆積層。 なしなし 10YR5/6 黄褐色 自然堆積層。 IX なし

第34図 F区No.3トレンチ平面図・断面図

自然堆積層(段丘礫層)。10cm以下の円礫。

ややあり

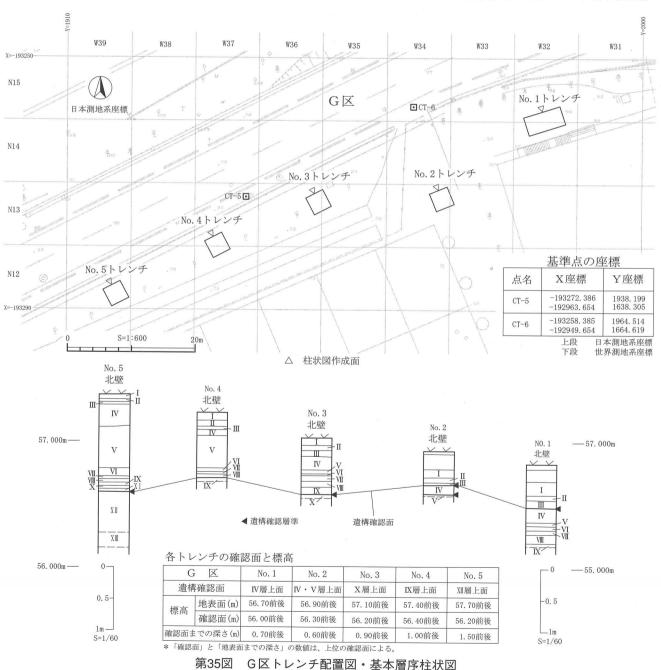
X G区の調査成果

調査区の設定及び基本層序

G区は東北大学川内体育館の周辺と市道沿いの緑地帯に5箇所のトレンチを設定した。トレンチ番号は東から No.1~No.5 と名称を付けた。なお対象区は予定路線内と道路建設事業地が重複する部分 (No.2・No.4・No. 5トレンチ)及び道路建設事業地内(No.1・No.3トレンチ)である。調査面積はNo.1トレンチが $18\,\mathrm{m}$ 、No.2 5層 ($I \sim V$)、No. 3 トレンチでは10層 ($I \sim X$)、No. 4 トレンチでは 9層 ($I \sim X$)、No. 5 トレンチでは13 層(I~皿)から成る。表土、近代以降の盛土・整地土を除く基本層の対応は以下の通りである。

No.2 トレンチ基本層 IV 層⇔No.3 トレンチ基本層 IV 層

No.1 トレンチ基本層 X 層 \Leftrightarrow No.2 トレンチ基本層 V 層 \Leftrightarrow No.3 トレンチ基本層 X 層 \Leftrightarrow No.4 トレンチ基本層 X 層 \Leftrightarrow No.5 トレンチ基本層 X 層



2 確認された遺構と遺物

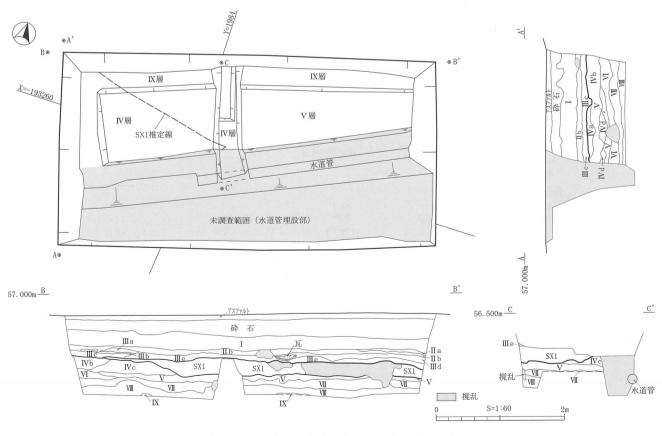
No.1トレンチ (第36~37図、図版 7 - 6 ~ 8 、図版 8 - 1 ~ 2)

N14・15-W32グリッドに位置する。トレンチは東西方向に長軸を設定し、規模は 3×6 mの長方形で面積は18 m°である。掘削深度は約1.3 mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。 I 層盛土から I 層粘土質シルトまで大別 I 層、細別I 7層からなる。 I 層は細礫、炭化物を含む盛砂。 I 層は細別 I 層がらなり、細礫多量、中礫、炭化物含む盛土。 I 層は細別 I 層からなり、桟瓦を伴う近代以降の整地土。 I 層は細別 I 層がらなり、炭化物、焼土多量に含む近世の整地土。 I 層へ I 層に一個層は中礫、炭化物を含む近世の整地土。 I 区層から粘土質シルトの自然堆積層となる。遺構確認作業は I 層上面で行ったが遺構の確認は出来なかった。トレンチ中央に南北ベルトを設定し、さらに I 層上面・I 個層上面を振り下げた。北壁及び南北ベルトの断面観察から、I 層を掘り込んでいる性格不明遺構 I 基を確認した。 I 個層以下の土層堆積状況の観察は北側・西側に設定したサブトレンチで行い、I 区層を確認した。

遺物は撹乱及び基本層、S X 1 堆積土から211点が出土した (※9・p57)。内訳は陶磁器類164点、瓦片41点、石製品 1 点、金属製品 2 点、その他3点である。この内、近世に属する資料は瀬戸・美濃白磁紅皿(第37図 1)が撹乱から、肥前染付皿(第37図 2)が皿層、肥前染付合子蓋(第37図 3)、信楽鉄釉二耳壺(第37図 4)がIV層、焼塩壺(第37図 5)、岸窯系鉄釉擂鉢(第37図 6)が V 層、肥前染付碗(第37図 7)がIV層から出土している。

(1) SX1 性格不明遺構(第36図、図版7-7)

平面での遺構プランが不明瞭であったため確認に至らなかった。南北ベルトと北壁の断面観察からⅣ層を掘り込んでいることが判明した。遺構の上端を推定するとトレンチの北側大半を占め、さらにトレンチ外へ拡がる。平面形は不明で、規模は確認長軸約490cm、深さ約25cmを測る。底面は平坦であると考えられる。堆積土は単層で中礫少量、炭化物粒を多く含む砂質シルトである。遺物は近世の陶磁器片が8点出土した。



第36図 G区No.1トレンチ平面図・断面図

G区No.1トレンチ基本層土層註記

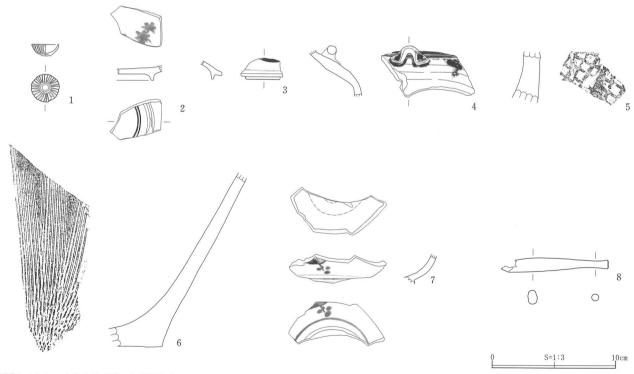
01-11011	1 / CE	上,自一下,自计下口				
層位	土	色	土質	土	性	備考
/目 1.22	土色No.	土 色	上貝	粘性	しまり	7個 考
I	N1.5/0	黒色	砂	なし	あり	盛砂。細礫・炭化物・砂粒多量。
Πa	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	盛土。径1~3cm暗褐色シルトブロック・細礫多量。
ΙΙb	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	盛土。径5mm以下の炭化物粒少量。中礫少量。
Шa	10YR3/3	暗褐色	シルト	なし	ややあり	整地土。近代以降。炭化物粒・焼土粒・細礫微量。
Шb	2.5Y5/4	黄褐色	砂	なし	なし	整地土。近代以降。細礫多量。
Шc	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	なし	あり	整地土。近代以降。径1cm炭化物・焼土粒・細礫少量。
Шd	10YR3/3		砂質シルト	ややあり	ややあり	整地土。近代以降。砂粒多量。近代以降の瓦。
Шe	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	なし	あり	整地土。近代以降。砂粒多量。炭化物粒微量。鉄分の沈着多量。
Νa	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	整地土。近世。炭化物粒。焼土粒多量。
IVb	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	整地土。近世。径1~3cm黄褐色シルトブロック多量。
Vс	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	ややあり	整地土。近世。径5mm以下の炭化物粒多量。鉄分の沈着多量。
IV d	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし		整地土。近世。径5mm以下の炭化物粒・焼土粒多量。
V	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	整地土。近世。径5mm以下の炭化物粒微量。中礫少量。
VI	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり		整地土。近世。径5mm以下の炭化物粒微量。中礫少量。
VII	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	あり	整地土。近世。径5mm以下の黄褐色シルト粒微量。
VIII	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	なし	整地土。近世。径5mm以下の黄褐色シルト粒多量。炭化物粒少量。
IX	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。

G区No.1トレンチ遺構堆積土土層註記

遺構名	層位	土 土色No.	色 十	土質	土 址 姓	性しまり		備	考	
SX1	確認面		灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	中礫少量。炭化物粒多量。			

(2) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層IV層上面で性格不明遺構 1 基を確認した。基本層IV層からは近代以降の遺物の混入がないことや遺構から出土した遺物から、遺構確認面である基本層IV層上面は、近世の遺構面と考える。



G区No.1トレンチ出土陶磁器・土器観察表

図版番号	登録 番号	出土地点 遺構·層位	種 別	器 種	部 位	法 口径	量(cr 底径	n) 器高	産 地	時 期	備	考	写真 図版
第37図 1	J-20	攪乱	磁器	紅皿	完形	2.1	0.9	0.8	瀬戸・美濃	19C中頃	白磁釉。型押し	成形。	図版13-1
第37図 2	J-21	Ⅲ層	磁器	Ш	底部		-	(1.2)	肥前	18C	染付。見込草花文	。高台裏二重圏線。	図版13-2
第37図3	J-22	IV層	磁器	合子蓋	天井部	_	-	(1.5)	肥前		染付。		図版13-3
第37図 4	I-19	IV層	陶器	二耳壺?	体部	·-	_	(2.9)	信楽?	18C	鉄釉。		図版13-4
第37図 5	I-20	V層	土師質土器	焼塩壷	体部		_	(4.0)	在地系	17C	外面格子タタキ目。手	づくね。二次過熱痕なし。	
第37図 6	I-21	V層	陶器	擂鉢	体部~底部	-		(14.0)	岸窯系		鉄釉。櫛目9条		図版13-6
第37図 7	J-23	VI層	磁器	碗	体部	-	_	(2.2)	肥前	18C	染付。草花文。	砂目痕。	図版13-7

G区No.1トレンチ出土金属製品観察表

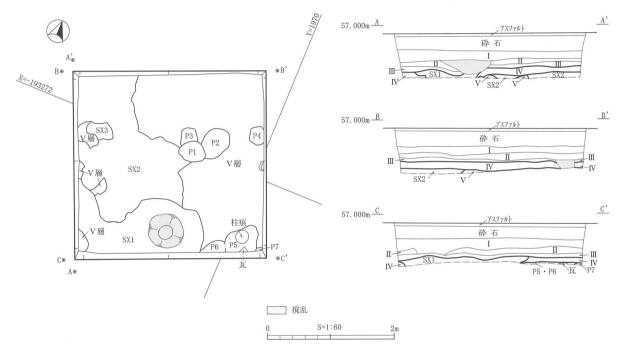
図版番号	豆稣	出土地点	繙 粨	郊 佔	太大 原斤		法量	(cm)		重量	時期	LH:	-tv.	写真
四加田马	番号	遺構·層位	1年 双	교 기가	1/10 貝	全長	羅宇接続部径	最大径	吸い口径	(g)	吁舠	1/用	45	図版
第37図8	N-3	I層	煙管	吸口	銅製	8.3	_	1.1	0.3	6.6	近世			図版13-8
														ELIBERG C

第37図 G区No.1トレンチ出土遺物

No.2トレンチ (第38~39図、図版8-3~6)

N13-W33・34グリッドに位置する。トレンチは3×3mの方形で面積は9㎡である。掘削深度は約0.7mを測る。基本層序の作成は南壁、東壁、西壁で行った。I層は盛土、Ⅱ層は円礫、鉄屑を多量に含む盛土、Ⅲ層は礫を多量に含む近代以降の整地土、Ⅳ層は黄褐色シルトブロック、炭化物少量を含む近世の整地土、Ⅴ層から粘土質シルトの自然堆積層である。遺構確認作業はV層上面で行った。確認した遺構はピット7基、性格不明遺構3基である。壁の土層断面観察でⅣ層上面から掘りこむ遺構を確認したため、遺構確認面はⅣ層上面とV層上面とした。

遺物は基本層及びSX1・P1確認面から35点が出土した(素9・p57)。内訳は陶磁器類32点、瓦片1点、金属製品 1点、土製品1点である。この内、近世に属する資料は岸窯系擂鉢(第39図-1)が1層、瀬戸・美濃灰釉小坏 (第39図-2)がIV層から出土している。



G区No.2トレンチ基本層土層註記

GE110.2	区10.2 ドレン / 宏平眉工眉吐比											
層位	土	色	土 質	土	性	- 備 考						
眉瓜	土色No.	土 色		粘性	しまり	VID. V						
I	10YR2/2		砂質シルト	なし	あり	盛土。						
II	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	盛土。径3~4cmの円礫・針金・鉄屑多量。						
\blacksquare	10YR4/4	褐色	シルト	あり	あり	整地土。近代。上部はⅡ層の礫が転圧で混入。						
IV	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	ややあり	整地土。近世。黄褐色シルトブロック。径2~3mm炭化物粒少量。						
V	10YR5/6	黄褐色	シルト	あり	ややあり	自然堆積層。						

G区No.2トレンチ遺構堆積土土層註記

0 110.2	区110.2 「レマ / 返悟・作恨工工/自止印												
遺構名	層位	土	色	土質	土	性	備考						
退得石	眉匹	土色No.	土 色		粘 性	しまり	, n						
P1	確認面	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色シルト粒少量。						
P2	確認面	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径1~3mm炭化物粒少量。						
P3	確認面	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径2~5mm黄褐色シルト粒少量。						
P4	確認面	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2~5mm黄褐色シルト粒・炭化物粒少量。						
P5	確認面	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径1~3mm褐色シルト粒・炭化物粒少量。						
P5柱痕	確認面	2.5Y5/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	径3~5cm褐色シルトブロック多量。炭化物粒少量。						
P6	確認面	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	あり	あり	径1~3mm褐色シルト粒・炭化物粒少量。						
P7	確認面	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし		径1~5mm黄褐色シルト粒少量。						
SX1	確認面	5Y4/1	灰色	シルト	あり	なし	径3~10mm炭化物多量。褐色土ブロック含む。						
SX2	確認面	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径1~5mm炭化物粒多量。						
SX3	確認面	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2~5mmの褐色シルト粒少量。						

第38図 G区No.2トレンチ平面図・断面図

(1) P1~P7 ピット (第38図、図版 8 - 6)

P1~P4はトレンチの中央~中央東に位置する。V層上面で確認した。P1は東側でP2、北側でP3、西側でSX2を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約42cm、短軸約36cmを測る。堆積土は砂質シルトである。遺物は確認面から近世の丸瓦片1点、焼塩壺(第39図5)1点が出土した。P2は西側でP1に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約48cm、短軸約38cmを測る。堆積土は炭化物少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。P3は南側でP1に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約24cmを測る。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。P4は平面形が楕円形で、規模は上端の長軸約28cmを測る。堆積土は炭化物少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

P5はトレンチ南に位置する。V層上面で確認した。柱痕跡をもつ柱穴である。P6との切り合い関係は不明瞭であった。東側でP7を切る。平面形は不明で、規模は上端の長軸約60cmを測る。堆積土は炭化物粒少量含む砂質シルトである。柱痕跡の平面形は円形で、規模は直径約20cmを測る。堆積土は炭化物粒少量含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

P6、P7はトレンチ南に位置する。 V層上面で確認した。P6は西側でSX1に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約30cmを測る。堆積土は炭化物少量含む砂質シルトである。P7は西側でP5に切られる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約10cmを測る。堆積土は炭化物少量含む砂質シルトである。ともに遺物の出土はない。

(2) SX1~SX3 性格不明遺構(第38図、図版8-6)

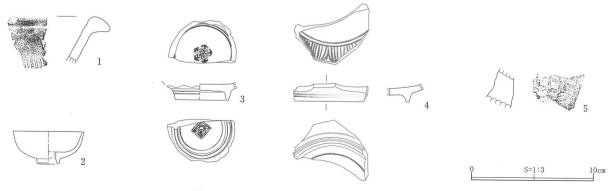
SX1 はトレンチ南に位置する。壁の土層断面観察からIV層を掘り込んでいることが判明した。東側でP6、北側でSX2 を切る。平面形は不明で、規模は上端の長軸約196cmを測る。堆積土は炭化物多量に含むグライ化したシルトである。遺物は確認面から近世の陶磁器類6 点が出土した。内2 点は、肥前染付碗(第39図3)、肥前染付皿(第39図4)である。

SX2 はトレンチ中央西に位置する。 V層上面で確認した。東側でP1、南側でSX1 に切られ、西側でSX3 を切る。平面形は不明で、規模は上端の長軸約232cmを測る。堆積土は炭化物多量に含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

SX3はトレンチ西に位置する。 V層上面で確認した。周囲をSX2に切られる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約44cmを測る。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。

(3) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層 IV 層上面と基本層 V 層上面で計10基を確認した。基本層 IV 層の出土遺物は、全て19世紀~幕末に属し、基本層 IV 層上面で確認した SX 1 の出土遺物は近世の遺物のみであることから、基本層 IV 層は近世の整地土と考える。遺構確認面は基本層 IV 層上面・基本層 V 層上面の 2 面で、出土遺物などから近世の遺構面と考えられる。遺構の確認状況からNo. 2 トレンチ周辺の遺構密度は高いと推測される。



第39図 G区No.2トレンチ出土遺物

G区No.2トレンチ出土陶磁器・土器観察表

0 2.110.21	, h														
	登録	出土地点	rate Int	器 種	如 仕	法	量(cr	n)	産地	時 期	借	老	写真		
図版番号	番号	遺構·層位	種別	器 種	部 位	口径	底径	器高	生 地	H-QL 3401	PHI	- 9	図版		
Mr oo but 1			[25] 马旦	擂鉢	口縁部			(3.8)	岸窯系	17C後~18C初	錆釉。櫛目5条。		図版13-9		
第39図1	I-22	I層	陶器				1177	-			-10 11-10		10/14/E10 10		
第39図 2	I-23	IV層	陶器	小坏	口縁部~高台部	(5.6)	2.6	(1.8)	瀬戸・美濃	18C	灰釉。		図版13-10		
第39図3	I-24	SX1	磁器	碗	底部	_	(4.5)	(1.5)	肥前	18C前半	染付。見込み手描き五弁花。	高台裏二重圈線内渦福。	図版13-11		
				196		_	11000000	-			染付。蓮弁文。		図版13-12		
第39図 4	J-25	SX1	磁器	IIII	体部~底部	_	(8.4)	(1.6)	肥前	18C					
		P1確認面	土師質土器	焼塩壺	体部	1_	1-7	(31)	在地系	18C	外面格子タタキ目。ロクロ	成形。二次過熱痕なし。	図版13-13		
第39図 5	I-24	PI傩認則	上即貝上位	为它上血压已	바다마			(0.1)	TYPY	100	Almin 4 x 1 Ho x				

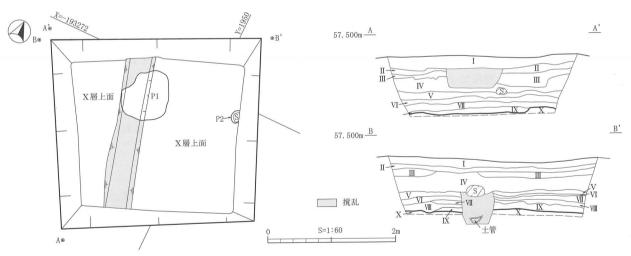
No.3トレンチ (第40図、図版8-7・8、図版9-1・2)

P1はトレンチ中央北に位置する。X層上面で確認した。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約82cm、短軸64cmを測る。堆積土は粘土質シルトである。遺物の出土はない。

P2はトレンチ東に位置する。X層上面で確認した。平面形は楕円形で、規模は上端の径約20cmを測る。堆積 土は粘土質シルトである。径約18cmの楕円で扁平な根石を伴う柱穴である。遺物の出土はない。

(2) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層 X 層上面でピット 2 基を確認した。基本層 X 層はNo.2 トレンチ基本層 Y 層に対応することから、基本層 X 層は近世の整地土である。遺構がこの整地土の下で検出されること並び X X に X の水況より、遺構確認面の基本層 X 層上面は、近世の遺構面と考える。



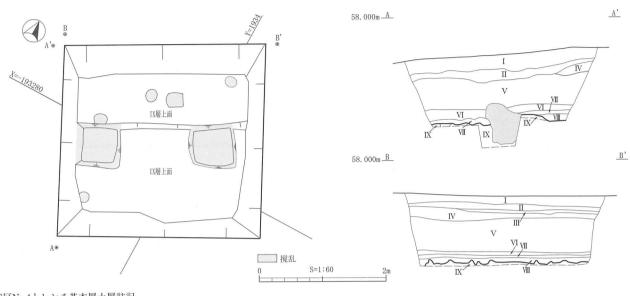
G区No.3	トレンチ基本	屬土層註記				
層位	土	色	土質	土	性しまり	備考
7 1	土色No.	土 色		粘性		四十十一十二十五十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十
I	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	現表土。草木痕多数。
II	7.5YR4/4	褐色	シルト	ややあり	あり	盛土。砂粒多量。
Ш	2.5Y4/3	オリーブ褐色		なし	なし	盛土。径5~10cmの円礫多量。
IV	10YR2/1		粘土質シルト	あり	なし	盛土。瓦礫多量。
V	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	盛土。砂粒・小礫少量。
VI	10YR1.7/1	黒色	砂質シルト	なし	あり	盛土。瓦礫。径5mm以下の炭化物粒多量。
VII	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂	なし	なし	盛土。10cm以下の円礫多量。鉄屑。
VIII	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	整地土。近代以降。径5mm以下の炭化物粒・細礫少量。
IX	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	整地土。近世。砂粒少量。
X	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。

G区No.3トレンチ遺構堆積土土層註記 備 老 遺構名 土 質 しまり 粘性 黒褐色 径1~2cmのにぶい黄褐色粘土質シルト粒多量。 粘土質シルト 確認而 P1 10YR3/1 暗褐色 粘土質シルト ややあり 褐色シルト粒少量。 10YR3/4 確認面

第40図 G区No.3トレンチ平面図・断面図

No.4トレンチ (第41図、図版 9 - 3 ~ 4)

N12・13-W37グリッドに位置する。トレンチは 3×3 mの方形で面積は9㎡である。掘削深度は約1.0mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。 I 層表土。 I 層~V 層まで瓦礫、小礫を多量に含む盛土。 V 層 に含む近代の整地土。 V 層がら粘土質シルトの自然堆積層である。遺構確認作業はV 層上面で行ったが、遺構の確認はない。遺物は陶磁器が撹乱および基本層からV 35点が出土した V 250、V 257。



G区No.4トレンチ基本層土層註記

層位	土	色	土質	土	性	備考
)曹位.	土色No.	土色	上具	粘性 しまり		
I	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	なし	現表土。炭化物粒・細礫少量。
II	7.5YR4/4	褐色	シルト	ややあり	あり	盛土。砂粒多量。
\blacksquare	10YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	盛土。
IV	2.5Y4/3	オリーブ褐色		なし	なし	盛土。
V	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし	盛土。瓦礫多量。
VI	10YR5/4	にぶい黄褐色		あり	あり	盛土。砂粒・小礫多量。
VII	10YR1.7/1	黒色	砂質シルト	あり	あり	整地土。近代。細礫・径5mm以下の炭化物粒多量。
VIII	10YR4/1		砂質シルト	あり	あり	整地土。近代。中礫多量・砂粒。炭化物粒少量。印判染付。
IX	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	自然堆積層。

第41図 G区No.4トレンチ平面図・断面図

No.5トレンチ (第42~43図、図版 9 - 5 ~ 6)

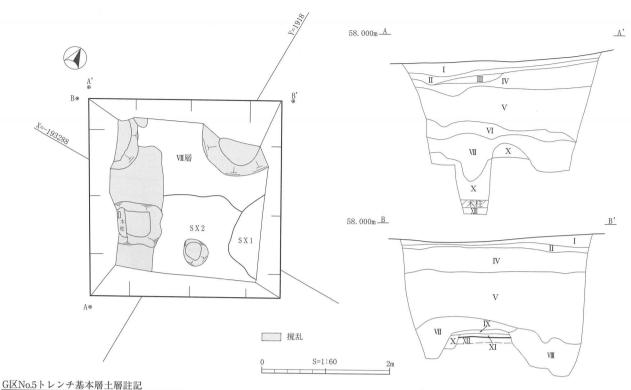
N12-W39グリッドに位置する。トレンチは3×3mの方形で面積は9㎡である。掘削深度は約1.7mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。 I 層表土。 II 層~XI 層まで瓦礫、細礫を含む盛土。 XI 層は粘土質シルトで自然堆積層。 XI 層は砂礫(段丘礫層)である。遺構確認作業は XI 層上面で行い、性格不明遺構2基を確認した。遺物は撹乱及び基本層、SX2確認面から磁器14点、瓦片1点が出土した。この内1点は近世の肥前染付大皿(第43図1)である。

(1) SX1·SX2 性格不明遺構 (第42図、図版9-6)

SX1はトレンチ東に位置する。 XI層上面で確認した。南側でSX2を切る。平面形は不明で、規模は上端の長軸約134cmを測る。堆積土は鉄分多量に含むグライ化した粘土質シルトで、遺物の出土はない。

(2) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層 XI 層上面で 2 基を確認した。基本層 XI 層は、No. 2 トレンチ基本層 V層、No. 3 トレンチ基本層 XI 層と層位が対応すること、遺構は XI 層を掘り込んでいないことから近世の遺構面と考えられる。

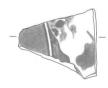


層位	土	色	土質	土	性	PHI at a
/H 122	土色No.	土 色	162 K	粘性	しまり	備考
I	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	現表土。草木痕多数。
\blacksquare	7.5YR4/4	褐色	シルト	ややあり	あり	盛土。砂粒多量。
Ш	7.5YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	盛土。径2~3cm黄白色シルトブロックを層状に多量。
IV	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂礫	なし		盛土。円礫・砂粒多量。
V	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	ややあり		盛土。瓦礫・レンガ片多量。
VI	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり		盛土。砂礫中量。瓦多量。
VII	2.5 Y 3 / 1	黒褐色	砂質シルト	なし		盛土。径1~5cm黄褐色。シルト少量。
VIII	5Y4/2	灰オリーブ	粘土質シルト	ややあり		盛土。細礫少量。
IX	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし		盛土。砂中量。炭化物粒少量。
X	5Y4/3	暗オリーブ	砂質シルト	なし		盛土。
XI	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	なし		盛土。径1~5cm黄褐色シルトブロック多量。印判染付。
XII	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	自然堆積層。
XIII	7.5YR4/3	褐色	砂礫	なし		自然堆積層(段丘礫層)。径15cm以下の円礫多量。

G区No.5トレンチ遺構堆積土土層註記

遺構名	層位	土	色	上,府	土	性	AND TO
		土色No.	土 色	1 上 頁	粘 性	しまり	備考
SX1	確認面	10YR5/1	褐灰	粘土質シルト	あり	ややあり	鉄分の沈着多量。グライ化。
SX2	確認面	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	あり	あり	径5~10mmのにぶい黄褐色シルト粒多量。鉄分の沈着多量。

第42図 G区No.5トレンチ平面図・断面図





図版看		登録 番号	出土 遺構・		種 別		器種		部	位
第43图		J-26	XI 層		石	兹器	大皿		体部	
法量(口径 底径		m) 器高	産	地	時	期	備		考	写真 図版
				草花文。	内外面貫入	図版13-14				

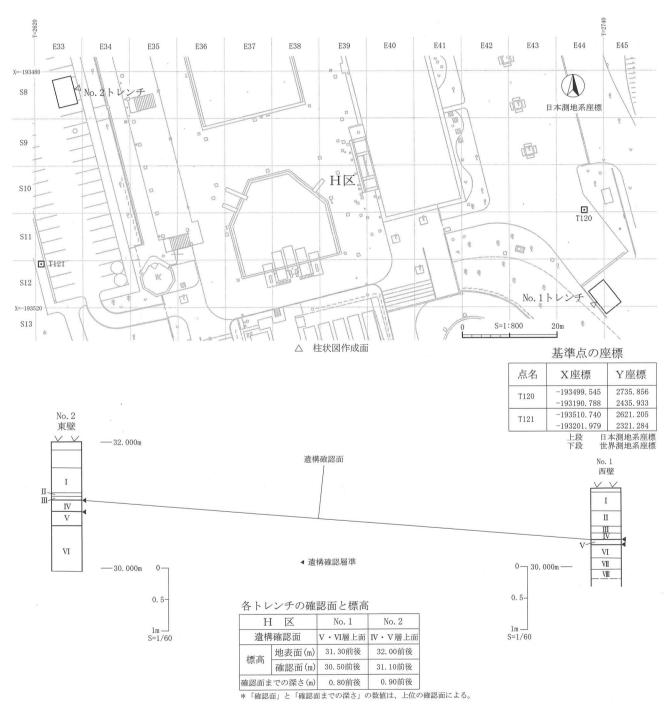


第43図 G区No.5トレンチ出土遺物

XI H区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

H区は西公園プール東側の遊歩道と、プール西側の駐車場に各 1 箇所ずつトレンチを設定した。トレンチ番号は東側からNo. 1、No. 2 と名称を付けた。なお対象区は予定路線内である。調査面積は各トレンチとも24 ㎡の計 48 ㎡である。基本層序はNo. 1 トレンチでは大別 8 層(I \sim \mathbb{W})、No. 2 トレンチでは大別 6 層(I \sim \mathbb{W})から成る。表土、盛土を除く、基本層の対応はなかった。



第44図 H区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 確認された遺構と遺物

No.1 トレンチ (第45~46図、図版 9 - 7~8、図版10-1~3)

S12-E44・45グリッドを中心に位置する。トレンチは北西方向に長軸を設定し、規模は4×6mの長方形で、面積は24㎡である。掘削深度は約1.0mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁、南壁で行った。 I 層表土から I 層整地土まで大別8層、細別14層からなる。 I 層~IV層は大礫、レンガ片、炭化物を含む盛土、V 層~II 層までは炭化物を少量含む近世の整地土である。遺構確認作業は II 層上面で行い、性格不明遺構7基を確認した。壁面観察で V 層上面から掘り込む遺構を確認したため、遺構確認面は基本層 V 層上面と基本層 V 層上面とした。

遺物は撹乱、基本層及びSX1、SX5、SX7から569点が出土した(**10・p57)。内訳は陶磁器類549点、瓦片18点、土製品1点、その他1点である。近世に属する資料は肥前染付皿(第46図2)、肥前染付碗(第46図3)、肥前染付広東碗(第46図4)がV層から出土している。

(1) SX1 性格不明遺構 (第45図、図版10-3)

SX1はトレンチ南側に位置する。V層上面で確認した。性格究明のため南側にサブトレンチを設定し掘り下げた。平面形は不明で、規模は上端の長軸約298cm、短軸約240cmを測る。さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は2層からなる。1層は細礫少量、炭化物多量含む砂質シルト。2層は炭化物、中礫含む砂質シルトである。出土遺物は49点で全て近世に属する。切込御神酒徳利(第46図5)、堤黒釉鉢(第46図6)、土製品の碁石(第46図8)が1層、唐津三島手象嵌大鉢(第46図7)が2層から出土している。

(2) SX 2 性格不明遺構 (第45図、図版10-3)

SX2はトレンチ西側に位置する。V層上面で確認した。堆積状況把握のため、サブトレンチを設定し一部掘り下げを行った。北側でSX7を切る。平面形は不明である。規模は上端の長軸約230cm、短軸約190cmを測る。さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は大別3層からなる。1層は炭化物を微量含む砂質シルト、2層は砂質シルト、3層は炭化物を微量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

(3) SX 3~7 性格不明遺構(第45図、図版10-3)

SX3はトレンチ中央に位置する。 VI層上面で確認した。北側でSX6を切っている。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約70cm、短軸約54cmを測る。上面より礫が多量に検出された。堆積土は炭化物少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

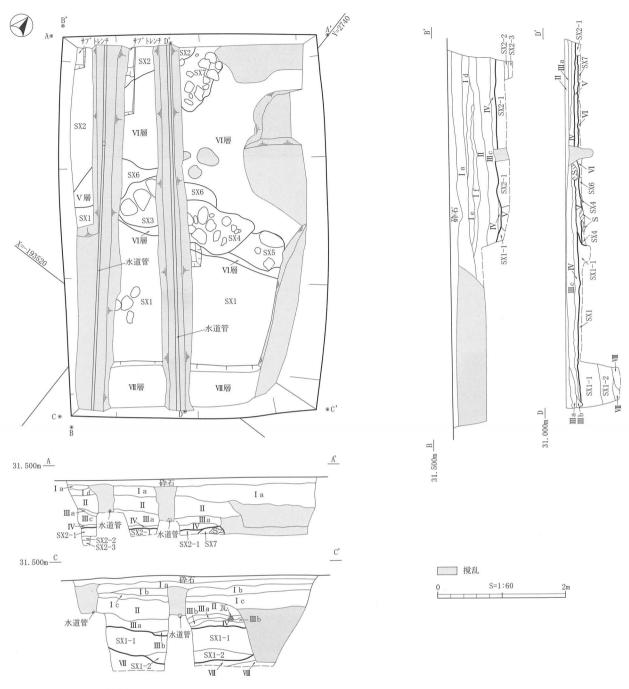
SX4 はトレンチ中央に位置する。 VI 層上面で確認した。 SX5 ESX6 を切る。平面形は不整楕円形で、規模は上端の長軸102cm、短軸70cmを測る。上面より礫が多量に検出された。堆積土は炭化物を少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

SX5はトレンチ中央東に位置する。VI層上面で確認した。西側でSX4に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸70cm、短軸60cmを測る。上面より礫が多量に検出された。堆積土は炭化物少量含む砂質シルトである。遺物は堤鉄釉擂鉢(第46図9)が1点出土した。

SX6はトレンチ中央西に位置する。VI層上面で確認した。南側でSX3、SX4に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約152cm、短軸約100cmを測る。堆積土は炭化物多量に含む砂質シルトである。遺物の出土はない。SX7はトレンチ北側に位置する。VI層上面で確認した。西側でSX2に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約110cm、短軸60cmを測る。上面より礫が多量に検出された。堆積土は炭化物少量含む砂質シルトである。遺物は肥前染付深皿(第46図10)が1点出土した。

(4) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層 V 層上面と基本層 VI 層上面で 7 基を確認した。基本層 V 層は、 V 層および遺構出土遺物がすべて近世の遺物で近代以降の遺物を混入しないことから、近世の整地土と考える。遺構確認面は V 層上面、 VI 層上面の 2 面で近世の遺構面と考える。遺構の確認状況からNo.1 トレンチの周辺の遺構密度は高いと推測される。



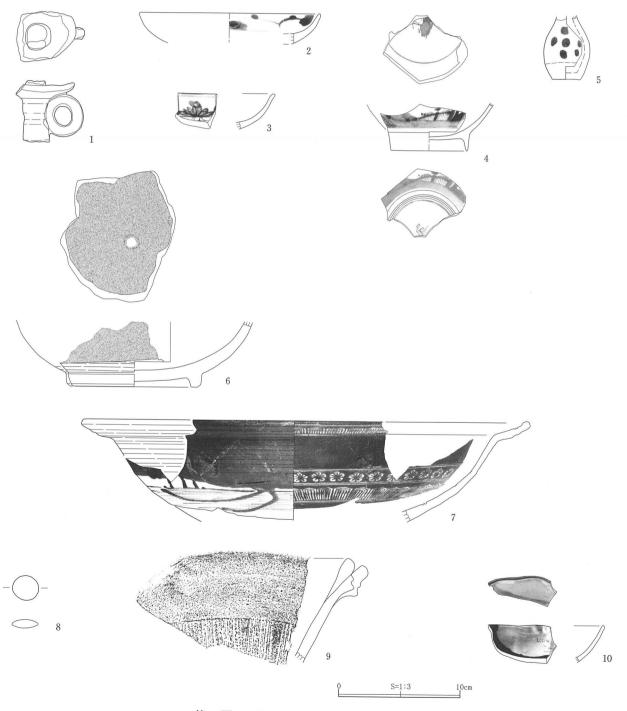
H区No.1トレンチ基本層土層註記	记
H区No.1トレンナ基本層工層註i	iΓ

H区No.1	トレンチ基本	僧土僧註記				
層位	土	色	土質	土	性	備考
層位	土色No.	土 色	上 貝	粘 性	しまり	,,,,
Ιa	10YR1.7/1	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし	盛土。大礫・レンガ片多量。砂粒少量。
Ιb	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂	なし	あり	盛土。砂粒・細礫中量。
Ιc	10YR2/1	黒色	砂	なし	あり	盛土。径1cm以下の炭化物多量。細礫中量。
Ιd	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂	なし	なし	盛土。粗粒砂。
Ιe	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	盛土。径5mm以下の焼土粒・炭化物粒微量。
Ιf	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	盛土。径5mm以下の炭化物粒。焼土粒少量。
I	10YR4/1	褐灰色	砂	なし	あり	盛土。径5mm以下の黄白色シルト粒多量。焼土粒微量。
Шa	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	盛土。径5mm以下の黄白色シルト粒・黄褐色シルト粒少量。炭化物粒・焼土粒微量。
Шb	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	なし	なし	盛土。砂粒少量。
IV	10YR3/1	黒褐色	砂	なし	なし	盛土。径5mm以下の炭化物粒多量。焼土粒少量・小礫少量。
V	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	整地土。近世。径5mm以下の炭化物粒少量。
VI	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	整地土。近世。V層より砂粒の径が小さい。炭化物粒微量。
VII	10YR4/4	褐色	シルト	あり	あり	整地土。近世。径2~3cmのにぶい黄褐色砂質シルトブロック少量。炭化物粒微量。
VIII	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	整地土。近世。径5mm以下の黄白色砂質シルト粒・黄褐色シルト粒多量。

第45図 H区No.1トレンチ平面図・断面図

H区No.1トレンチ遺構堆積十十層註記

11/27/10.1	1.000	退得堆積上	上眉註記				
遺構名	層位	土 土色No.	色 土 色	土質	土	性しまり	備考
SX1	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	ややあり	- 細礫少量。径3cm以下の炭化物多量。
SX1	2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径2cm以下の黄褐色シルトブロック多量。炭化物粒中量。中礫少量。
SX2	1	2.5 Y 3 / 3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	粗粒砂から成る。炭化物粒微量。
SX2	2	2.5Y7/3	浅黄色	砂質シルト	なし	なし	径5mm以下の暗褐色シルト粒中量。
SX2	3	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径5mm以下の炭化物粒微量。
SX3	2	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	5~30cmの礫。径2cm以下の炭化物少量。黄褐色シルト粒多量。
SX4	確認面	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし		5~30cmの礫。径2cm以下の炭化物少量。黄褐色シルト粒多量。
SX5	確認面	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし		5~30cmの礫。径2cm以下の炭化物少量。黄褐色シルト粒多量。
SX6	確認面	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし		径2cm以下の炭化物少量。黄褐色シルト粒多量。
SX7	確認面	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	なし		5~30cmの礫多量。径5mm以下の炭化物少量。



第46図 H区No.1トレンチ出土遺物

H区No1トレンチ出土陶磁器観察表

図版番号	登録	出土地点	種 別	器種	部 位	法 口径		n) 器高	産 地	時期	備考	写真 図版
第46図 1	番号 I-25	遺構·層位 Ⅲ層	陶器	灯明具	台部	—————————————————————————————————————	二 —	(4.9)	堤	19C前半	秉燭。鉄釉	図版13-15
第46図2	J-27	V層	磁器	III	口縁部~体部	(14.4)	-	(2.4)	肥前	18C	染付。草花文。	図版13-16
第46図3	J-28	V層	磁器	JML	口縁部~体部	-	_	(2.3)	肥前	18C	染付。花文。	図版13-17
第46図 4	J-29	V層	磁器	碗	体部~底部	_	(6.0)	(3.8)	肥前	19C	染付。広東碗。見込貝文。	図版13-18
第46図 5	J-30	SX1·1層	磁器	御神酒徳利	頸部~底部	_	2.2	(5.1)	切込	19C前半		
第46図 6	I-26	SX1·1層	陶器	鉢	体部~底部		(10.6)		堤		黒釉鉢。目跡有り。	図版13-20
第46図 7	I-27	SX1·2層	陶器	大鉢	口縁部~体部	(37.6)		(8.1)	唐津	17C後半	三島手象嵌。蓮弁文。花文。	図版13-21
第46図 9	I-28	SX5確認面	陶器	擂鉢	口縁部~体部	_	_	(8.4)	堤?	18C以降	鉄釉。櫛目7条。片口。	図版14-1
第46図10	J-31	SX7確認面	磁器	深皿	口縁部~体部	(16.6)	_	(2.8)	肥前	18C末~19C前半	染付。口錆。	図版14-2

H区No.1トレンチ出土土製品観察表

図版番号	登録 番号	出土地点 遺構·層位	種 別	器 種	法量 長径 5	: (cm) 豆径 厚さ	重量 (g)	時 期	備	考	写真 図版
第46図8	P-2	SX1·1層	土製品	碁石	2.1	2.0 0.6	2.1	近世	在地系?おはじき?		図版12-22

No. 2 トレンチ (第47~48図、図版10-4~8)

S8-E33グリッドに位置する。トレンチは北方向に長軸を設定し、規模は4×6mの長方形で面積は24㎡である。掘削深度は約2.0mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁、東壁で行った。I層盛土からⅥ層砂層まで大別6層、細別9層からなる。I層は瓦礫、コンクリート塊を含む盛土。Ⅱ層・Ⅲ層は礫、炭化物を含む盛土。Ⅳ層は炭化物粒を多量に含む近世の整地土。Ⅴ層から砂質シルトの自然堆積層となる。遺構確認作業はⅤ層上面で行い、ピット7基、性格不明遺構12基を確認した。壁面観察でⅣ層を掘り込む遺構を確認したため遺構確認面は基本層Ⅳ層上面と基本層Ⅴ層上面とした。

遺物は撹乱、基本層及びSX 1・3・4 確認面、SX 6 堆積土 1 層、SX 7・11確認面から254点が出土した (*゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚) 内訳は陶磁器類236点、瓦片11点、石製品 3 点、金属製品 2 点、土製品 1 点、縄文土器 1 点である。 IV 層及び各遺構の出土遺物の多くは近世に属するもので、IV 層からは土製品の碁石(第48図10)が出土している。

(1) P1~P7 ピット(第47図、図版10-8)

P1、P2 はトレンチの東側、P3 ~P7 はトレンチの西側に位置する。いずれも V 層上面で確認した。P1、P2 は SX12を切り、P3 は SX9 を切り SX8 に切られる。P5 は SX10に切られ、SX11を切っている。平面形は P4 が方形で、規模は 1 辺約 26 cm、他のピットは P1 で、規模は P3 と端の径約 P3 に切られる。 P5 は P5 は P5 に切られる。 P5 に切られる。 P5 は P5 に切られる。 P5 に切りまする。 P5 に切られる。 P5 に切られる。 P5 に対しまする。 P5 に

(2) SX1 · SX2 性格不明遺構 (第47図、図版10 - 8)

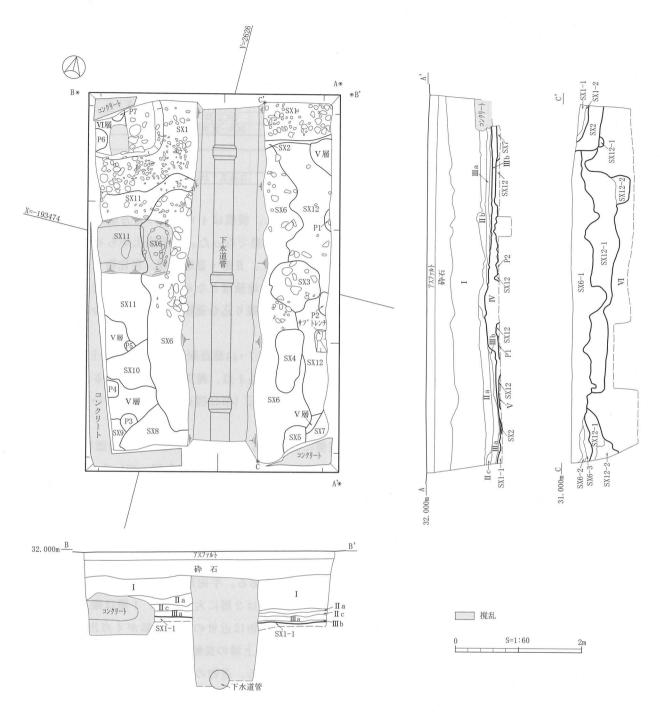
トレンチの北側に位置する。 V層上面で確認した。東壁の断面観察から V層を掘り込んでいることを確認したため、本来の遺構確認面は V層上面である。 SX 1 はSX 2、 SX11を切る。 平面形は不明で、規模は上端の長軸約384cm、短軸約130cmを測る。 さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は 2 層に大別され、 1 層は礫・炭化物を多量に含む砂質シルト、 2 層は細礫を少量含む砂質シルトである。 遺物は近世の陶磁器類が 4 点出土している。 SX 2 はSX 1 に切られ、 SX 6、 SX12を切る。 平面形は不明で、規模は上端の長軸約106cm、短軸約76cmを測る。 さらにトレンチ外に拡がる。 堆積土は小礫を少量含む砂質シルトである。 遺物の出土はない。

(3) SX3~SX5 性格不明遺構(第47図、図版10-8)

トレンチの東に位置する。 V層上面で確認した。 SX 3 はSX 6 、 SX12を切る。 平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約82cm、短軸約72cmを測る。 堆積土は礫多量に含む砂質シルトである。遺物は近世の肥前染付皿(第48図1)が出土した。 SX 4 はSX 6 、SX12を切る。 平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約100cm、短軸約36cmを測る。 堆積土は炭化物粒を多量に含む砂質シルト。遺物は近世の磁器 2 点が出土した。 SX 5 はSX 6、SX 7 を切る。 平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約36cm、短軸約32cmを測る。 堆積土は炭化物を多量に含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

(4) SX6 性格不明遺構 (第47図、図版10-8)

トレンチの中央に位置する。 V層上面で確認した。 SX $1\sim$ SX 5 に切られ、 SX 8 、 SX $10\sim$ SX 12 を切る。 平面 形は楕円形で、規模は上端の長軸約502cm、短軸約234cm、深さ90cmを測る。 底面は起伏がある。 撹乱壁の断面観察から堆積土は 4 層に大別された。 1 層から 3 層は礫多量に含む砂質シルト、 4 層は炭化物少量含む砂質シ



H区No.2トレンチ基本層土層註記

HZ.NO.2	トレノラを	个僧上僧註記	ì			
層位	土	色	土 質	土	性	備考
76 1.22	土色No.	土 色		粘 性	しまり	VIII 45
I	10YR2/2		砂質シルト	なし	あり	盛土。コンクリートガラ・円礫多量。瓦礫。
ΙΙa	10YR4/2	7	砂質シルト	なし	あり	盛土。にぶい黄褐色砂多量。径5~10mmの炭化物多量。
II b	10YR4/4	褐色	砂	なし	あり	盛土。混入物少なく均一。
II с	10YR4/3	にぶい黄褐色		なし	あり	盛土。径5~10mmの円礫多量。
Ша	10YR4/1		砂質シルト	なし	ややあり	盛土。径1~3cmの灰黄色砂ブロック少量。径2~5mmの炭化物粒少量。
Шb	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	盛土。混入物少なく均一。
IV	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	整地土。近世。にぶい黄褐色砂・径2~5mmの炭化物粒多量。円礫。
V	10YR5/3	にぶい黄褐色	細粒砂	あり	あり	自然堆積層。
VI	2.5Y5/4	黄褐色	砂	なし	なし	自然堆積層。

第47図 H区No. 2 トレンチ平面図・断面図

H区No.2トレンチ遺構堆積土土層註記

11210.2	1 0 0 /	退得堆積上。					
遺構名	層位	土	色	土質	土	性	備考
退得石	/智以.	土色No.	土色		粘 性	しまり	7/10 15
P1	確認面	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2~5mmの炭化物粒少量。
P2	確認面	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2~5mmの炭化物粒少量。
P3	確認面	10YR3/3	暗褐色	シルト	ややあり	ややあり	黄褐色砂粒斑状に多量。
P4	確認面	10YR4/3	にぶい黄褐色		ややあり	なし	径2~5mm褐色シルト粒多量。
P5	確認面	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径5mm以下の炭化物粒少量。
P6	確認面	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径5mm以下の炭化物粒少量。
P7	確認面	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径5mm以下の褐色シルト粒斑状に多量。
SX1	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	あり	あり	径5~10cmの円礫。径2~5mmの炭化物多量。
	2	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	あり	あり	褐色粗粒砂・細礫少量。
SX2	確認面	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややなし	径3~5mmの小円礫少量。
SX3	確認面	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	大礫多量。
SX4	確認面	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径2~5mmの炭化物粒多量。
SX5	確認面	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径2~5mmの炭化物粒多量。
	1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径10cm大の円礫多量。
SX6	2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径10~20cm大の円礫。暗灰黄色砂ブロック・炭化物粒少量。
340	3	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径10cm大の円礫。暗灰黄色砂。径2~5mmの炭化物多量。
	4	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2~5mmの炭化物粒少量。
SX7	確認面	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径5mm以下の炭化物粒少量。
SX8	確認面	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	灰黄褐色砂。径2~5mmの炭化物少量。
SX9	確認面	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	にぶい黄褐色砂多量。
SX10	確認面	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2~5mmの炭化物粒を少量。
	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2~5mmの炭化物粒少量。
SX11	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	径5mm以下の暗褐色砂質シルト粒多量。
	3	2.5 Y 5/3	黄褐色	砂	ややあり	ややあり	暗褐色砂質シルトブロック。径2~5mmの炭化物粒少量。
SX12	1	2.5Y4/3	暗灰黄色	砂	なし	あり	暗褐色砂質シルト。褐色砂質シルト。径2~5mmの炭化物粒多量。
JAIL	2	2.5 Y 5/3	黄褐色	砂	なし	なし	径2~5mmの炭化物粒を少量。

ルトである。遺物は堆積土1層より25点が出土した。全て近世に属するもので肥前染付碗(第48図2)、肥前染付碗(第48図3)、肥前染付鉢(第48図4)、大堀相馬鉄釉碗(第48図5)、大堀相馬灰釉蓋(第48図6)、大堀相馬白濁釉碗(第48図7)、硯(第48図8)、砥石(第48図9)等がある。

(5) SX7~SX12 性格不明遺構 (第47図、図版10-8)

SX7 はトレンチ南東角に位置する。 V 層上面で確認した。 SX5 に切られ、 SX12を切る。 平面形は不明で、規模は上端の長軸は約42cm、短軸は約22cmを測る。 さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は炭化物粒を含む砂質シルトで、遺物は錐先と考えられる金属製品が 1 点出土した。

SX8 はトレンチ南西に位置する。V 層上面で確認した。SX6 に切られ、SX9、P3 を切る。平面形は不明で、規模は上端の長軸は約108cm、短軸は約66cmを測る。さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は炭化物を少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

SX9はトレンチ南西角に位置する。V層上面で確認した。P3、SX8に切られる。平面形は不明で、上端の長軸は約50cm、短軸は約20cmを測り、トレンチ外に拡がる。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。

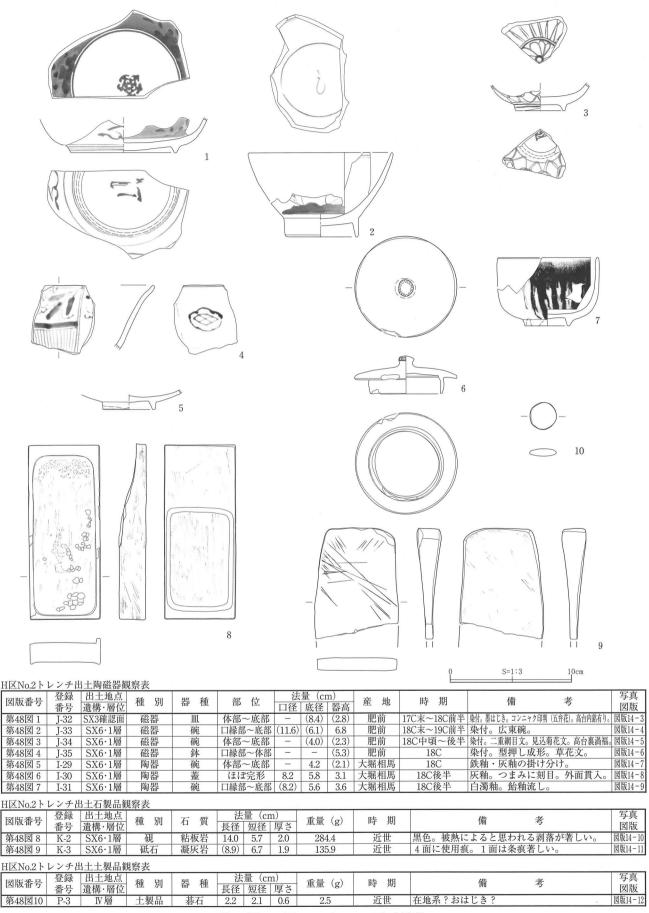
SX10はトレンチの南西に位置する。 V層上面で確認した。SX6に切られ、P5、SX11を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約70cm、短軸約64cmを測る。さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は炭化物粒を少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

SX11はトレンチ西側に位置する。 V層上面で確認した。SX1・SX6・SX10、P5に切られる。形状は不明で、規模は上端の長軸約400cmである。さらにトレンチ外に拡がる。撹乱壁の断面観察から堆積土は3層に大別され、1層・2層は炭化物粒を含む砂質シルトで、3層は炭化物粒を含む砂層である。遺物は堆積土1層から縄文時代中期の土器片が1点出土した。

SX12はトレンチ東側に位置する。 V 層上面で確認した。 $SX2 \sim SX4 \cdot SX6 \cdot SX7$ 、 $P1 \cdot P2$ に切られる。 平面形は不明で、規模は上端の確認長軸は500cm、さらにトレンチ外に拡がる。 撹乱壁の断面観察から堆積土は 2 層に大別される。 1 層は炭化物をやや多く含む砂層、2 層は炭化物を少量含む砂層である。遺物の出土はない。

(6) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層IV層上面・基本層 V層上面で19基を確認した。IV層の出土遺物は近世を主体としていることから近世の整地土と考える。遺構確認面は基本層IV層上面・基本層 V層上面の2面で、近世の遺構面と考える。遺構の確認状況からNo.2トレンチ周辺の遺構密度は高いと推測される。



第48図 H区No.2トレンチ出土遺物

∭ まとめ

この調査は、高速鉄道東西線建設事業及び都市計画道路川内旗立線(川内工区)の建設に伴い、確認・試掘調査として、前年度に引き続き行われた2年次の調査となる。調査区は仙台城跡及びその隣接地、川内A遺跡の隣接地、西公園地区を対象に22箇所のトレンチを設定した。野外調査は平成17年7月25日から同年11月1日まで行った。調査面積は421㎡である。

各区の確認遺構及び出土遺物

A区 (仮称国際センター駅部周辺:川内A遺跡隣接地)

2箇所の調査が行われた。No.7トレンチでは溝跡1条を確認した。溝堆積土には近代以降の遺物が混入せず、周辺(川内A遺跡)の状況から近世以前の遺構の可能性が高い。No.8トレンチでは遺構を確認できなかった。

B区 (扇坂トンネル部:仙台城跡隣接地試掘調査)

3箇所の調査が行われた。No.7トレンチ・No.8トレンチでは、近代以降の盛土が厚く、遺構面に達することが出来なかった。No.9トレンチでは、盛土下に流入土と考えられる層が厚く続き、遺構確認面を検出することが出来なかった。

C区(亀岡トンネル部:仙台城跡確認調査)

1箇所の調査が行われた。No.6トレンチでは近世の遺構面2面と整地層を確認した。確認された遺構は土坑3基、溝跡4条、ピット2基、性格不明遺構3基である。前年度の調査結果とあわせて周辺には近世の遺構が展開していると考えられる。

D区(仮称西公園駅部周辺)

3箇所の調査が行われた。No. 2トレンチ・No. 4トレンチでは黒褐色の自然堆積層を確認した。内でもNo. 4トレンチの自然堆積層の残存状況は良好であった。No. 2トレンチでは近世以前の遺構面を1面確認した。確認された遺構は性格不明遺構1基である。No. 3トレンチでは黒褐色の自然堆積層は確認されず、近世と近世以前の遺構面2面と近世の整地層を確認した。確認された遺構は性格不明遺構7基である。

E区(仮称川内駅部:仙台城跡確認調査)

3箇所の調査が行われた。No.1トレンチでは近世の遺構面1面と整地層を確認した。確認された遺構はピット9基、性格不明遺構4基である。No.2トレンチでは近世の遺構面を1面確認した。確認した遺構はピット15基、性格不明遺構1基である。No.3トレンチは近代以降に削平されており、近世の遺構は確認できなかった。E区東側には、近世の遺構の広がりが期待できる。

F区(仮称川内駅部:仙台城跡確認調査)

3箇所の調査が行われた。調査区の大部分は撹乱されているため、近世の遺構は確認できなかった。No.3トレンチより北へ1 mの地点で、アスファルト舗装の陥没により近世の井戸跡1 基を確認した。周辺は攪乱により大部分が削平されていると思われるが、井戸跡等の深く掘られた遺構は残存している。

G区 (扇坂トンネル部:仙台城跡確認調査)

5 箇所の調査が行われた。No.1トレンチでは近世の遺構面1面と整地層を確認した。確認された遺構は性格不明遺構1基である。No.2トレンチでは近世の遺構面2面と整地層を確認した。確認された遺構はピット7基、性格不明遺構3基である。No.3トレンチでは近世の遺構面1面と整地層を確認した。確認された遺構はピット2基である。P2は根石を伴い、周辺に建物跡が展開している可能性が高い。No.4トレンチでは遺構を確認できなかった。No.5トレンチでは近世の遺構面を1面確認した。確認された遺構は性格不明遺構2基である。G区周辺には、近世の遺構が高い密度で分布していると考えられる。

H区(仮称西公園駅部周辺)

2箇所の調査が行われた。No.1トレンチでは近世の遺構面2面と整地層を確認した。確認された遺構は性格不明遺構7基である。No.2トレンチでは近世の遺構面2面と整地層を確認した。確認された遺構はピット7基、性格不明遺構12基である。両トレンチとも近世の遺物が多量に出土しており、遺構の残存状況も良好で、周辺には近世の遺構が広く展開しているものと思われる。

表 2 確認遺構集計表

御木区	А	X		B区		C区		D区			E区			F区				G区.			Н	<u>Z</u>	合計
調査区	No.7	No.8	No.7	No.8	No.9	No.6	No.2	No.3	No.4	No.1	No.2	No.3	No.1	No.2	No.3	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.1	No.2	пп
SK						3																	3
SX						3	1	7		4	1					1	3			2	7	12	41
SD	1					4																	5
P						2				9	15						7	2				7	42
合計	1					12	1	7		13	16					1	10	2		2	7	19	91

表 3 A区出土遺物集計表

トレンチ名	出土層位	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦· 軒平瓦	その他 の瓦	陶器・ 瓦質・ 土師質	磁器	石器・ 石製品	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計		備	考
1		А	F	G	H	I	J	K	N	0	P	X	点	1		
	撹乱	0	1	0	5	7	2	0	0	0	0	0	15	明治、	近世。	
No.7トレンチ	II~IV層	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	近世。		
	SD1·1層	4	0	. 0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	縄文。		
合	計	4	1	0	5	8	3	0	0	0	0	0	21			

表 4 B区出土遺物集計表

トレンチ名	出土層位	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦· 軒平瓦	その他 の瓦	陶器・ 瓦質・ 土師質	磁器	石器・ 石製品	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計	備考
		Α	F	G	Н	I	J	K	N	0	P	X	点	
No.8トレンチ	Ⅲ層	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3	明治以降。
No.9トレンチ	IV層	9	0	1	1	10	8	0	1	1	0	0	31	縄文、近世、明治以降。
合	計	9	0	1	1	11	10	0	1	1	0	0	34	

表 5 C区出土遺物集計表

トレンチ名	出土層位	縄文土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦· 軒平瓦	その他 の瓦	陶器・ 瓦質・ 土師質	磁器	石器・ 石製品	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計	備考
		А	F	G	Н	I	J	K	N	0	P	X	点	
	Ⅱ層	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0		幕末~明治。
No.C.L.L. V.S.	Ⅲ層	0	0	0	0	6	12	0	0	0	0	0		19C~幕末、明治以降。
No.6トレンチ	IV層	0	0	0	0	7	4	0	0	0	0	0	11	明治以降。
	V層	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	5	近世。
合	計	0	0	0	0	15	23	0	0	0	0	0	38	

表 6 D区出土遺物集計表

トレンチ名	出土層位	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦· 軒平瓦	その他 の瓦	陶器・ 瓦質・ 土師質	磁器	石器· 石製品	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計	備考
		A	F	G	H	I	J	K	N	0	P	X	点	
	I層	1	1	0	2	49	117	1	2	0	1	1		明治以降を主、近世含む。
	Ⅱ層	0	0	0	1	41	87	0	0	0	0	0		明治以降を主、近世含む。
No.2トレンチ	IV層	0	0	0	0	16	32	0	1	1	0	0		明治以降を主、近世含む。
	W~IX層	0	1	0	0	13	27	0	0	0	0	0	41	明治以降を主、近世含む。
	IX層	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	17C前半。
	I層	0	2	2	10	61	104	1	2	0	1	0		明治以降を主、近世含む。
	Ⅲ層	0	2	0	0	7	19	0	0	0	0	0		明治以降。
No.3トレンチ	VI層	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	20	明治以降を主、近世含む。
10.5 0 2 7	VII	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	7	骨。
	X層	0	0	0	0	9	3	0	0	13	0	0	25	近世。
	XII 層	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	近世。
	撹乱	0	1	1	4	17	17	0	0	0	0	0	40	明治以降を主、近世含む。
No.4トレンチ	I~Ⅲ層	0	0	0	1	2	2	0	0	0	0	0	5	幕末~明治。
	Ⅲ層	0	2	0	2	6	27	1	0	0	0	0	38	明治以降を主、近世含む。
合	計	1	9	3	20	243	435	3	5	21	2	1	743	

表7 E区出土遺物集計表

トレンチ名	出土層位	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦· 軒平瓦	その他 の瓦	陶器・ 瓦質・ 土師質	磁器	石器・ 石製品	金属 製品	自然遺物	土製品	その他	合計	備考
		A	F	G	Н	I	J	K	N	0	P	X	点	
	I層	0	0	0	0	5	13	0	0	0	0	0	18	明治以降を主、近世含む。
	V層	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	6	幕末~明治。
No.1トレンチ	VI層	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3	近世。
NO.1 トレンテ	SX2·確認面	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	19C~幕末。
1	SX3·確認面	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	近世。
	SX4·確認面	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	6	近世。
No.2トレンチ	撹乱	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	近世。
No.3トレンチ	撹乱	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	明治以降。
NO.3 1 V 27	IV層	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	Ĩ	近世。
合	計	0	0	0	0	16	30	0	0	0	0	0	46	

表 8 F区出土遺物集計表

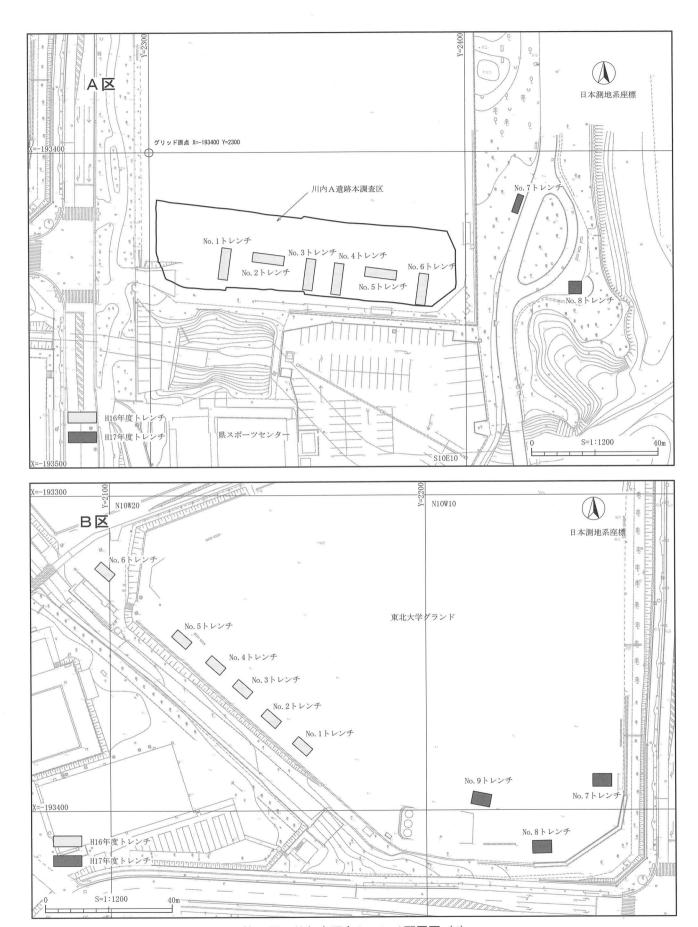
トレンチ名	出土層位	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦		陶器・ 瓦質・ 土師質	磁器	石器・ 石製品	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計	備考
		A	F	G	Н	I	J	K	N	0	P	X	点	
No.1トレンチ	撹乱	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3	近世、明治。
10.11-007	IV層	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	明治。
No.2トレンチ	撹乱	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	6	明治以降。
10.2 1 0 2 7	I層	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	19C~幕末。
No.3トレンチ	IV層	0	0	0	0	6	14	0	0	0	0	0	20	明治以降を主、近世含む。
10.51.007	V層	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	4	明治以降。
合	計	0	0	0	0	8	27	0	0	0	0	1	36	

表 9 G区出土遺物集計表

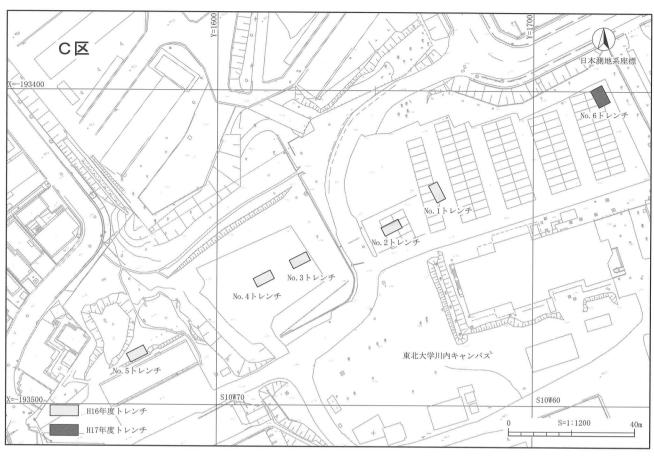
トレンチ名	出土層位	縄文土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦· 軒平瓦	その他 の瓦	陶器・ 瓦質・ 土師質	磁器	石器・ 石製品	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計	備考
		Α	F	G	Н	I	J	K	N	0	P	X	点	
	撹乱	0	0	0	1	3	8	0	0	0	0	0	12	明治以降を主、近世含む。
	I層	0	0	0	3	10	76	0	2	0	0	3	94	明治以降。
	I ~Ⅲ層	0	0	0	0	6	8	0	0	0	0	0	14	明治以降を主、近世含む。
	Ⅱ・Ⅲ層	0	1	0	0	6	5	0	0	0	0	0	12	明治以降。
No.1トレンチ		0	0	0	35	3	1	0	0	0	0	0	39	明治以降を主、近世含む。
	SX1·1層	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	8	18C、19C~幕末。
	IV層	0	0	0	0	3	3	1	0	0	0	0	7	19C~幕末。
	V層	0	0	0	1	11	9	0	0	0	0	0	21	近世。
	VI層	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	4	近世。
	I層	0	0	0	0	2	3	0	1	0	0	0	6	明治以降。
No 9 k レンチ	SX1·確認面 W 層	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	6	近世。
	1V /NEE	0	0	0	0	13	7	0	0	0	1	0	21	19C~幕末。
	P1·確認面	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	近世。
No.3トレンチ	WI層	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	4	近世、明治以降。
110.0	L IX 僧	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	近世。
No.4トレンチ	撹乱	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	23	明治以降。
110.4 P 7 /	Ⅷ層	0	0	0	0	1	11	0	0	0	0	0	12	近世、明治以降。
	撹乱	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	明治以降。
No.5トレンチ	Ⅲ層	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	明治以降。
	XI 層	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4	明治以降。
	SX2·確認面	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	近世。
合	計	0	3	0	40	70	180	1	3	0	1	3	301	

表 9 H区出土遺物集計表

20 11	ГСИТЕ	2100 74 1	11 200											
トレンチ名	出土層位	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦· 軒平瓦	その他 の瓦	陶器・ 瓦質・ 土師質	磁器	石器・ 石製品	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計	備考
		Α	F	G	Н	I	J	K	N	0	P	X	点	
	撹乱	0	5	3	4	59	122	0	0	0	0	1	194	明治以降を主、近世含む。
	I~IV層	0	0	0	0	25	25	0	0	0	0	0	50	明治以降を主、近世含む。
1	I層	0	0	0	0	16	56	0	0	0	0	0	72	明治以降を主、近世含む。
	Ⅱ層	0	1	0	0	23	57	0	0	0	0	2	83	明治以降を主、近世含む。
	Ⅱ・Ⅲ層	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	4	明治以降を主、近世含む。
	Ⅲ層	0	0	0	2	51	49	0	0	0	0	0	102	明治以降を主、近世含む。
No.1トレンチ		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	近世。
1	SX1·確認面	0	0	1	0	25	21	0	0	0	1	0	48	近世。
	SX1·2層	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	17C後半。
	V層	0	1	0	1	3	8	0	0	0	0	0	13	近世。
ļ	SX5·確認面	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	18C ₀
	SX7·確認面	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	18C末~19C前半。
	VI層	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	近世。
	撹乱	0	0	0	0	14	33	1	0	0	0	0	48	明治以降を主、近世含む。
	I層	0	1	0	1	4	17	0	1	0	0	0	24	明治以降を主、近世含む。
	Ⅲ層	0	2	0	0	44	17	0	0	0	0	0	63	明治以降を主、近世を含む。
	SX1·確認面	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	4	19C~幕末。
No.2トレンチ	IV層	0	1	0	1	64	18	0	0	0	0	0	85	近世を主。わずかに明治を含む(混入か)。
110.21	SX3·確認面	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	17C~18C前半。
	SX4·確認面	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	近世。
	SX 6 ·1層	0	5	0	0	10	8	2	0	0	0	0	25	近世。
	SX7·確認面	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	近世。
	SX11·確認面	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	縄文。
合	計	1	16	4	9	349	436	3	2	0	2	3	825	



第49図 前年度調査トレンチ配置図 (1)





第50図 前年度調査トレンチ配置図 (2)

参考文献

仙台市教育委員会 2002 『仙台城跡 1 - 平成13年度調査報告書 - 』(仙台市文化財調査報告書第259集)

仙台市教育委員会 2003 『仙台城跡 2 - 平成14年度調査報告書-』(仙台市文化財調査報告書第264集)

仙台市教育委員会 2004 『仙台城跡 3 -平成15年度調査報告書 -』(仙台市文化財調査報告書第270集)

仙台市教育委員会 2004 『仙台城跡 4 - 平成15年度調査報告書 - 』(仙台市文化財調査報告書第271集)

仙台市教育委員会 1997 『養種園遺跡』(仙台市文化財調査報告書第214集)

仙台市教育委員会 2005 『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告書(仙台市文化財調査報告書第289集)』

仙台市史編さん委員会 2004 『仙台市史 通史編5 近世3』

仙台市史編さん委員会 1994 『仙台市史 特別編1自然』

仙台市史編さん委員会 1995 『仙台市史 特別編2考古資料』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1994 『東北大学埋蔵文化財調査年報 7』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997 『東北大学埋蔵文化財調査年報 8』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000 『東北大学埋蔵文化財調査年報 13』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2005 『東北大学埋蔵文化財調査年報 18』

兵庫埋蔵銭調査会 1996 『日本出土銭総覧』

九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』

写 真 図 版





1. A区No.7トレンチ着手前(北より)



3. A区No.7トレンチ西壁断面南側(東より)



5. A区No.7トレンチ完掘状況(南西より)



7. A区No.8トレンチ北壁断面(南より)



2. A区No.7トレンチ北壁断面(南より)



4. A区No.7トレンチ西壁断面北側(東より)



6. A区No.8トレンチ着手前(南西より)



8. A区No.8トレンチIV層上面確認状況(西より)

図版1 A区



1. B区No.7トレンチ着手前(西より)



3. B区No.7トレンチ VI 層上面確認状況(南より)



5. B区No.8トレンチ南壁断面(北より)



7. B区No.9トレンチ着手前(北より)



2. B区No.7トレンチ北壁断面(南より)



4. B区No.8トレンチ着手前(北より)



6. B区No.8トレンチ XI 層上面確認状況(北西より)



8. B区No.9トレンチ南壁断面(北より)

図版 2 B区(1)



1. B区No.9トレンチ X 層上面確認状況(東より)



3. C区No.6トレンチ北壁断面(南より)



5. C区No.6トレンチ西壁断面北側(東より)



7. D区No.2トレンチ着手前(北西より)



2. C区No.6トレンチ着手前(南より)





チVI層上面確認状況(北より)



8. D区No.2トレンチ北壁断面(南より)

図版 3 B区(2) · C区 · D区(1)



1. D区No.2トレンチ西壁断面(東より)



3. D区No.3トレンチ着手前(南より)



5. D区No.3トレンチSX1確認状況 (北より)



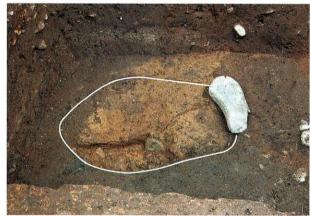
7. D区No.3トレンチ皿層上面遺構確認状況(西より)



2. D区No.2トレンチ巡層上面遺構確認状況(南東より)



4. D区No.3トレンチ南壁断面(北より)



6. D区No.3トレンチSX2完掘状況 (東より)



8. D区No.4トレンチ着手前(南より)

図版 4 D区(2)



1. D区No.4トレンチ西壁断面(東より)



3. E区No.1トレンチ着手前(北より)



5. E区No.1トレンチ西壁断面南側(東より)



7. E区No.1トレンチ呱層上面遺構確認状況(北より)



2. D区No.4トレンチX層上面確認状況(南より)



4. E区No.1トレンチ北壁断面(南より)



6. E区No.1トレンチ西壁断面北側(東より)



8. E区No.2トレンチ着手前(西より)

図版 5 D区(3) · E区(1)



1. E区No.2トレンチ北壁断面(南より)



3. E区No.2トレンチIV層上面遺構確認状況 (東より)



5. E区No.3トレンチ西壁断面(東より)



7. F区No.1~No.3トレンチ着手前 (西より)



2. E区No.2トレンチ西壁断面(東より)



4. E区No.3トレンチ着手前(北より)



6. E区No.3トレンチ V 層上面確認状況(南より)



8. F区No.1トレンチ西壁断面(東より)

図版 6 E区(2) · F区(1)



1. F区No.1トレンチ V 層上面確認状況(南より)



3. F区No.2トレンチV層上面確認状況(南より)



5. F区No.3トレンチ VI 層上面確認状況(北より)



7. G区No.1トレンチSX1ベルト断面(西より)



2. F区No.2トレンチ北壁断面(南より)



4. F区No.3トレンチ西壁断面(東より)



6. G区No.1トレンチ着手前(西より)



8. G区No.1トレンチ北壁断面西側(南より)

図版7 F区(2)・G区(1)



1. G区No.1トレンチ北壁断面東側(南より)



3. G区No.2トレンチ着手前(北より)



5. G区No.2トレンチ西壁断面(東より)



7. G区No.3~No.5トレンチ着手前(西より)



2. G区No.1トレンチ V層・W層上面確認状況(西より)



4. G区No.2トレンチ北壁断面(南より)



6. G区No.2トレンチV層上面遺構確認状況(北より)



8. G区No.3トレンチ西壁断面(東より)

図版 8 G区(2)



1. G区No.3トレンチP2確認状況(西より)



3. G区No.4トレンチ北壁断面(南より)



5. G区No.5トレンチ西壁断面(東より)



7. H区No.1トレンチ着手前(南より)



2. G区No.3トレンチX層上面遺構確認状況(南より)



4. G区No.4トレンチIX層上面確認状況(東より)



6. G区No.5トレンチ XII 層上面遺構確認状況(北より)



8. H区No.1トレンチ西壁断面南側(東より)

図版 9 G区(3) · H区(1)



1. H区No.1トレンチ西壁断面(東より)



3. H区No.1トレンチV層上面遺構確認状況(南より)



5. H区No.2トレンチ東壁断面南側(西より)



7. H区No.2トレンチ北壁断面(南より)



2. H区No.1トレンチ北壁断面(南より)



4. H区No.2トレンチ着手前(南より)



6. H区No.2トレンチ東壁断面北側(西より)

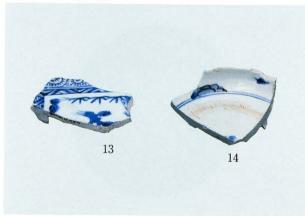


8. H区No.2トレンチV層上面確認状況(北より)

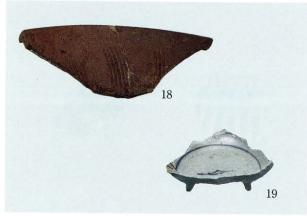
図版10 H区(2)



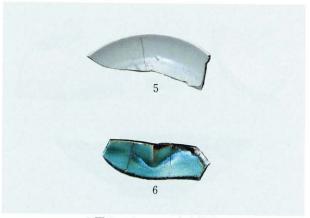
B区No.9トレンチ出土遺物



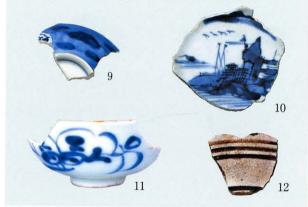
D区No.2トレンチ出土遺物



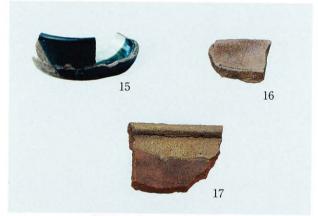
D区No.2トレンチ出土遺物



B区No.9トレンチ出土遺物



C区No.6トレンチ出土遺物



D区No.2トレンチ出土遺物



D区No.2トレンチ出土遺物

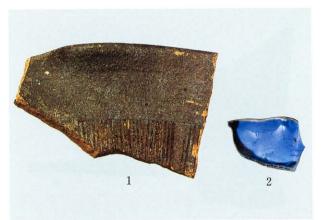
図版11 A区・B区・C区・D区出土遺物



図版12 D区・E区・F区出土遺物



図版13 G区·H区出土遺物



H区No.1トレンチSX5・7出土遺物



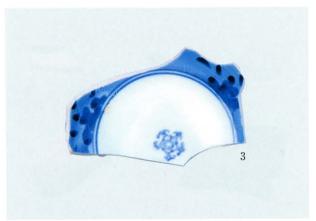
H区No.2トレンチSX6出土遺物



H区No.2トレンチSX6出土遺物



H区No.2トレンチSX6出土遺物



H区No.2トレンチSX3出土遺物



H区No.2トレンチSX6出土遺物



H区No.2トレンチSX6出土遺物



H区No.2トレンチSX3・IV層出土遺物

図版14 H区出土遺物

報告 書 抄 録

ふりがな	せんだいしこうそくてつどうとうざいせんかんけいいせきはっくつちょうさ(2)がいようほうこくしょ									
書名	仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2)概要報告書									
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書									
シリーズ番号	第302集									
編著者名	佐藤甲二 竹内俊之 山崎良二 土橋尚起 守谷健吾 小林孝彰									
編集機関	仙台市教育委員会									
所 在 地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 TEL 022 (214) 8893~8894									
発行年月日	2006年 3月									
ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふ り が 所 在	な地	市町村	ー ド 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)		調査原因
まんだいじょう あと ほか 仙台 城 跡 他	A や ざけんせんだい し 宮城県仙台市 恵まはくる事業山 青葉区青葉山 かわうち さくらが おかこ 川内・桜ケ丘公	うえん ス	04100	宮城県 01033	38° 15′ 33″ , 38° 15′ 38″	140° 51′ 45″ √ 140° 50′ 59″	発掘調査 2005.7.25~ 2005.11.1	421 m²		仙台市高速鉄 道東西線建設 事業及び川内 旗立線建設に 伴う確認・試 掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構			主な遺物		特記事項	
がないなうまた (数 仙台 城 跡 他	散布地域館跡その他の遺構	縄文時代 江戸時代		土坑 ピット・溝跡 性格不明遺構		近世	縄文土器 近世陶磁器 瓦・土製品・石製品			

仙台市文化財調查報告書第302集 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調查(2)概要報告書

2006年3月

発 行 仙台市教育委員会宮城県仙台市青葉区国分町三丁目 7 - 1文化財課 022(214)8893

印 刷 株式会社 東北プリント

本 社 仙台市青葉市立町 24-24

工 場 仙台市若林区鶴代町 5-80

